

タイトル	北海道における失業・不安定就業問題(1) : 建設業で働く季節労働者
著者	川村, 雅則
引用	季刊北海学園大学経済論集, 55(2): 103-175
発行日	2007-09-00

《研究ノート》

北海道における失業・不安定就業問題（Ⅰ）

— 建設業で働く季節労働者 —

川 村 雅 則

I. はじめに

不安定な就業・生活を強いられる人々が増えている。格差社会をめぐる議論は、貧困をめぐる議論へと歩を進めつつあるように思われる。筆者も、そうした議論に資料的な貢献をしたい。本稿を皮切りに、彼ら（彼女らを含む、以下、同様）の仕事や生活あるいは健康の実態について、報告していく。第一報となる本稿では、建設業で働く季節労働者を取りあげる。

まず本稿では、先行研究にならって、北海道における失業・不安定就業¹の規模を政府

統計で概観した後、建設政策研究所北海道センター（以下、「建政研北海道センター」）²が、同センターのメンバーでもある全日本建設交運一般労働組合北海道本部（略称、建交労道本部）からの委託で実施した、季節労働者を対象とした二つの調査結果を報告する³。

II. 政府統計にみる北海道の失業・不安定就業，季節労働

図2-1は、総務省「労働力調査」（以下、「労調」）から作成した完全失業率と労働力人口比率の推移である。どの時期においても、

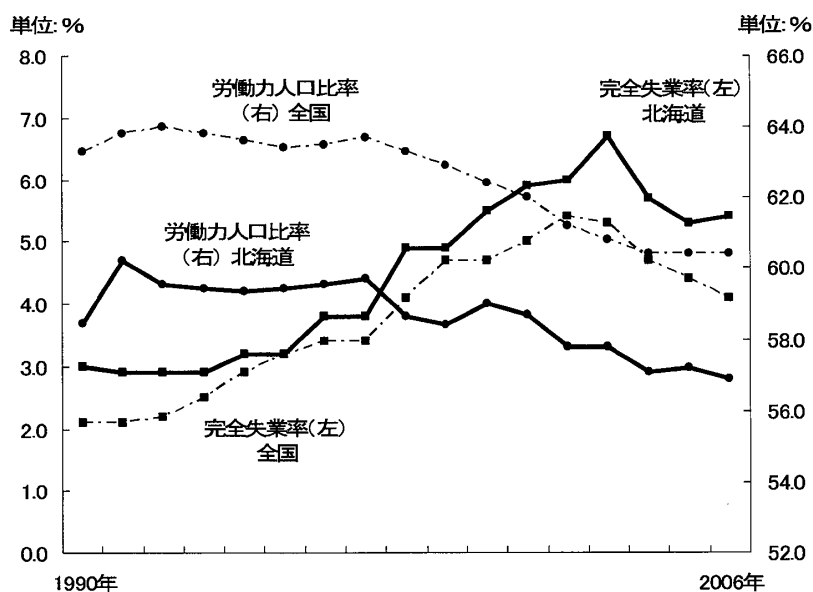


図2-1 北海道及び全国の完全失業率及び労働力人口比率の推移

出所：総務省「労働力調査」より作成（平成11年より以前の北海道データは同省から提供されたプリントアウトデータ）。

表2-1 「就業構造基本調査」

			1974			1977			1979			
			総数	男性	女性	総数	男性	女性	総数	男性	女性	
北海道	失業者	1. 無業者の就業希望者	486	78	408	522	82	440	547	86	461	
		(1) 求職者	167	38	129	189	47	142	211	45	166	
		(2) 非求職者	319	40	279	333	35	298	336	41	295	
	不安定雇用の諸指標	半失業	2. 不安定雇用形態(全産業)	224	101	123	257	106	151	323	132	191
			(1) 臨時雇	172	78	94	172	64	108	210	77	133
			(2) 日雇	43	23	20	76	42	34	102	55	47
			(3) 内職者	9	0	9	9	0	9	11	0	11
	部分失業	3. 短時間就業者(全産業・就業者)	428	199	229	477	215	262	502	211	290	
		(1) 年間200日以上週35時間未満	86	36	50	78	22	56	96	24	71	
		(2) 年間200日未満	342	163	179	399	193	206	406	187	219	
失業不安定就業者の総計(1+3)			914	277	637	999	297	702	1049	297	751	
労働力人口(全産業)			2360	1580	780	2370	1570	800	2470	1640	830	
失業不安定就業者率(対労働力人口比)	失業不安定就業者率		38.7	17.5	81.7	42.2	18.9	87.8	42.5	18.1	90.5	
	うち無業者の就業希望者		20.6	4.9	52.3	22.0	5.2	55.0	22.1	5.2	55.5	
	うち求職者率		7.1	2.4	16.5	8.0	3.0	17.8	8.5	2.7	20.0	
	うち非求職者率		13.5	2.5	35.8	14.1	2.2	37.3	13.6	2.5	35.5	
	うち短時間就業者率		18.1	12.6	29.4	20.1	13.7	32.8	20.3	12.9	34.9	
	うち年間200日以上週35時間未満率		3.6	2.3	6.4	3.3	1.4	7.0	3.9	1.5	8.6	
うち年間200日未満率		14.5	10.3	22.9	16.8	12.3	25.8	16.4	11.4	26.4		
全国	失業者	1. 無業者の就業希望者	9217	1460	7757	10698	2006	8692	10353	1829	8524	
		(1) 求職者	3506	766	2740	4090	1096	2995	4127	1032	3095	
		(2) 非求職者	5710	692	5018	6608	910	5697	6226	797	5429	
	不安定雇用の諸指標	半失業	2. 不安定雇用形態(全産業)	3524	1326	2199	4444	1556	2888	5309	1748	3562
			(1) 臨時雇	1910	743	1167	2205	705	1500	2732	820	1912
			(2) 日雇	901	550	352	1470	831	639	1639	901	738
			(3) 内職者	713	33	680	769	20	749	938	27	912
	部分失業	3. 短時間就業者(全産業・就業者)	9333	3796	5537	10179	4019	6161	10826	4083	6743	
		(1) 年間200日以上週35時間未満	2171	830	1341	1812	564	1249	2210	623	1587	
		(2) 年間200日未満	7162	2966	4196	8367	3455	4912	8616	3460	5156	
失業不安定就業者の総計(1+3)			18550	5256	13294	20877	6025	14853	21179	5912	15267	
労働力人口(全産業)			53100	33110	19990	54520	33810	20700	55960	34370	21600	
失業不安定就業者率(対労働力人口比)	失業不安定就業者率		34.9	15.9	66.5	38.3	17.8	71.8	37.8	17.2	70.7	
	うち無業者の就業希望者		17.4	4.4	38.8	19.6	5.9	42.0	18.5	5.3	39.5	
	うち求職者率		6.6	2.3	13.7	7.5	3.2	14.5	7.4	3.0	14.3	
	うち非求職者率		10.8	2.1	25.1	12.1	2.7	27.5	11.1	2.3	25.1	
	うち短時間就業者率		17.6	11.5	27.7	18.7	11.9	29.8	19.3	11.9	31.2	
	うち年間200日以上週35時間未満率		4.1	2.5	6.7	3.3	1.7	6.0	3.9	1.8	7.3	
うち年間200日未満率		13.5	9.0	21.0	15.3	10.2	23.7	15.4	10.1	23.9		

出所：総務省「就業構造基本調査」より作成。但し、労働力人口のみ同省「労働力調査」より。岩井(2000)に
 ならって作成。

にみる北海道及び全国の失業構造

単位：千人，%

1982			1987			1992			1997			2002		
総数	男性	女性	総数	男性	女性	総数	男性	女性	総数	男性	女性	総数	男性	女性
532	104	428	576	149	427	472	114	358	529	151	378	551	187	363
210	61	150	251	86	164	177	52	125	246	91	156	250	109	141
322	43	278	325	63	263	295	62	233	283	60	222	301	78	222
375	132	243	348	130	219	—	—	—	—	—	—	—	—	—
273	89	184	260	84	177	—	—	—	—	—	—	—	—	—
92	43	49	88	46	42	—	—	—	—	—	—	—	—	—
10	0	10	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
587	242	356	594	230	364	680	241	438	769	264	505	835	287	549
106	33	84	127	25	102	188	40	147	225	40	185	247	45	202
481	209	272	467	205	262	492	201	291	544	224	320	588	242	347
1119	346	784	1170	379	791	1152	355	796	1298	415	883	1386	474	912
2570	1660	910	2630	1630	1000	2780	1660	1120	2890	1720	1180	2840	1680	1160
43.5	20.8	86.2	44.5	23.3	79.1	41.4	21.4	71.1	44.9	24.1	74.8	48.8	28.2	78.6
20.7	6.3	47.0	21.9	9.1	42.7	17.0	6.9	32.0	18.3	8.8	32.0	19.4	11.1	31.3
8.2	3.7	16.5	9.5	5.3	16.4	6.4	3.1	11.2	8.5	5.3	13.2	8.8	6.5	12.2
12.5	2.6	30.5	12.4	3.9	26.3	10.6	3.7	20.8	9.8	3.5	18.8	10.6	4.6	19.1
22.8	14.6	39.1	22.6	14.1	36.4	24.5	14.5	39.1	26.6	15.3	42.8	29.4	17.1	47.3
4.1	2.0	9.2	4.8	1.5	10.2	6.8	2.4	13.1	7.8	2.3	15.7	8.7	2.7	17.4
18.7	12.6	29.9	17.8	12.6	26.2	17.7	12.1	26.0	18.8	13.0	27.1	20.7	14.4	29.9
10103	2037	8066	10661	2655	8006	9540	2392	7148	11333	3351	7982	12590	4436	8155
4196	1210	2987	4531	1562	2969	3832	1252	2580	5271	1977	3294	5952	2578	3374
5905	826	5079	6127	1092	5036	5701	1138	4564	6044	1364	4679	6620	1849	4772
5958	1711	4246	6453	1881	4573	6707	2019	4689	7061	2233	4828	8185	2724	5460
3335	904	2430	4114	1155	2959	4401	1303	3098	5034	1515	3519	6286	1937	4348
1551	781	770	1414	698	716	1489	681	809	1452	691	761	1570	766	804
1072	26	1046	925	28	898	817	35	782	575	27	548	329	21	308
12412	4524	7888	13162	4727	8435	16063	5654	10409	17655	6212	11444	19250	7005	12245
2797	728	2069	3202	714	2488	4216	981	3235	4745	1047	3698	5270	1208	4062
9615	3796	5819	9960	4013	5947	11847	4673	7174	12910	5165	7746	13980	5797	8183
22515	6561	15954	23823	7382	16441	25603	8046	17557	28988	9563	19426	31840	11441	20400
57740	35220	22520	60840	36550	24290	65780	38990	26790	67870	40270	27600	66890	39560	27330
39.0	18.6	70.8	39.2	20.2	67.7	38.9	20.6	65.5	42.7	23.7	70.4	47.6	28.9	74.6
17.5	5.8	35.8	17.5	7.3	33.0	14.5	6.1	26.7	16.7	8.3	28.9	18.8	11.2	29.8
7.3	3.4	13.3	7.4	4.3	12.2	5.8	3.2	9.6	7.8	4.9	11.9	8.9	6.5	12.3
10.2	2.3	22.6	10.1	3.0	20.7	8.7	2.9	17.0	8.9	3.4	17.0	9.9	4.7	17.5
21.5	12.8	35.0	21.6	12.9	34.7	24.4	14.5	38.9	26.0	15.4	41.5	28.8	17.7	44.8
4.8	2.1	9.2	5.3	2.0	10.2	6.4	2.5	12.1	7.0	2.6	13.4	7.9	3.1	14.9
16.7	10.8	25.8	16.4	11.0	24.5	18.0	12.0	26.8	19.0	12.8	28.1	20.9	14.7	29.9

全国に比べて、北海道の失業率は高いまま推移し、逆に、労働力人口の比率は低いまま推移してきたことがわかる。北海道の2006年の失業率は5.6%（人数にして15万人）で、労働力人口比率は56.9%である（全国はそれぞれ4.1%、60.4%）

ところで、失業の規模は、一般的には上の「労調」によって示される。しかしながら、「労調」が定義する失業（完全失業）の要件を満たすのは厳しい。とりわけ、調査期間である一週間に働かなかつたかどうか（Actual status）で失業者かどうか判断されてしまう点は、現実にはそぐわない。それに対して、総務省「就業構造基本調査」（以下、「就調」）は、5年に1度の頻度で行われる調査であるために失業の動向をリアルタイムで把握できないという欠点はあるものの、ふだんの状態（Usual status）で失業者かどうか判断されるので、より実態に即したものといえる。

そこで、岩井（2000）にならって、「就調」を使って全国と北海道の失業構造をまとめたのが前頁の表2-1である。そのうち、北海道の失業・不安定就業者の規模を男女別に示したのが次頁の図2-2で、その比率（対労働力人口比）を全国と比較したのが図2-3である。

表2-1のとおり、「就調」の最新の値である2002年時点で、北海道には失業者（無業の就業希望者）が、「男性」で18万7千人、「女性」で36万3千人存在する。そのうち求職者（つまり「労調」でいう完全失業者に近い存在）だけに限っても、それぞれ10万9千人、14万1千人に及ぶ。対労働力人口比で、6.5%、12.2%である。また、全国との比較が可能な「短時間就業者」を不安定就業者とみなして、その規模をみると、「男性」では28万7千人、「女性」では54万9千人に及ぶ。対労働力人口比で、それぞれ17.1%、47.3%である。なお、「男性」では、

「短時間就業者」のほとんど（84.3%）が「年間200日未満」就業者であるのに対して、女性は、その値は6割強（63.2%）にとどまり、残りは「年間200日以上週35時間未満」就業者である。

ところで、同様の分析作業（但しデータは1997年分まで）をすでに詳細に行っている椎名（2002）は、全国と比較した北海道の70年代から80年代の失業構造の特徴を次のように述べている。すなわち、「現役安定的就業者層との関係で失業・不安定就業者層のより分厚い構成にあること、失業・不安定就業者内部の男性の比重が相対的に高いこと、そして顕在的失業者のウェイトの差はわずかだが、潜在的失業者の部分、すなわち女性の無業で就業希望の非求職者と男性で年間200日未満の不安定就業者層で相対的にウェイトが高いこと」⁴である。

北海道におけるこの分厚い失業・不安定就業者には多様な形態が含まれているが、とりわけ北海道的な特徴を有しているのが、歴史的に形成されてきた公共事業依存型の産業構造に動員され続け、かつ、積雪寒冷地ゆえに冬期には失業を余儀なくされてきた、建設業で働く季節労働者ということになる⁵。

さて、後にみるとおり、北海道の季節労働者の多くは建設産業で働いているが、その建設産業はいま、国や自治体財政の逼迫などを主たる背景に、急激な公共事業「改革」の荒波にさらされている。歴史的に公共事業依存型の産業構造がつくられてきた北海道⁶では、「改革」の影響は甚大である。ピーク時には4.8兆円に達した建設投資総額（出来高ベース）は、いまや2.7兆円にまで減少している（次々頁の図2-4）。とりわけ公共工事分は、2.9兆円から1.5兆円とピーク時の約半分にまで減少している。

結果として、北海道の建設労働市場は急激に縮小している。「労調」で確認したところ（図2-5）、北海道の就業者数（非農林業）

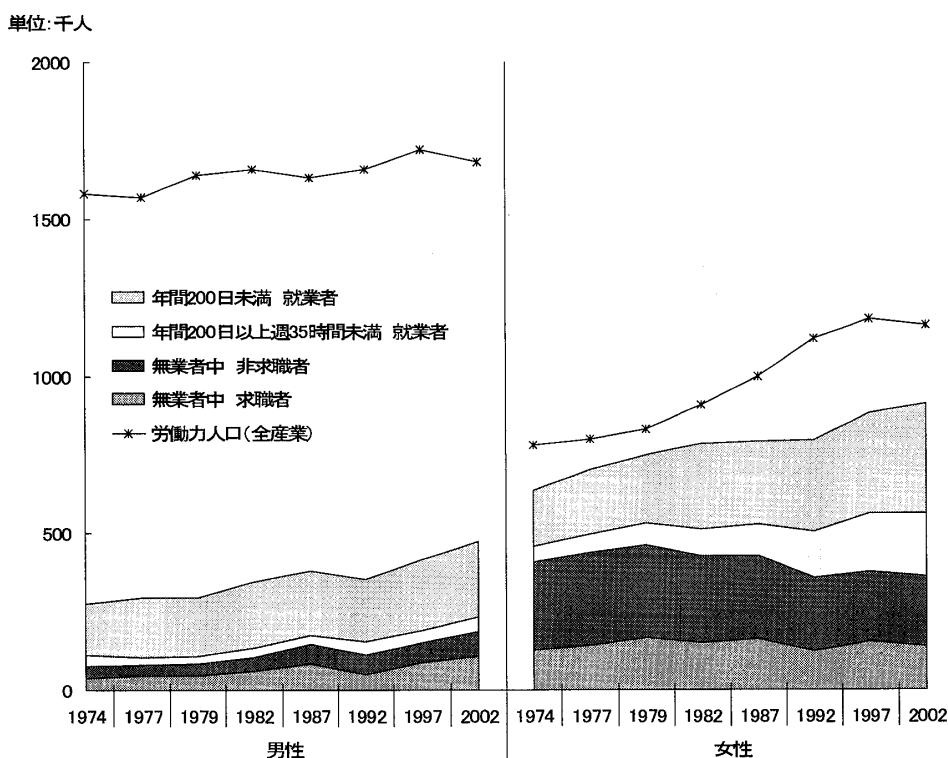


図2-2 男女別にみた北海道の失業・不安定就業者の推移

出所：表2-1に同じ。

単位: %

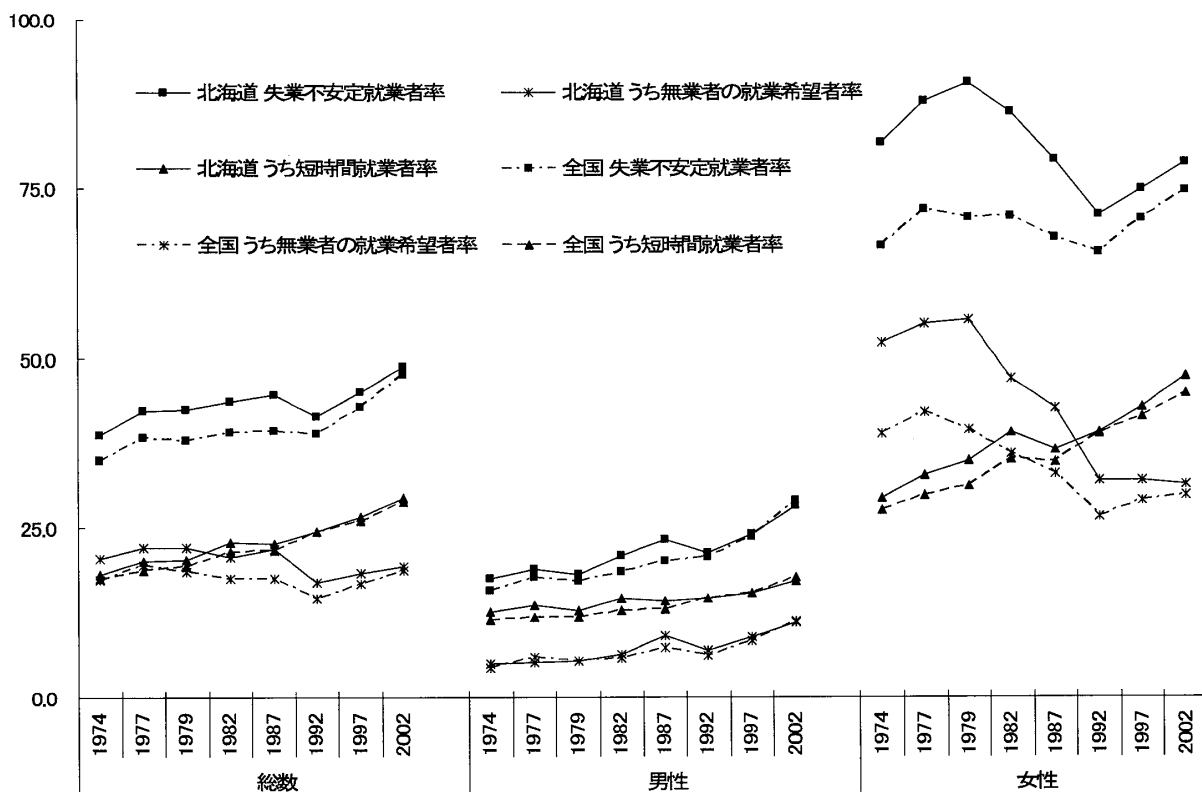


図2-3 男女別にみた北海道及び全国の失業・不安定就業者率（対労働力人口比）の推移

出所：表2-1に同じ。

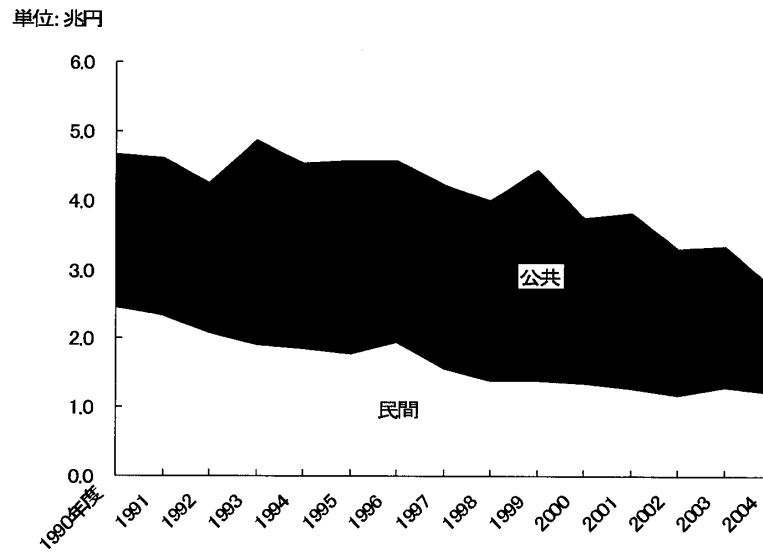


図2-4 民間/公共別にみた北海道における建設投資総額 (出来高ベース) の推移

資料出所：国土交通省総合政策局情報管理部建設調査統計課。

出所：北海道建設年鑑。

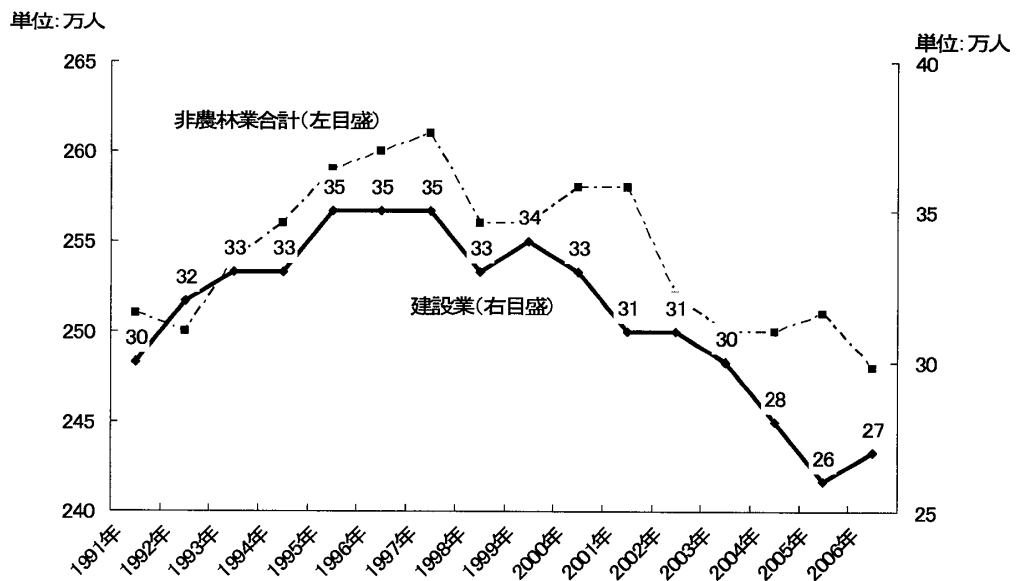


図2-5 「労働力調査」にみる北海道の建設労働市場

出所：図2-1に同じ。

が261万人とピークを迎えた1997年に、建設産業就業者数も35万人とピークを迎えたが、現在は(2006年時には増加したものの)10万人近くもその数を減らしている⁷⁾。建設産業のこうした再編・淘汰は、季節労働者にいかなる影響を与えているだろうか。

北海道労働局の統計によれば(図2-6)、

北海道の季節労働者数は、ピーク時である昭和55年度の30万人から一貫して減少してきた。もっとも、ピーク時の3分の1強とはいえ、その数はいまなお、12.6万人に及ぶ⁸⁾。そのうち、業種別にみた最大勢力が、本稿でみる建設産業の季節労働者で、その数は7.7万人と季節労働者全体の61.1%を占めてい

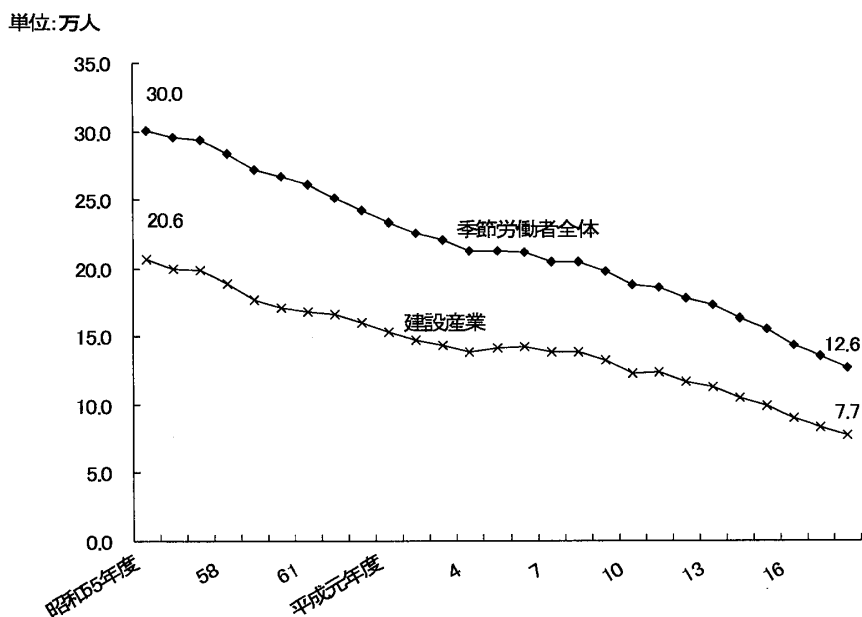


図2-6 北海道の季節労働者（短期雇用特例被保険者数）の推移

出所：北海道労働局『季節労働者の推移と現況』より作成。

る。但し、これらの数値は、正確に言えば、短期雇用特例被保険者の人数であり、雇用保険の受給資格が得られなかったもの、言い換えれば、就労日数が一定の日数に達しなかったものは含まれていないことには注意が必要である（後述）。

さて、こうした厳しい状況にさらに追い打ちをかけるような、季節雇用に関連する制度の改変が行われた。具体的には、上記の10万人を超える季節労働者の生活を不十分ながらも支えてきた、特例一時金の2割削減（50日分が40日分に減額。この措置は平成19年度から実施され、最終的には4割の削減、つまり30日分への減額が検討されている）と冬期技能講習助成給付金制度の廃止である⁹。かかる制度の改変の中で、季節労働者の貧困という問題が一層潜在化して、ますます見えづらくなるおそれがある。

問題の解決のためには、実態把握こそがまずは不可欠である。そうした問題意識で我々が行った二つの調査結果を以下ではみていく。

まず、2006年度に冬期技能講習会場において、受講者である季節労働者を対象に行わ

れた、主として労働条件に関する調査の結果をⅢで報告する（以下、「2006年度調査」）¹⁰。

ところで、技能講習を受講しているということは、一定の就労機会を確保し得たということの意味する。言い換えれば、季節労働者全体の中でも、就労の機会が相対的に良好な層といえる。統計から漏れた季節労働者も把握する必要がある。

また、現役引退後の生活は、現役時代の処遇（賃金水準）が反映される公的年金によって支えられることを鑑みるならば、季節労働者の生活は、現役時代もさることながら、現役後においても、厳しいことが推測される。現役後も含め、彼らの実態を明らかにする必要がある。2007年度に、かつて講習を受講した経験がある者も対象に含めて郵送方式で調査（以下、「2007年度調査」）を行ったのは、そういう問題意識にもとづいている。この調査結果をⅣで報告する（それぞれの調査の方法や内容は注釈を参照）。

なお本文の記述等に関わることだが、第一に、調査結果の詳細（単純集計及びクロス集計）は資料Ⅱ（Ⅱ-1～Ⅱ-6）に、各調査

で用いた調査票は資料Ⅲ（Ⅲ－1及びⅢ－2）に、それぞれまとめたので参照されたい。第二に、スペースの都合上、図表中の文言は一部省略しているものもある。正確な文言は、調査票などを参照されたい。第三に、本稿では、不明の分は除いて計算をしているので、各項目の合計人数は一致しない。

Ⅲ. 「2006年度調査」の結果

1. 回答者の属性、職種等

「2006年度調査」の有効回答者数は1,850人である。

回答者全体の7割（68.6%）が「男性」で、年齢は、男女ともに高齢に傾斜している（図

3－1）。すなわち、「男性」では、5分の1強（21.2%）が、「女性」では3分の1強（34.3%）が、それぞれ「60歳以上」である（2004年度以降、講習制度の対象から65歳を超える季節労働者が除かれたため、年齢の最高は65歳である）。もっともその一方で、若年層も少なくない。彼らの今日の厳しい雇用情勢を反映した結果といえよう。

回答者の職種については、「男性」では、「普通作業員」（32.8%）、「大工」（13.9%）、「塗装工」（10.3%）が1割を超えて多く、「女性」では、「普通作業員」（26.0%）を除くと、建設産業以外の季節労働者が多い。具体的には、「農業労働」（33.7%）や「林業」（11.6%）などである。

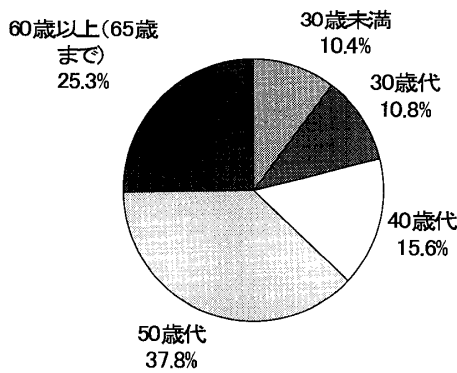


図3－1 回答者の年齢（男女計）

注：60歳以上は、65歳まで。

2. 労働条件、賃金等

1) 就労日数、休日、賃金等

第一に就労期間に関する結果だが、短期特例一時金の受給資格の関係上、仕事が確保できるかどうかは季節労働者にとって、文字通り、死活問題といえる。図3－2の左は、就労を開始しているものを月ごとに積み上げていったものである（言い換えれば、残りはその時期に就労を開始できていないものである）。「4月」の時点で就労を開始できているものは男女ともに6割にとどまる。この後、

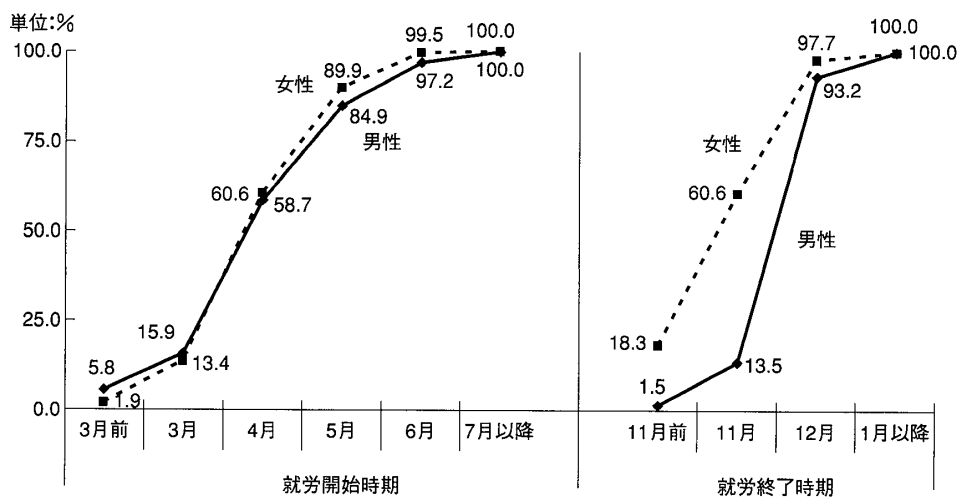


図3－2 男女別にみた就労を開始した月及び終了した月（積み上げ）

「5月」になってもなお仕事が始まできていないものも、1割ほど存在する（「60歳以上」の男性では2割）。

なお同図の右に示されるとおり、就労の終了時期については、「男性」では「12月」に回答が集中し（79.7%）、農林業の作業従事者が多い「女性」では、「11月」と「12月」に集中している（42.2%、37.2%）。

回答者の就労日数の増減（対前年比）は（図3-3）、横ばい（「だいたい同じだった」）が最多だが、「減った」も全体の3分の1を占めている¹¹。

関連して、日数が「減った」群の昨年の就労期間¹²は、短い期間に傾斜している（図3-4）。「男性」では全体の4分の1が、「女性」では同じく4割が、それぞれ「8ヶ

月未満」である。特例一時金の受給資格を喪失して統計上からは消えていく季節労働者の存在が示唆される。

第二に労働時間だが、建設産業における季節労働者は、季節的に失業を余儀なくされる存在ではあるが、パートタイム労働者ではなく、いわゆるフルタイムの労働者である。「男性」では4割（40.2%）が、「女性」でも2割弱（17.9%）が、それぞれ1日9時間以上働いていたと回答している。とくに若い年齢層では長時間労働の割合が大きく、例えば「男性」「30歳未満」では、10時間以上が3割弱（27.1%）を占める。

毎週の休日も多くはない（図3-5）。「完

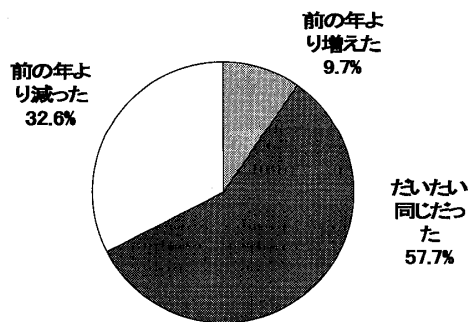


図3-3 就労日数の増減（対前年比）

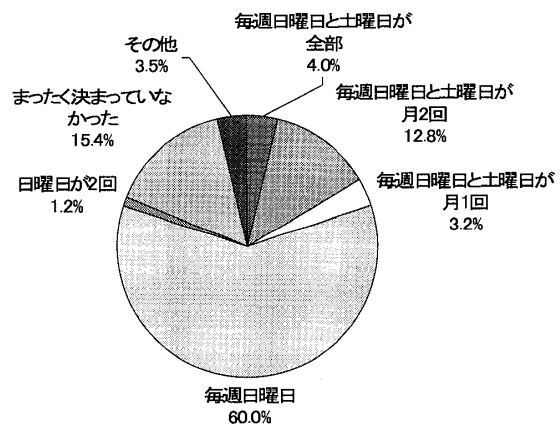


図3-5 休日の状況

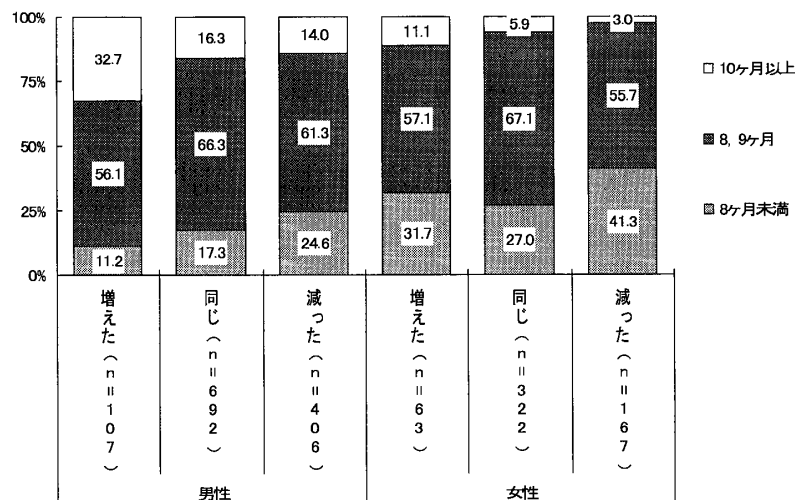


図3-4 男女別・就労期間の増減別にみた就労期間

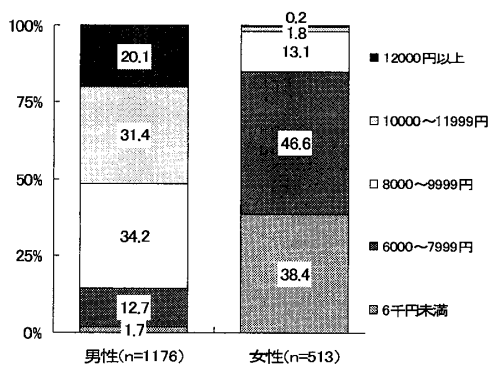


図3-6 男女別にみた賃金・基本日額

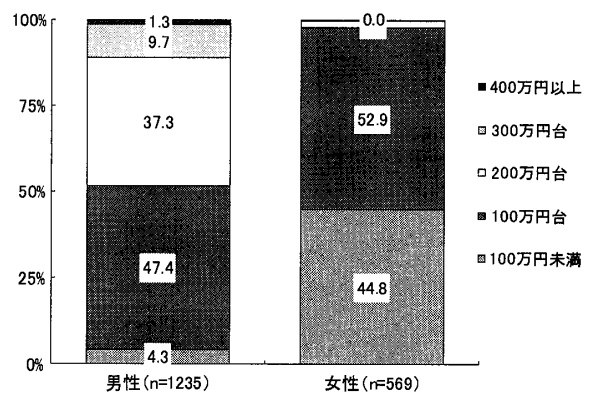


図3-7 男女別にみた年間賃金収入

全週休2日制（毎週日曜日と土曜日が全部）」はわずか4.0%で、隔週の週休2日制（「毎週日曜日と土曜日が月2回」）を含めてもその値は16.8%にとどまる。最多は、「毎週日曜日のみ」（60.0%）で「男性」に限ると68.4%である。なお、6ヶ月以上の継続雇用で発生する有給休暇の取得状況は低い¹³。

第三に、こうした長時間労働にも関わらず賃金（基本日額¹⁴）は低い（図3-6）。男女計の平均値は8,761円である。「女性」に限ると、全体の4割が6千円未満という低水準にとどまる。また、平均値でかろうじて1万円弱になる「男性」も、いわゆる年功制賃金のような、加齢に伴う賃金カーブはほとんどみられず、「40歳代」の10,118円で頭打ち状態である。なお、本文中には示していないが（資料II-3を参照）、職種別に基本日額をみると（男女計）、最も額の高いのは、回答者の約1割を占める「大工」（12,006円）であり、回答者の中で最大のグループだった「普通作業員」は8,541円にとどまる。

年間の賃金収入（以下、年収）も低い（図3-7）。「男性」では5割が、「女性」ではほぼ全員が、それぞれ年収「200万円未満」である。「男性」に限っても、「200万円未満」層がどの年齢層でも分厚く存在している。「30歳未満」や「60歳以上」では6割にも及び、最も少ない「40歳代」でも4割（41.5%）に及ぶ。

2) 季節労働者の権利侵害

季節労働者の不利は休みの少なさや賃金の低さだけではない。雇入れ通知書の受領状況、建設業退職金共済制度及び林業退職金共済制度（以下、「建退共等」と一括）の加入状況、労災発生時の処理状況など多岐にわたる。順にみていこう。

第一に、労働基準法によって（建設労働者の場合には、建設雇用改善法も）、使用者は、労働者と労働契約を結ぶ際、労働条件を明示することが義務付けられている。具体的には、それは、雇入れ通知書で行われるのが適切である。建設業で働く季節労働者においてもそれは同様である。

だが、その雇入れ通知書をもっているものは44.1%にとどまる（次頁の図3-8）。「男性」に限ると40.8%とさらに低くなる上に、若い年齢層ほど、「もらった」という回答は低く、「わからない」という回答が多くなる（例えば「30歳未満」では「もらった」27.0%、「もらっていない」25.3%、「わからない」47.7%）。

第二に、建退共をめぐる問題である¹⁵。建退共は、勤め先や工事現場が必ずしも一定しない建設労働者の働き方にあわせてつくられたものであり、建設産業で働く限りにおいて掛け金を掛け続けることのできるすぐれた制度である。

ところが、「建退共等」に加入している

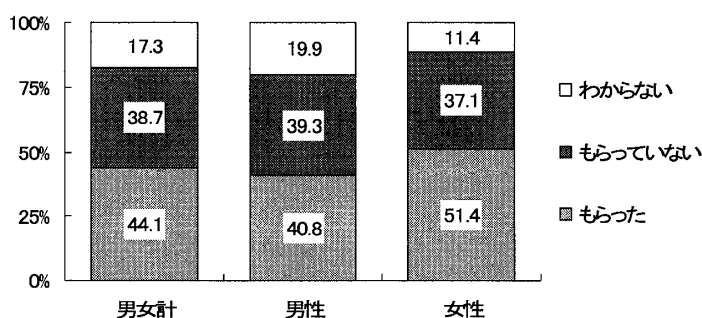


図3-8 男女別にみた雇入れ通知書の受領状況

ケースは、男女ともに4割強にとどまる（図3-9）。「独自の退職金ができる」という回答はわずか4.1%で、残りは、「どちらにも加入しておらず退職金がない」（30.4%）か、「わからない」（21.6%）という状況である。雇入れ通知書の受領状況と同じく、とりわけ「男性」の若い年齢層で、この「わからない」という回答が多い（「30歳未満」では「わからない」が48.9%と最多）。なお、建退共をめぐる問題としては、あわせて、手帳の保持状況の悪さ、手帳の中身の未確認、あるいは、証紙の貼付状況がよくないこと（あるいは未確認）などがあげられる¹⁶。

第三に、仕事上の被災・労災適用をめぐる問題がある。すなわち、建設業は労働災害の発生が多い業種の一つであるが、今回の調査でも、まず、「仕事でケガをしたことはない」という8割強（83.6%）の回答者以外は、仕事上で何らかのケガを経験している（ケガの程度は尋ねていない）。ところが、被災経験のある246人のうち、「病院にかからずにすませた」という77人（31.3%）以外は、病院で何らかの処置をしているにもかかわらず、労災が適用されているのはわずか37人（15.0%）に過ぎない¹⁷。会社が治療費を負担しているケースもみられるが（49人、19.9%）、自己負担のケースも少なくない（83人、33.7%）。季節労働者という立場の不利、すなわち、労災を使うことで翌年の採用の際に不利になることへのおそれもこうした問題の背景の一つとして考えられる。

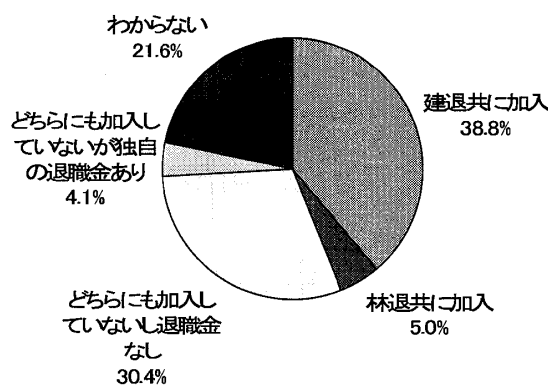


図3-9 建退共等の加入状況

3. 公共事業従事者の労働条件・処遇など

ところで、民間工事現場に比べて、公共工事現場で働く季節労働者の労働条件や処遇は良好であることが期待されるが実際はどうだろうか（資料Ⅱ-2に調査結果の一覧をまとめたので参照されたい）。あらかじめ結論を述べると、総じて、相対的に良好な状況が確認できる。

例えば、「公共事業だけで働いていた」場合には、「建退共等」に加入しているケースが多く、全体の4分の3（75.6%）を占める（次頁の図3-10）。さらに、雇入れ通知書もらったのは6割（58.9%）、完全週休2日制と隔週週休2日制の合計が3分の1（35.0%）、有休があったのは4割（40.0%）にまで、それぞれ改善する。もっとも、諸条件のこうした相対的な良好さにも関わらず、賃金には問題がみられる。この点について述べる。

まず確認しておきたいのは、公共工事に従

事する労働者の賃金単価は政府によって決められていることと、年々この単価が下がっていることである(表3-1)。そのことを踏まえて本調査で明らかになったのは、こうした低水準の労務単価さえも必ずしも守られていないこと、言い換えれば、本来支払われるべきはずの賃金が季節労働者に渡っていないことである。

例えば、次頁の図3-11は、「公共事業だけで働いていた」「普通作業員(土木・雑役)」74人の賃金(基本日額)の分布をみたものだが、平均値は8,864円にとどまり、政

府の「普通作業員」(11,500円)にも、「軽作業員」(9,400円)にも満たない。「公共事業のほうが多かった」「普通作業員」(130人)をあわせて検討してみても、結果は同じである。低い労務単価の改善と、決定単価の確実な支払いが求められる(詳細は資料II-4を参照)。

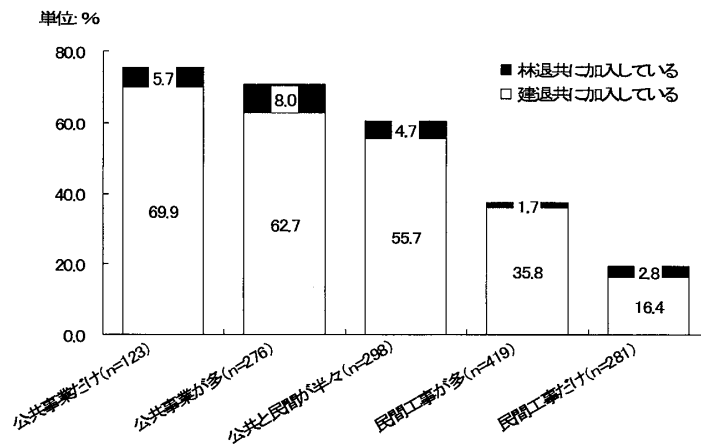


図3-10 就労場所別にみた建退共等の加入状況 (男女計)

表3-1 職種別にみた公共工事設計労務単価の推移

単位：円

	2006年度	2005年度	2004年度	2003年度	2002年度	2001年度	2000年度	1999年度	1998年度	1997年度
普通作業員	11,500	11,800	12,100	12,600	13,100	13,300	13,500	16,000	16,100	15,900
軽作業員	9,400	9,600	9,700	10,100	10,300	10,800	11,100	12,600	12,700	12,500
造園工	14,900	15,200	15,700	16,300	17,300	18,000	18,000	21,100	20,800	19,100
とび工	14,800	15,100	15,600	16,400	17,400	17,300	16,200	19,300	19,500	19,700
鉄筋工	13,600	13,600	14,000	14,700	15,600	15,800	16,400	19,900	20,000	21,100
鉄骨工	13,800	14,100	14,000	14,700	14,900	14,900	16,000	17,500	15,000	18,400
塗装工	14,200	14,500	14,300	14,400	15,300	16,200	16,200	19,200	18,500	18,500
運転手(特殊)	14,600	14,900	15,100	15,900	16,900	16,800	16,700	19,900	20,500	20,200
運転手(一般)	11,800	12,000	12,400	13,000	13,400	13,700	13,600	16,200	17,100	17,300
型枠工	14,200	14,500	15,000	15,800	16,800	16,700	16,300	21,500	21,700	21,700
大工	14,300	14,400	14,900	15,700	16,600	17,400	17,400	20,700	21,100	21,200
左官	15,100	14,900	14,700	15,200	16,100	16,900	17,500	19,100	20,900	20,300
配管工	15,500	15,100	15,200	16,000	16,400	17,100	17,300	20,400	19,900	20,600
サッシ工	13,800	13,900	14,100	14,200	14,400	14,400	14,800	16,200	18,200	18,600
建具工	13,800	14,100	14,500	15,200	15,500	15,500	14,900	16,900	18,600	19,200

資料出所：2000年度以降は国土交通省総合政策局労働資材対策室，それ以前は建設・農水・運輸三省協議会。
出所：北海道建設新聞社『北海道建設年鑑』各年版より。

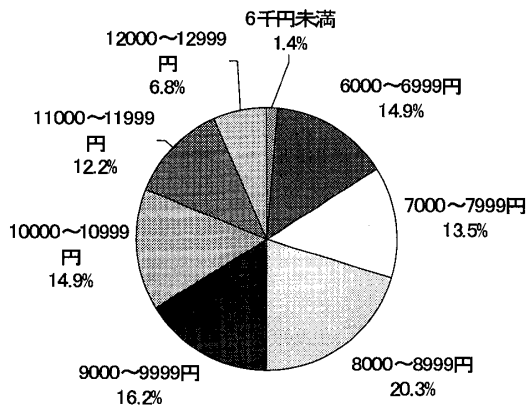


図3-11 公共事業従事者（「普通作業員」）の賃金（基本日額）

4. 世帯の収入源、公的年金をめぐる問題等

季節労働者本人の収入の低さは確認したとおりだが、家計を構成する世帯単位でみるとどうだろうか。

結果は、本人の収入の低さをカバーできる余地のある世帯は多くはない（図3-12）。たしかに、(ウ)通年で働いている家族がいる世帯も全体の4分の1（26.0%、とくに「女性」で多く41.1%）を占めるが、残りは、(ア)パート（21.1%、「男性」では25.4%）か、(エ)季節雇用（14.3%、「女性」では24.8%）という、収入水準は低いと思われるケースである。あるいは、(イ)そもそも同居家族がいないか、(イ)いても収入はないというケースも、「男性」では合計で39.9%、「女性」では16.7%を、そ

れぞれ占めているのである。

さらに、現役時代の賃金水準が反映される公的年金制度も、季節労働者の生活をカバーするに十分なものではない¹⁸。

まず、60歳以上で年金を支給されているものは6割弱（「男性」56.8%、「女性」56.0%）にとどまる。加えて注目すべきは、支給されている年金額の水準の低さである。すなわち、「男性（60歳以上）」の年金受給額（月額）は、全体の4割（38.4%）が「5万円未満」にとどまり、金額を「10万円未満」にまでひろげると、7割（69.6%）がそこにおさまる。「女性」では、じつに7割（71.1%）が5万円未満である。

そして、60歳未満の回答者の年金加入状況をみると、全く年金を「掛けていない」か、あるいはどの種類の保険に加入しているかが「わからない」ものが、「男性」の、とりわけ若い年齢層で多くみられることである（次頁の図3-13）。

こうした社会保険制度からの漏れは、医療保険においても、比率はわずかとはいえ、確認される。すなわち、回答者の加入している医療保険の種類で最多は、「国民健康保険」（36.6%）だが、年間を通じて「無保険」という回答者も1.3%みられるのである（いずれも男性回答者）。この、いわゆる国保問題については「2007年度調査」で詳しくみる。

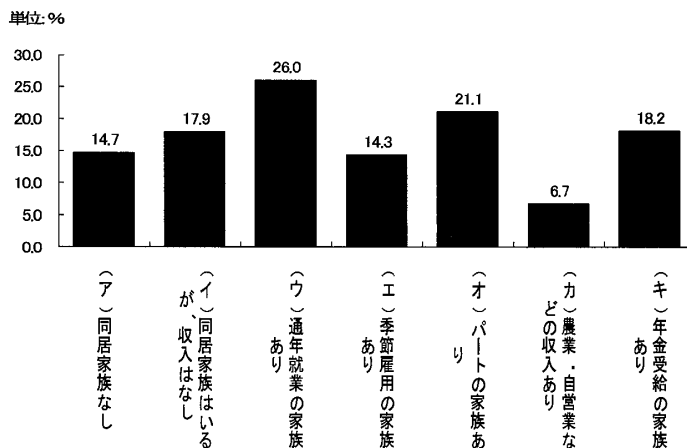


図3-12 世帯員の就労収入等の有無（2つまで選択可）

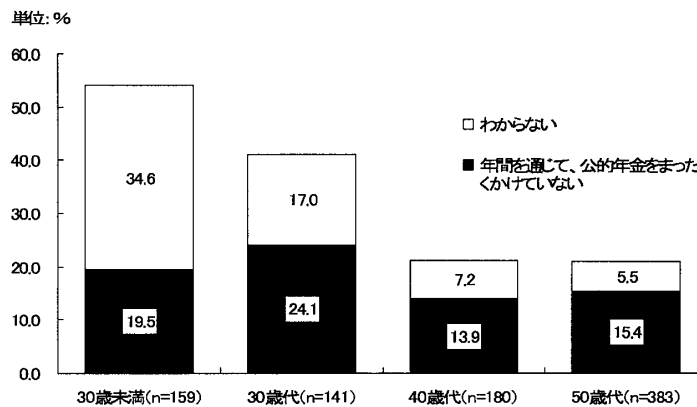


図3-13 年齢別にみた、公的年金をかけていない等の割合 (60歳未満・男性)

5. 今年の仕事の見通し

季節労働者の仕事の不安定さというのは、冬に失業を余儀なくされて就労期間が限られるというだけではたんになく、毎年の就労機会が保障されているわけでは必ずしもないことにある。彼らの今年の仕事の見通しはどうか(図3-14)。

全体の半数は、(ア)昨年と同じ会社で間違いなく働けると回答しているが(「女性」では65.6%と3人に2人)、その一方で、(イ)そうは思うが不安であるという回答も4割弱(37.5%)を占め、とりわけ「男性」では、両者は拮抗している(45.1%, 41.4%)。あるいは(カ)まったく見通しがつかないものも「男性」では6.9%存在する。なお、仕事の見通しは、若いからといって必ずしもあるわけではなく、(カ)まったく見通しがつかないの

は、「30歳未満」でも9.8%、「30歳代」でも9.2%みられる。

ところで、就労機会の縮小の傾向は、先の就労日数の増減(図3-3)でも確認したとおりだが、昨年の冬の過ごし方(図3-15)からも、推測できる。すなわち、昨年の過ごし方で最も多いのは、(ア)同じ企業組合の講習を受けていたという回答(66.4%)である。とくに女性ではその割合は8割(79.5%)に達する。しかしながら、働いていたもの((ウ)一時金を受給しながら、あるいは(オ)一時金は受給せずに)や、求職活動をしていたもの((カ)一般の失業給付を受けながら、あるいは(キ)受けずに)を合計すると、「男性」では全体の5分の1(21.7%)を占めている。年齢別にみると「40歳代」では、働いていたものだけで合計19.5%に及ぶ。つまり、少な

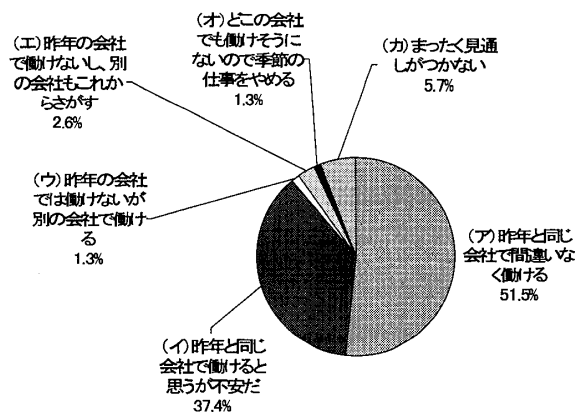


図3-14 今年の仕事の見通し

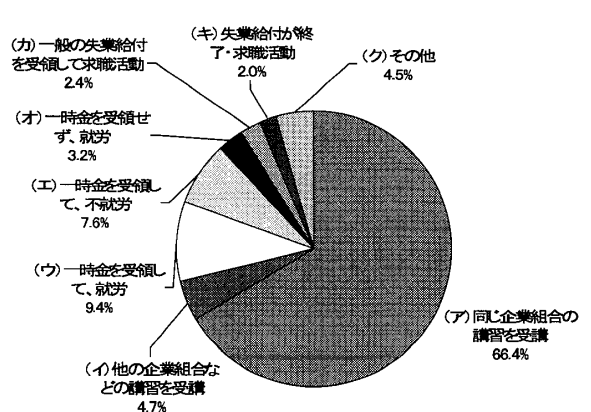


図3-15 昨年の冬の過ごし方

くない層が、冬期の仕事を確保できずに、今回の冬期技能講習制度を受講するに至ることが確認される。

IV. 「2007年度調査」の結果

続いて「2007年度調査」¹⁹の結果をみていこう。「2006年度調査」との重複をなるべく避けて、特徴的な点を取りあげる。冒頭に述べたとおり、この調査は、一時金受給資格喪失者や現役引退者も含め、ひろい意味での季節労働者の実態を明らかにすることを目的にしていた。

もっとも、あらかじめ述べると、この調査で把握できたのも、中心は、現役の季節労働者で、なおかつ、一定の就労日数が確保できている層だった。また、注釈にも記したとおり、調査は、札幌圏や旭川圏という都市部を中心に行われた。よって、事態のより厳しいことが予測される層や地域（郡部）の把握という課題は、今後の第2次郵送調査に残された。

1. 回答者の属性及び就業の有無など

回答者数は711人で、性別は、「男性」84.8%、「女性」15.2%である。

年齢は、「50歳代」と「60歳代」で7割を占めている（図4-1）。65歳超の者が対象外となった「2006年度調査」よりも、高齢の回答者が多く捕捉されている。

居住地は、調査票の郵送状況を反映し、「札幌圏」47.7%、「旭川圏」24.8%、「美幌町」14.3%で7割強を占める。

現在、働いているかどうかを尋ねた（次頁の図4-2）。アルバイトやパートあるいは農業（自営）も含め、かつ、定期的か不定期（臨時的）かも問わず、何らかのかたちで「働いている（求職中を含む）」のは、85.5%で、「全く働いていない（求職中を含む）」のは14.5%である。「70歳以上」でも4割強が

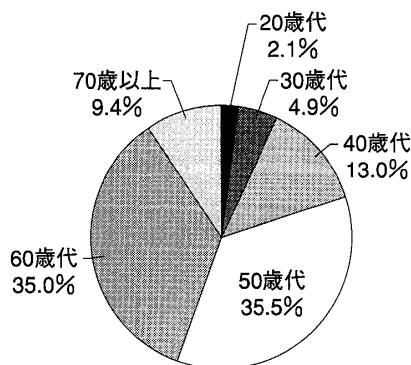


図4-1 回答者の年齢（男女計）

働いている。

2. 就業の状況

2でまとめているのは、「働いている」ものに限定して尋ねた設問の結果である。

雇用形態・就業形態等については、「掛け持ち」で働いているものもいるので、その状況も含めてまとめたのが表4-1である。季節雇用で働いているものが全体の4分の3を占めて最も多い。30、40歳代では正社員の比率が（あくまでも相対的にだが）多くみられ²⁰、逆に、高齢の層ではアルバイト等が多い（「70歳以上」では季節雇用は28.0%）。なお出稼ぎで働いているものが、608人中27人みられた²¹。

回答者の多くは「建設業」で働いている（81.3%）。但し女性の場合は、「建設業」の割合は半数にとどまり（50.6%）、代わって、「農業」22.9%などの割合が高い。

職種については、「男性」では「普通作業員」25.9%、「大工」19.3%、「その他」13.2%が、「女性」では「普通作業員」49.3%、「その他」32.4%が、それぞれ1割を超えて多い。「2006年度調査」に比べて、「男性」で「大工」のウェイトが高い。

さて、就労日数については、今年の1月から7月までの各月の就労日数を記載してもらった。表4-2に各月の平均値と、各月の合計の平均値をまとめた。結果は、回答者全体の平均値は95.5日で、年齢別にみると、

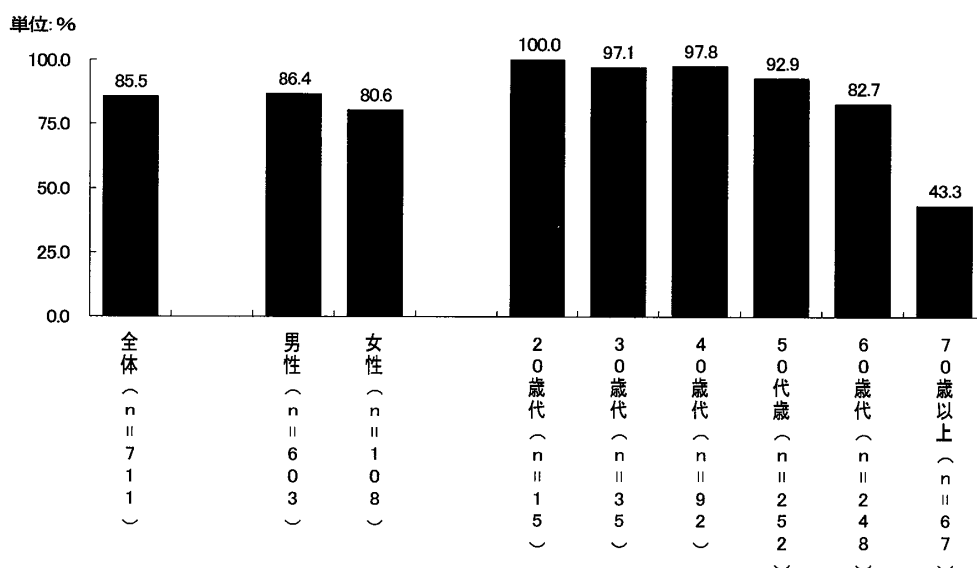


図4-2 全体、男女別及び年齢別（男女計）にみた、働いている者の割合

表4-1 雇用形態・就業形態等

雇用・就業形態等	人数	比率	兼業状況
全体	574	100.0	
正社員	38	6.6	うち2人はその他（自営業の手伝い）
1人親方	12	2.1	
季節雇用	441	76.8	うち2人は契約社員，1人は嘱託，1人はパートタイマー，8人はアルバイト，1人はアルバイトと派遣，1人はアルバイトとシルバー登録，1人は派遣，12人は農業，1人は漁業
契約社員	9	1.6	
臨時	18	3.1	うち2人はアルバイト，1人はシルバー登録
パートタイマー	12	2.1	うち1人は嘱託，1人は派遣とその他，1人はアルバイト
アルバイト	28	4.9	うち1人はシルバー登録
派遣	2	0.3	
シルバー人材センターに登録	5	0.9	
農業（自営）	7	1.2	
その他	2	0.3	

若い層あるいは壮年の層で、日数はより多い。

現在、(a)雇用保険に「加入している」のは84.2%で、残りは、「加入していない」14.0%、「わからない」1.8%である（60歳以上では「加入している」が少なくなる。「60歳代」では77.9%、「70歳以上」では25.0%にとどまる）。今回の調査で補足できたのも（あくまで相対的にだが）一定の就労日数が確保できた層といえるだろう。(b)もっとも、雇用保険に加入できたのが6月以降と

いう遅い時期のものが、全体の4分の1を占めている。

一時金の受給に関して、(a)昨年の受給状況を見ると、「もらえた」が85.8%を占めている。「日数が足りずもらえなかった」のは2.9%である。但し、「その他」という回答にも、ごく短期（不定期）に働くケースや、シルバー人材センターに登録して働くケースなど、そもそも雇用保険の加入が見込めないケースが多く含まれている。(b)次に今年の一

表4-2 全体、男女別、年齢別及び居住地域別にみた就労日数 (平均値)

単位：日

		人数	平均値							標準偏差								
			合計	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	合計	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月
全体		579人	95.5	5.5	7.5	8.8	13.7	17.9	20.8	21.4	36.4	7.9	9.2	9.7	8.9	7.3	6.2	5.7
男女別	男性	499人	97.7	5.9	8.1	9.4	14.0	17.9	20.9	21.5	36.5	8.0	9.3	9.8	8.9	7.3	6.2	5.7
	女性	80人	81.7	3.1	3.8	5.4	11.4	17.5	19.9	20.7	32.6	6.8	7.0	7.6	8.6	7.1	6.3	6.8
年齢別 (男女計)	20歳代	14人	108.5	6.9	9.3	9.8	17.3	20.4	22.4	22.5	39.9	8.8	10.3	9.7	9.2	7.2	4.9	6.0
	30歳代	32人	105.0	5.2	8.8	11.9	15.5	19.0	22.3	22.4	38.8	7.5	9.7	10.3	8.1	7.4	4.3	4.5
	40歳代	87人	115.3	7.3	10.1	12.9	18.0	20.7	23.1	23.2	33.0	8.6	9.8	10.1	7.0	5.2	4.0	4.0
	50歳代	220人	97.9	5.7	7.5	8.8	13.8	18.5	21.3	22.3	31.3	8.0	9.0	9.5	8.6	6.7	5.6	4.6
	60歳代	200人	86.6	4.7	6.6	7.1	11.9	16.4	19.7	20.3	35.0	7.4	8.8	9.1	9.1	7.7	6.5	6.6
	70歳以上	25人	58.6	3.2	2.8	4.6	7.9	12.8	13.2	14.1	47.2	8.0	6.6	8.0	9.1	8.8	9.7	9.5
居住地域別	札幌圏	287人	96.4	5.0	7.0	8.9	14.9	18.1	20.8	21.8	33.8	7.3	8.6	9.4	8.1	6.7	5.8	5.5
	旭川圏	147人	94.5	4.8	7.1	8.1	13.3	18.0	21.5	21.7	32.1	7.5	9.0	9.3	9.1	7.9	5.4	5.7
	美幌町等	79人	94.6	7.8	10.2	11.4	10.5	16.3	19.0	19.5	51.6	9.3	10.6	10.9	10.1	8.3	8.4	7.8
	標茶町	33人	95.1	6.2	8.0	6.4	12.5	18.5	21.6	21.9	34.2	8.7	10.4	9.2	9.1	6.7	6.0	5.0
	厚岸町	21人	96.1	6.7	6.7	8.0	14.5	19.7	19.8	20.8	33.0	9.3	8.5	9.8	10.0	5.8	7.4	5.9
	浜中町	9人	86.3	8.3	6.1	5.3	10.3	16.2	20.2	19.8	39.7	9.5	8.8	9.3	9.5	6.0	3.7	5.6

時金の受給予想は、「もらえそう」は58.3%にまで低下し、代わって、「わからない」が全体の4分の1 (24.5%) を占めている。「その他」3.6%については上記のとおりである。

賃金についてみていく。(a)支払形態は「日給月給」が8割を占める (79.8%)。(b)基本日額は、平均値が9,710円である。但し、「男性」では10,199円であるのに対して、「女性」は6,722円にまで低下する。「2006年度調査」に比べると「男性」の平均値がやや高いのは、一つには職種構成の違い、すなわち、今回の調査では「大工」の比率が高い

(19.3%) こと、もう一つには、賃金水準の高い札幌圏の回答者が中心であることなどがある。職種別にみると (詳細は資料II-6を参照)、「普通作業員」は「2006年度調査」と同様に8,712円という水準にとどまる(「大工」は12,122円)。(c)年間の賃金収入は、全体の54.1%が200万円未満である。女性に限ると、ほとんど (94.8%) が200万円未満に位置する。

図4-3は仕事上での問題状況 (複数回答可) を尋ねたものである。(ア)仕事の量が減っているのと(イ)賃金が安いという回答が多い。

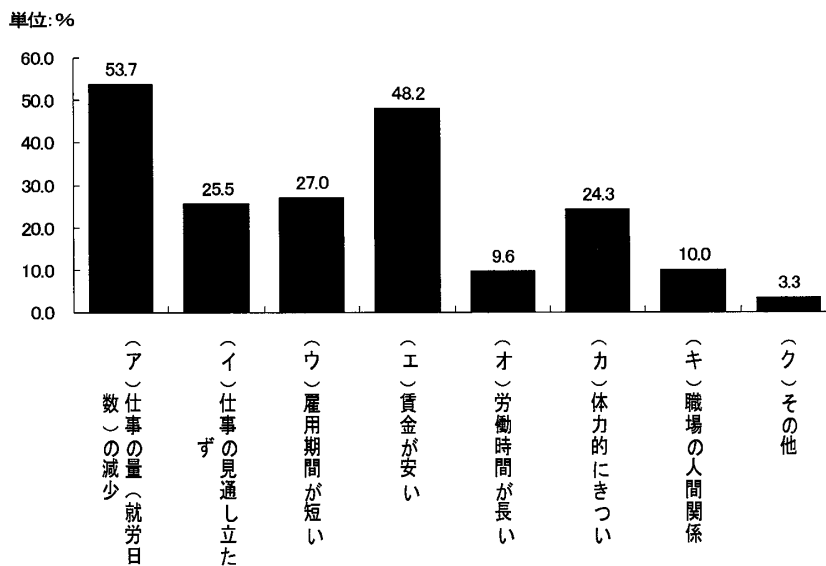


図4-3 仕事上での問題状況 (複数回答可)

3. 暮らし・生活の状況

現在の住まいは、「持ち家・分譲マンション」に住むものが多い(61.3%)。彼ら「持ち家等」群に限定して尋ねた住宅ローンの支払い状況は、半数強(55.8%)が「支払い終えた」である。なお、これらのいずれの回答も、高齢の層ほど割合が高くなる。

世帯構造や世帯員の就労状況は、(a)「1人暮らし」11.1%、「2人」38.8%、「3人」27.7%、「4人」15.5%、「5人」3.7%、「6人以上」3.2%である。高齢の層では、(おそらく配偶者との)「2人」世帯が多い。

(b)「1人暮らし」を除く世帯について、世帯員の就労状況をみたところ、「就労者なし」は26.2%、「就労者あり」は73.8%だった。先の「1人暮らし」とあわせると、全体の3分の1(34.4%)が本人以外に就労収入がないということになる。

(c)なお、世帯の収入源(但し、本人及び世帯員の就労収入ならびに本人の年金収入は除く)は、「家族の年金収入」(遺族年金も含まれる)が21.6%みられる程度である。

本人の公的年金加入状況を尋ねた。(a)受給状況は、「受給している」33.8%、「権利がつかず受給していない(この回答を選択したものは、次にみるとおり、権利がついていないゆえにまだ年金を掛けているものと、「公的年金は一切入っていない」ものにわかれる)」18.3%、「まだ年金をかけている」47.9%である。

(b)年金の種類で注目すべきは、「公的年金は一切入っていない」が21.2%、「わからない」も3.7%みられることである(図4-4)。なお、(a)の設問で「権利がつかず受給していない」と回答した118人のうち、23人は、この(b)の設問で無回答である。彼らも「公的年金は一切入っていない」可能性が高い。

(c)年金受給者に尋ねた年間の受給額(平均値)は、「男性」で111万円、「女性」で73

万円である。

(d)今回の調査では、民間の年金加入状況も尋ねたが、「加入していない」がほとんど(81.6%)だった。

年金に続いて、現在加入している医療保険について尋ねたところ、「年間を通じて市町村の国民健康保険」(以下、「国保加入者」群)が51.5%で最多である。高齢の回答者が多いという本調査の特徴が反映されている。なお、年間を通じて無保険というケースも、比率はわずかとはいえ(2.1%)存在する。「その他」という回答には、後述する生活保護受給者が含まれている。

ところで、この間の不況等を背景にして、国保保険料を滞納する世帯が増加している。保険料の収納の向上のために各自治体は、保険証を短期保険証に切り替えたり、保険証を返納させて医療窓口でいったん10割負担をさせる「資格証明書」を交付している。そのことが、患者の受診抑制につながり、命を落とすケースもみられる²²。そこで本調査では、「国保加入者」群を対象に、保険料の支払い状況等に関して尋ねてみた。

結果は、(a)まず保険料の滞納状況は(図4-5)、「滞納している」が30.8%に達している(「稼働者」群に限定すると、36.3%)²³。年齢別にみると、例えば「40歳代」では44.1%、「50歳代」では52.1%にも達している。

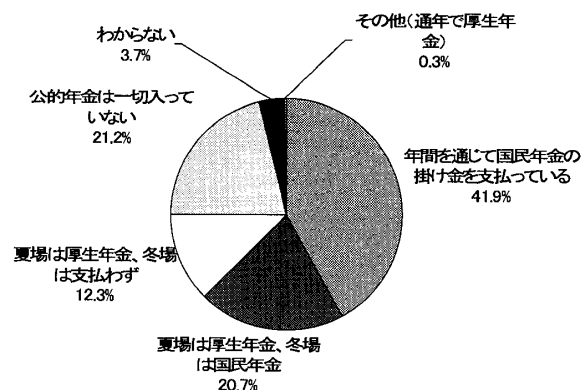


図4-4 加入している公的年金の種類

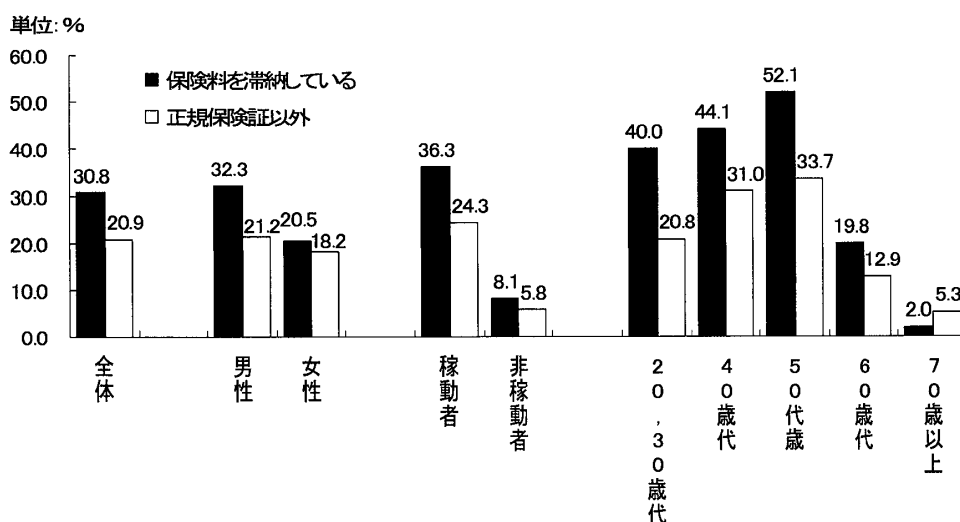


図4-5 全体、男女別、稼働状態別及び年齢別（男女計）にみた保険料滞納者ならびに正規の保険証以外の割合（「国保加入者」群）

(b)回答者全体の年間の保険料額は26.7万円
で、年齢別にみると「40歳代」が35.7万円
で最も高い。

(c)また、保険証の種類は、「短期保険証」な
ど「正規保険証」以外が合計で20.9%を占
める。

(d)そして、三段階で尋ねた保険料の負担は、
「非常に厳しい」に全体の4分の3（76.6%）
が集中した。

さて、回答者のほとんど（93.5%）が生活
上の不安を抱えている。不安の内容は（図

4-6）、(ア)生活費や(コ)老後の生活設計がそ
れぞれ全体の3分の2前後を占める。この(ア)
生活費に対する不安は30、40歳代でとくに
多く（81.3%、76.2%）、また、この年齢層
では、(イ)失業・廃業、倒産等の不安も半数に
達している（50.0%、56.0%）。

本調査では、生活保護についても尋ねた。
(a)まず現在の受給状況は、「現在受けている」
のが9人（1.4%）みられた。「過去に受けた
経験がある」のも含めると、全体の5%弱が
該当する。

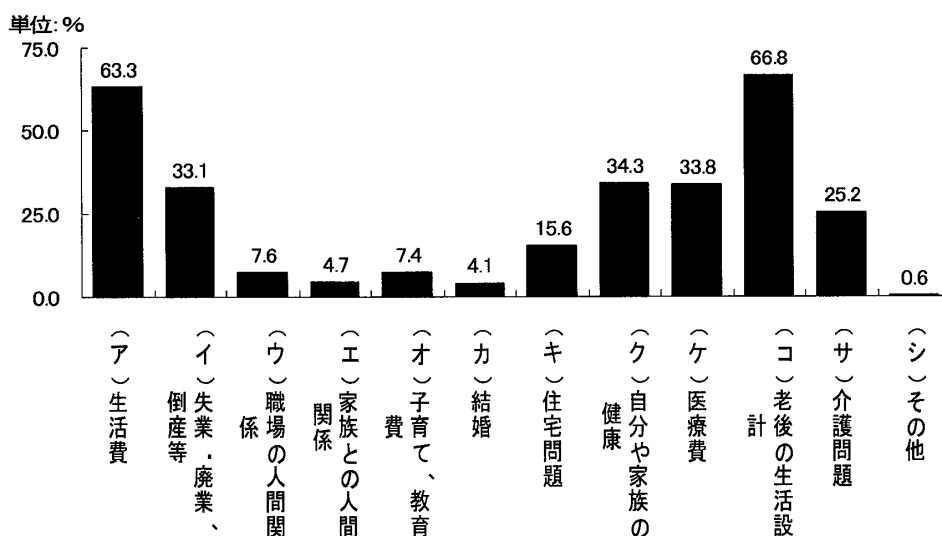


図4-6 生活上の不安（複数回答可）

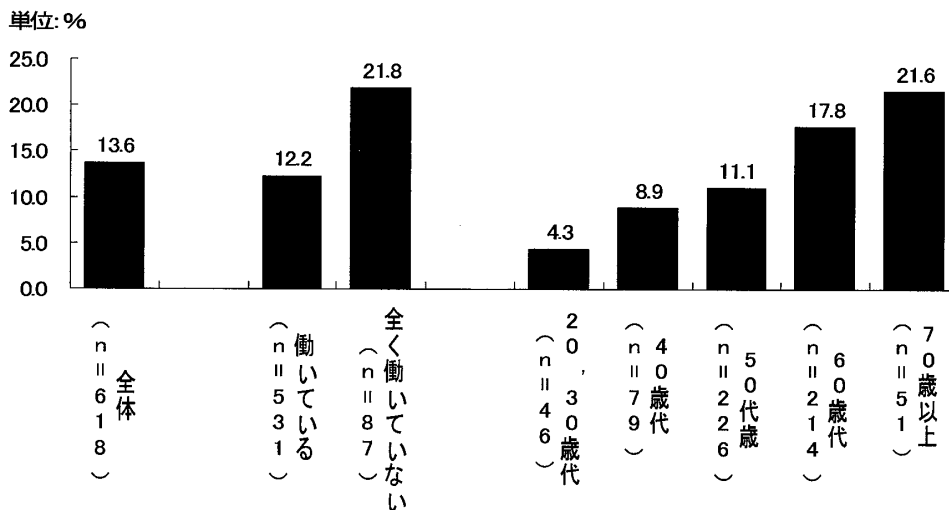


図4-7 全体、稼働状況別及び年齢別に尋ねた生活保護受給希望あり

(b)「現在受けている」ものも含めて生活保護の受給希望を尋ねた（彼らは全員が「希望している」を選択）ところ（図4-7）、「希望している」²⁴が13.6%を占めた。「稼働者」群よりも「非稼働者」群（あるいは高齢者）で希望者が多くみられる。

最後に、現在の暮らしの状況を「大変苦しい」から「大変ゆとりがある」までの五段階に分けて尋ねたところ、回答は「苦しい（大変、やや）」に集中しており、「大変苦しい」が39.5%、「やや苦しい」が40.7%を占める。30、40歳代では「大変苦しい」が5割に達している。

4. 健康状態

建設産業で働く労働者は危険な場所で作業をしたり粉じん暴露されるなど作業環境はよくない。加えて、有機溶剤など危険・有害物質を使ったり振動工具などの作業機械を使うことも少なくない。職業性関連疾患に罹患する危険性の高い職種の一つといえよう。

そこで本調査では、厚労省の調査²⁵と同じ設問を用いて、「現在の健康状態」「普段の仕事での疲れの程度」「持病の有無及び種類」について調べ、同省の調査結果と比較して、統計的な有意差の有無を検討してみた。厚労

省調査は現役労働者が対象なので、本調査についても、稼働している季節労働者に限定する。また、比較分析は年齢別に行うため、例数の多い「40歳代」～「60歳代」の男性に限定した（但し、厚労省調査では「60歳以上」）。

結果は、第一に、「現在の健康状態」において、「やや不調である」と「非常に不調である」をあわせた「不調」群の割合は、どの年齢でも季節労働者で多かった（表4-4）。「50歳代」と「60歳代」ではそれぞれ全体の3分の1前後を占め、統計的にも有意な差がみられた。

第二に、「普段の仕事での疲れの程度」においては、どの年齢においても、「とても疲れる」の割合が2倍から3倍に及び、統計的に有意な差が確認された。

続いて、持病（ここでは「医師から診断されたもの」）について（表4-5）、まずはその有無をみたところ、どの年齢層でも、厚労省の調査結果よりも有病率が高く、統計的な有意差も確認された。また、持病の特徴としては、どの年齢層でも「腰痛」の比率が高いことがあげられる。

最後に、建設産業で働くものにみられる職業性関連疾患（じん肺、難聴、振動障害な

表4-4 年齢別にみた現在の健康状態及び普段の仕事での身体の疲れの程度
(厚労省調査結果との比較)

		40歳代		50歳代		60歳代*	
		季節	労働者計	季節	労働者計	季節	労働者計
現在の健康状態	非常に健康である	11.5	6.8	5.7	4.7	1.2	15.2
	まあ健康である	59.0	68.1	50.5	72.0	52.7	70.7
	やや不調である	20.5	19.0	31.8	14.0	27.2	8.9
	非常に不調である	3.8	1.8	3.1	1.3*	4.7	1.2*
	健康であるとも不調であるともいえない	5.1	3.7	8.9	5.3	14.2	2.1
不調群（やや+非常に）		24.3	20.8	34.9	15.3*	31.9	10.1*
普段の仕事での身体の疲れの程度	とても疲れる	33.3	15.0*	18.9	8.3*	22.8	6.5*
	やや疲れる	55.1	62.1	74.2	60.5	61.4	43.9
	あまり疲れない	7.7	20.4	5.8	27.1	8.2	39.1
	まったく疲れない		0.5		2.0	1.2	5.7
	どちらともいえない	3.8	2.0	1.1	2.1	6.4	4.9

*p<0.05

注1：本調査回答者（季節労働者）と、労働者計との差の正規分布検定を行った。

注2：労働者計のデータは、厚生労働省「平成14年 労働者健康状況調査」結果より。

注3：*は厚労省調査では「60歳以上」。

表4-5 年齢別にみた持病の有無及び種類
(厚労省調査結果との比較)

		40歳代		50歳代		60歳代*	
		季節	労働者計	季節	労働者計	季節	労働者計
持病がある		46.7	35.2*	58.4	48.2*	66.9	50.3*
持病がない		53.3	64.8	41.6	51.8	33.1	49.7
(ア)胃腸病		5.4	7.1	5.3	8.0	10.2	5.8*
(イ)高血圧		10.8	6.9	20.6	16.1	27.5	24.3
(ウ)高脂血症		1.4	4.8	7.4	7.3	8.4	8.5
(エ)肝臓病		2.7	3.6	4.8	4.1	3.6	1.6*
(オ)心臓病		4.1	0.6*	4.2	3.2	8.4	3.4*
(カ)糖尿病		5.4	4.5	10.6	8.5	12.0	9.4
(キ)腰痛		16.2	8.0*	25.9	12.0*	28.1	11.6*

*p<0.05

注：表4-4に同じ。

ど)を疑わせる自覚症状の有無について尋ねた(但し今回の調査では、各症状を訴えるものがどの程度みられるのかを把握するにとどめている。よって、振動工具の使用状況や就業経験年数、あるいは、呼吸器に影響を与える喫煙の有無などは尋ねていない)。

結果は次頁の図4-8のとおりで、どの症状においても、一定の割合で「いつもある」

群がみられる。手や腕あるいはヒジなどの症状(ク、ケ、コ)でも1割前後に達する。また、各症状の「いつもある」の個数を足し合わせてみた。結果は、約6割の回答者にはひとつも症状がみられなかったが、2割の回答者には2個以上、1割の回答者には3個以上の症状がみられた。詳細な把握が今後の課題である。

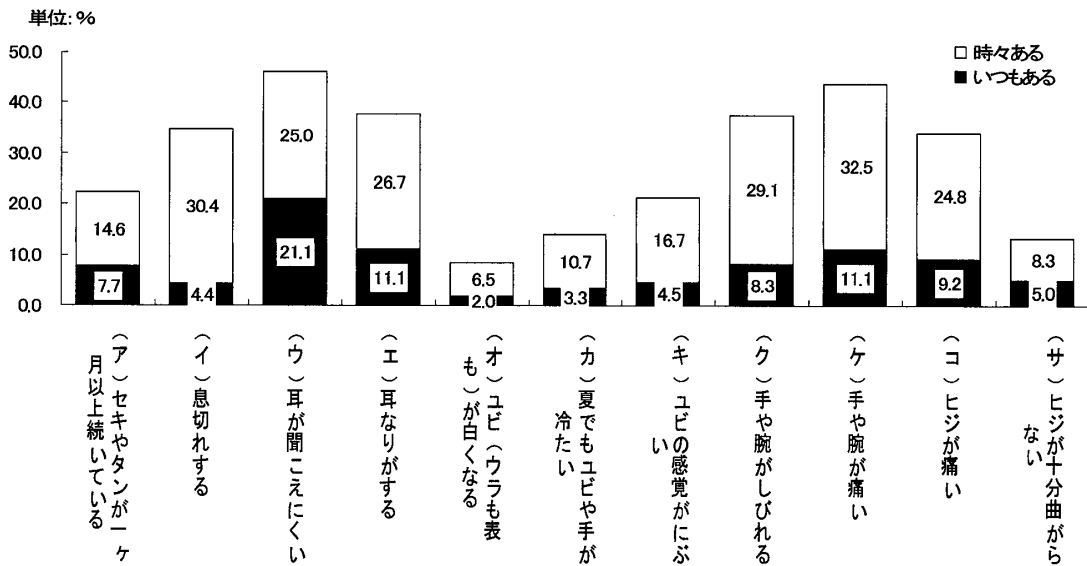


図4-8 職業性関連疾患を疑わせる自覚症状の有無

5. 非稼働者及び生活保護受給希望者

冬期技能講習受講者だけを対象としてきたこれまでの調査と異なり、今回の調査は、非稼働者(もと季節労働者)も対象にしたものだった。そこで、以下では、「非稼働者」群(103人)の特徴をみる。あわせて、生活保護の受給を希望している者(「生保受給希望者」群72人、現在受給している者は除く)についても、特徴をとりあげてみた。

1) 非稼働者の特徴

まず「非稼働者」群についてみると、全体よりもさらに高齢者が多い(平均値65.7歳)。よって以下の諸特徴は高齢の回答層のそれと重なる。

すなわち、住まいは「持ち家等」が全体の4分の3(75.0%)を占める。

世帯の人数で、「1人暮らし」の割合が1割強なのは「稼働者」群とほぼ同じだが、「2人」が半数弱(47.9%)と約10ポイント高い。また、世帯に就業者がいるものは、6割(61.2%)にとどまる。なお世帯の収入源としては、「家族の年金収入」が多い(43.8%)。

公的年金を受給しているものが7割

(70.7%)を占めるが、「非受給者」群の4分の1(23.8%)は「公的年金は一切入っていない」。また、医療保険は全体の4分の3(74.2%)が「国保」に加入し、保険料の支払状況も良好である(「滞納している」は8.1%)。しかしながら、人数はわずかだが、「年間を通じて無保険」が4.3%みられる。

生活上の不安に関する特徴は、(カ)医療費47.3%、(キ)介護問題37.6%が全体に比べて、それぞれ10ポイント以上高いことである。とりわけ前者については、高齢者層の回答状況に比べても多い(但し、(ク)自分や家族の健康に対する不安は、多くはない)。また、「現在の健康状態」でも、「非常に不調である」が2割(19.8%)を占めて、高齢の層に比べても多い。そして最後に、生活保護を現在受けているものが4人おり、「希望している」ものは2割(21.8%)を占める。

以上をまとめると、「稼働者」群に比べると「非稼働者」群は、持ち家比率が高く、年金収入が(低水準とはいえ)あるものの、本人の就業収入がなく、健康上の不安を抱えている(実際、健康状態はよくないものが多い)こともあり、生活保護の受給を希望するものが多い。

2) 生活保護受給希望者の特徴

彼らの年齢は回答者全体に比べてやや高く(平均値 61.8 歳)、また、「働いている」のは全体の 7 割 (73.6%) で、回答者全体 (84.1%) に比べて 10 ポイントほど低い。

彼らのうち稼働者についてみると、(a)就労日数の平均値は 79 日で、女性の値よりも少ない。受給を希望する「60 歳代」32 人に限定してみても、74 日にとどまる(「60 歳代」全体では 87 日)。

(b)昨年は回答者の 8 割 (83.3%) が一時金を受給しているが、今年は「もらえそう」が 42.6%にまで下がり、代わって、「もらえなさそう」22.2%、「わからない」25.9%が多い。

(c)賃金水準もやや低く、平均値は 8,975 円である。年間収入が 200 万円未満の割合も 8 割 (78.6%) にまで増加する。

生活関連では、(a)まず世帯構造が、回答者全体に比べると「1 人暮らし」が多いことが特徴である (22.2%)。

(b)年金については、受給者の受給金額が 90 万円と回答者全体 (106 万円) に比べて低いこと、また非受給者において「公的年金は一切入っていない」が半数 (51.5%) に及ぶことが特徴である(無回答者の中にも未加入者がいる可能性については先述のとおり)。

(c)生活の不安は、全員が「ある」と回答し、内容については、「生活費」が回答者全体の値を 10 ポイント以上上回っている。

(d)暮らしの状況は、「大変苦しい」が 7 割を超えている (73.6%)。

健康に関しては、(a)「現在の健康状態」で、不調の割合が高く(「やや」36.6%、「非常に」14.1%)、(b)「仕事による疲れ」で、「とても疲れる」が 4 割弱を占めている。つまり、健康面において就労が困難な層が少なからず含まれると思われる。各自覚症状が「いつもある」の個数も多い(0 個は 37.7%)。

身体の調子を悪くして十分に働くことがで

きないために賃金収入は減ってしまい、さりとて、年金には加入していないか加入していても十分な給付額ではないために家計が困難に陥っている状況が示唆される。

V. まとめに代えて

建設業で働く(かつて働いていたものも含む)季節労働者の仕事や生活あるいは健康についてみてきた。

統計上からは漏れた季節労働者も含め幅広い実態把握を目指した今回の調査の目的が十分に達成し得たとはいえないものの、公共事業「改革」が進む中での彼らの仕事や生活の厳しさを一定程度明らかにすることには成功したといえよう(資料 I の自由回答も参照)。

すなわち、就労機会が少ない(減少している)ことや、収入水準が著しく低く、働き盛りの層も含めその多くが年間の賃金収入が「200 万円未満」という水準に位置していること。また、世帯の収入源で本人の就労収入しかない世帯も少なくなかった。

さらに、公的年金保険や医療保険をめぐる問題が確認された。すなわち、国民健康保険や国民年金は、保険料が高い一方でサービス給付の内容が低い点はさておき、そもそもそれらの制度に加入さえできない層が一定程度存在すること(将来的に、制度から漏れる可能性が高いものまで含めるとその割合はさらに大きくなる)である。

あるいは、「2007 年度調査」の最後でみたとおり、身体を壊して十分に働くことができなくなった層が生活の危機に直面していることなどである。

高齢であったり病気を持っているなどして働けない層への生活保障、すなわち、医療や年金保険制度の改革や、生活保護制度の改革(受給しやすく、かつ、離脱しやすい制度への改革)が必要である。むしろそれらは、季節労働者に限ったことではなく、増大するわ

が国の低所得者一般への政策課題でもある。

また、「冬も働きたい」という声に象徴される、働く意思のある（働くことが可能な）層に対する、就労機会の確保が重要な課題²⁶である。建設業で働く季節労働者に限定して言えば、それは、公共事業改革を視野に入れる必要がある。この点について少しふれておく²⁷。

すなわち、無用のインフラ整備・環境破壊・国や自治体の財政悪化の深刻化・談合などに象徴される業界の不正な習慣等々を鑑みるならば、事業費の削減も含め、公共事業の改革は不可欠である。だが、現行の「改革」は必ずしもそういうものではない。特定地域あるいは経済成長を前提とした大型開発型の事業に事業費を集中させるものに過ぎないという批判もみられる。これからの社会、すなわち、高齢者人口のますますの増大と人口減の将来社会において求められるのは、これまでのような大型の開発事業ではなく、リフォーム型・生活福祉関連型の公共事業へのシフトである。地域経済への波及効果や雇用創出という点でも、事業費規模の大きい公共事業ではその効果は小さいことが指摘されている。さらにいえば、公共事業イコール建設とこだわることなく、かつて実施された緊急地域雇用特別交付金事業のような、それぞれの自治体において必要な仕事が企画・実施できるような制度も検討に値するのではないか。現行の「改革」の問題点などを実証的に明らかにしながら代案を示したい。

もっとも、以上は、中長期的な課題であり、とりわけ今回の制度改変にともなう影響を回避するための緊急避難的な対策（一時金減額の凍結、公共事業での雇用創出状況の検証作業や一定の雇用創出の義務付け、等々）の実施の検討が早急に必要ではないか。

1 不安定就業論の大著である加藤（1991）は、就業が不規則・不安定であること、賃金ないし所得

がきわめて低いこと、長時間労働あるいは労働の強度が高いこと、社会保障が劣悪であること、労働組合などの組織が未組織であること、の五つの指標をとりあげ、その幾つかに該当するものを「不安定就業階層」としている。

- 2 建設政策研究所 (<http://homepage2.nifty.com/kenseiken/index.html>) は、「災害・環境破壊を起こさせない国土作り、快適な国民生活に必要な社会資本の建設、建設産業界の民主化、建設労働者の労働条件の改善と社会的地位の向上などの立場から、建設産業、公共事業、建設労働、建設行政、および関連領域などに関する調査・研究を行い、国民と労働者の生活向上に貢献することを目的として活動」している NPO 法人の研究センターである。筆者は「建政研北海道センター」の理事長をつとめている。
- 3 季節雇用をめぐる問題について総括的にまとめたものとして、「建政研北海道センター」（2003）がある。
- 4 「建政研北海道センター」（2002）p9。
- 5 この点に関わって、「建政研北海道センター」（2003）の椎名恒「北海道における「季節労働」「季節労働者」の意味するもの」及び佐藤陵一「季節労働者の歴史的形成と課題」を参照。
- 6 北海道開発をめぐる問題について歴史的にさかのぼって整理された小田（1999）を参照。
- 7 最近発表された「事業所・企業統計調査」の結果（速報）でも、北海道の従業者数は、この5年間（01～06年）で16万8,800人も減少し（減少率は6.5%で全国の2.3%を大きく上回った）、中でも、建設産業では6万1,729人も著しい減少がみられた（21.6%減）という（『北海道新聞』朝刊2007年7月26日付）。
- 8 「北海道」の資料（「季節労働者の通年雇用化の促進」）によれば、北海道の季節労働者は全国の57%を占めている。
- 9 雇用保険の被保険者には、一般被保険者、高齢者継続被保険者、日雇労働被保険者そして季節労働者が属する短期雇用特例被保険者があり、季節労働者は、失業時には、特例一時金が支給される。その額がこれまでは基本手当日額の50日分であった。
- 10 「建交労道本部」が、2006年度の技能講習に参加した季節労働者を対象に調査票を配布し、その場で回収を行った。調査票の主な設問としては、回答者の年齢や職種、季節労働者の経験年数、昨年の仕事の就労日数、労働諸条件や賃金など処遇、家族の就労状況・収入源、今年の仕事の見通しなどである（調査票は資料Ⅲ-1を参照）。各講習

- 会場での調査票の配布数は不明である。回収数は1850部である（いずれも有効回答）。
- 11 「建政研北海道センター」（2003）によれば、1981年から2001年にかけて、建設業で働く男性の季節労働者の就労日数（平均値）は、234日から164日に激減している。
 - 12 上記の就労の開始時期（月）と終了時期（月）から就労期間を算出した。計算式は、就労終了月マイナス終了開始月+1ヶ月（例えば4月から12月までのケースでは、9ヶ月）。
 - 13 有休が「あった」という回答は3割（29.8%）にとどまった。もっとも本調査では、取得する「機会」があったかどうかを尋ねている。よって、「制度」として有休があったケースは、この結果よりも多くなると思われる。
 - 14 ほとんどは基本日額で回答されていたが、時給単価で回答されたケースも一部にあった（123ケース）。本稿では、これらについても基本日額で示した。すなわち、時給単価とあわせて回答してもらった時間数を時間単価に乗じたその値を、基本日額とした（例、1,000円×9時間の場合、9,000円）。
 - 15 建退共等に関する回答では矛盾するような内容も一部にみられた。例えば、建退共に加入している会社で働いているながら、手帳を持っていないと回答しているケースなどである（手帳が会社に預けられたままになっていて、回答者がそのこと自体を把握していない？）。そうした回答自体が、建退共に関する実態やこの制度に関する回答者の理解度を反映しているものと考え、そのまま取り扱う。
 - 16 順にみていくと、(1)まず、「手帳を持っていない」のが全体の3分の1超（38.3%）で、「会社に預けたままにしている」（33.9%）か「夏場は会社に預けて、離職時に返却」（6.3%）されているのは、合計で4割にとどまる。残りは、「わからない」（13.7%）か、「自分で持っているが、会社では証紙を貼ってもらっていない」（7.8%）。(2)手帳を会社に預けているという回答者（n=554）に限定してみたところ、その多く（69.7%）は証紙の貼付を「確認したことがない」。残りは、「毎年確認している」8.1%、「何回か確認したことがある」22.2%である。(3)証紙の貼付状況もよくない（n=440）。最多は「わからない」（「男性」では45.9%、「女性」では33.3%）で、「公共の仕事の分も民間の仕事の分も証紙がすべて貼られている」のは3割に満たない。残りは、「公共の仕事の分だけ」18.9%、「公共の仕事のうち一部だけ」6.6%、あるいは「全く貼られていない」4.8%。
 - 17 北海道労働局による、平成18年における労働基準法違反・労働安全衛生法等違反事件の送検状況（平成19年2月8日発表）によれば、送検件数は60件で、建設業が28件（46.7%）で最多である。またいわゆる労災隠しは全体で10件で前年の2件から大幅に増加している。
 - 18 全体の公的年金受給状況は、回答者の年齢構成を反映して、多く（83.7%）は、「まだ公的年金を受給していない」。
 - 19 「建交労道本部」が主催した冬期技能講習を受講した経験のある季節労働者に対して、郵送方式で調査を行った。次頁の表のとおり、名簿が整備しやすかった札幌圏及び旭川圏などを中心に、6,309人に対して調査票を郵送した。なお今回の調査では、建設業以外の業種で働いていた（講習受講時）季節労働者は除いた。郵送の結果、8月19日時点で、宛先・転居先不明970件、差し入れ口閉鎖1件、死去6件、受け取り拒絶1件（合計978件）があった。残り5,331件のうち、回収されたのは714件だったが、そのうち「生活保護受給中」という理由で無回答が2ケース、死亡（遺族からの返送）が1ケースがあったので、有効回答は711件である（さらにその後回収されたのが現時点で70部あるが、今回の分析からは除く）。なお調査票の内容は、大きく分けると、属性、現在の就労状況（就労している場合には就労条件）、現在の暮らしの状況、健康状態等である。調査票は資料Ⅲ-2を参照。
 - 20 もっとも、その他の設問での回答内容をみると、ここでいう「正社員」が、いわゆる安定雇用・通年雇用・各種の社会保険加入等を意味しているのかは、検討が必要である。
 - 21 調査票では、雇用形態・就業形態等の設問で尋ねたが、分けて示している。なお出稼ぎの種類の内訳は、「本州への出稼ぎ」に○をつけたのが8人、「道内遠隔地への出稼ぎ」に○をつけたのが4人、いずれにも○はついていないものの就労日数に関する設問で「出稼ぎ」箇所に回答を記載していたのが15人である。
 - 22 『朝日新聞』朝刊2006年7月4日付では、「受診我慢の末、死亡 国保料滞納で保険証取り上げ」というタイトルで、同社の調べで21人が死亡していることを報じている。この記事にも記されているとおり、この21人は氷山の一角だろう。
 - 23 北海道内の自治体の国保保険料の滞納状況をまとめた札幌社会保障推進協議会の調べ（2006年6月1日時点）によれば、北海道全体の滞納世帯率は18.69%、札幌市は22.04%である。

- 24 「希望している」かどうか、という尋ね方はやや適切さに欠けたかもしれない。なぜならそれは、「意思」というより「状態」を尋ねるものであり、むしろ、「希望する」かどうか、という尋ね方をすべきだったかもしれない。希望の有無を尋ねたこの設問で、受給経験を尋ねた前の設問よりも、無回答が多かったのはその影響が考えられる。
- 25 厚生労働省「労働者健康状況調査」。調査は 5 年に 1 度の頻度で実施されるため、用いたデータはやや古い（平成 14 年）。
- 26 相対的に若い年齢層については、手厚い教育訓練等を通じた他業種への移動という対策も視野に入れる必要があるだろう。
- 27 椎名（2003a）や中山（1999, 2001）などを参照。

参考文献

- 青木紀, 杉村宏『現代の貧困と不平等—日本・アメリカの現実と反貧困戦略』明石書店, 2007 年
- 岩井浩「現代の失業・不安定就業の構造的変化」岩井浩ら編著『現代の労働・生活と統計』北海道大学図書刊行会, 2000 年
- 岩田正美『現代の貧困』筑摩書房, 2007 年
- 奥田仁「北海道の労働市場」『地域経済発展と労働市場』日本経済評論社, 2001 年
- 加藤佑治『現代日本における不安定就業労働者【増補改訂版】』御茶の水書房, 1991 年
- 建設政策研究所北海道センター『地域に役立ち失業者を支える就労対策を目指して（研究代表 椎名恒）』建設政策研究所北海道センター, 2002 年
- 建設政策研究所北海道センター『北海道季節労働者白書 第 3 集（研究代表 松田光一）』建設

- 政策研究所北海道センター, 2003 年
- 小田清「戦後 50 年 北海道開発の問題と今後」『建設政策北海道情報』No. 2, 建設政策研究所北海道センター, 1999 年
 - 厚生労働省「ホームレスの実態に関する全国調査報告書」（2007 年 4 月 8 日発表）
 - 椎名恒「北海道の建設産業の「季節労働者」とホームレス」『社会政策学会誌』御茶の水書房, 1999 年
 - 椎名恒「公共事業改革と地域雇用・地域経済」『月刊 地方自治職員研修』492 号, 2003 年 1 月
 - 椎名恒「北海道にみる野宿者と失業・雇用問題（上・下）」『経済』No. 88・89, 新日本出版社, 2003 年
 - 中山徹『地域経済は再生できるか』新日本出版社, 1999 年
 - 中山徹『公共事業改革の基本方向』新日本出版社, 2001 年
 - 労働運動総合研究所『今日の不安定就業労働者の実態と人権』（『季刊 労働総研クォーター』No. 55・56）労働運動総合研究所, 2004 年

資料一覧

資料 I 自由回答（2007 年度調査）

資料 II 単純集計及びクロス集計表

- II-1 回答者全体及び男女別, 男女別・年齢別, 地域別にみた調査結果一覧表
- II-2 回答者の就労場所別, 勤め先の規模別にみた調査結果一覧表
- II-3 職種別にみた賃金額（基本日額）
- II-4 公共工事現場で働いた回答者全体及び職種別にみた賃金額（基本日額）
（以上、「2006 年度調査」結果）
- II-5 回答者全体及び男女別, 稼働状況別, 年

表 調査実施地域別にみた、調査票の郵送及び宛先等不明で回収された数

	使用名簿	郵送部数	宛先等不明数	郵送完了数
札幌圏	1998～2007 年受講者	3190	661	2529
旭川圏	2001～2006 年受講者	1492	83	1409
美幌町等	1977～2007 年受講者	870	199	671
標茶町	1997～2007 年受講者	299	4	295
厚岸町	1989 年以前～2007 年受講者	330	28	302
浜中町	1989 年以前～2007 年受講者	128	3	125
合計		6309	978	5331

注 1：「美幌町等」は一部（郵送部数で 15 部）を除き美幌町である。

注 2：時期が確定できない名簿（1989 年以前）が、厚岸町では 59 部、浜中町では 23 部あった。

	年齢別（男女）、生活保護受給希望別、居住 地別にみた調査結果一覧表		（以上、「2007年度調査」結果）
Ⅱ－6	男女別・職種別にみた賃金額（基本日 額）	資料Ⅲ 調査票	
		Ⅲ－1	「2006年度調査」調査票
		Ⅲ－2	「2007年度調査」調査票

資料 I 2007 年度調査の自由回答
 ※回収された調査票全ての自由回答を掲載

- 【001】医療費、税金が高くなりすぎている。年金者からも税金をとるな。60 歳以上でも、仕事をすると税金とより年金からも税金をとって。(男性、68 歳、標茶町)
- 【003】年齢が 60 歳なので仕事を見つけたのが難しい。(男性、60 歳、札幌市)
- 【005】妻の介護で時間の (かかる—調査者) こと。これから先の介護費。介護にあった住宅をどのようにしていくかについて。介護費その他で出費が多くなってきているので、これからが心配になっています。年金などは少なくなり保険費用が高くなったことなど。(男性、72 歳、美幌町)
- 【008】19 年度の冬期 1 月～4 月は少々ながら仕事があった。もっと冬期の仕事日数を多くしてほしいです。これでは、税金を払ったら生活費が何ほも残らない(男性、57 歳、美幌町)。
- 【009】現在 70 歳。この先不安です(男性、70 歳、札幌市)。
- 【010】賃金が下がっているのと仕事がない。失業保険が少くない。いつも生活の面での不安がある。(男性、58 歳、美幌町)
- 【012】私は●●という水産会社に約 8 年間勤務し厚生年金を掛けたのですが、5 年以内に申請しなかったといわれ、時効だと言われて厚生年金をもらうことができませぬ。国民に掛け金をさせておいて時効とは社保庁の詐欺

- ではないでしょうか。私のような方が全国に多数おられると思います。現在町議の方にお願いをして社保事務所または国会議員の方に取り付けていただいています。厚生年金をもらうまで頑張ろうと思っています。(男性、71 歳、浜中町)
- 【013】エビがみんな曲がってしまっただので手先の仕事が大変です。(女性、60 歳、浜中町)
- 【020】冬期間の生活は大変に厳しかった。現在病氣治療中です。働けないのが辛いです。公的な年金は季節労働者にとつて大切なので、健康、失業の不安を抱えているひとも多く、支給を繰り下げるのは反対!! (男性、64 歳、美幌町)
- 【026】今は仕事量が減っても働いています。12 月以降失業すると 2008 年から一時金も下がると聞いている。冬期技能講習もなくなれば冬期の生活も見通しがきけません。今の会社では 60 歳で力仕事ができなく、賃金も下がります。現在の状態でも私はまだよいほうでまだまだ楽しい人が多いです。何とかしてほしいものです。(男性、59 歳、札幌市)
- 【027】働いても働いても生活にゆとりがなく納める (税金・保険料等の調査者) 金額が多すぎる。それにかわり、周りに、何もしないで国のお金をもらっている人があまりにも多すぎる。(女性、58 歳、旭川市)
- 【031】このような調査をして提起してどれだけ聞き入れてくれるのでしょうか。我々が生活苦から脱出できる

- とは思えない。我々の生活がかえって悪くなってきている。会社仲間もみな生活に苦しさを感じている。(男性、52 歳、札幌市)
- 【036】何年も給与があがらず、それでも何とか生活できるのは冬の間の助成金と失業保険 50 日分があるからでしたが、2008 年からはそれも切られて 40 日分だけでどうやって高い灯油をたぎ、生活していくというのでしようか。せめて 50 日にもどることを願っております。(女性、55 歳、美幌町)
- 【037】昨年で建設業を定年退職して今年から年金暮らしです、4 月から 9 月までキャンプ場の管理人をして週 2 日出ていますが、10 月からは今のところ一切仕事の関係は見通しがたっていないので、何とか多少のバイトでもあればと思っています。金銭面と健康のため。(男性、65 歳、美幌町)
- 【038】仕事を変えて (結婚) 独立したいけれど希望の仕事が無く収入も不安定。本来の職業以外の仕事が増えて身体的にも精神的にもきつくなってきた。収入も 10 年前に逆戻りで雇用保険もなくなるとのことで、先行き不安と不満だらけ。(男性、33 歳、旭川市)
- 【039】仕事不安定で収入の心配と人間関係が年々悪くなってウツ気味だと言われた。(男性、30 歳、旭川市)
- 【042】冬期にできる仕事あつせんなどの強化。年金や国保などの見直し (厚生年金への加入)。子供の教育費、高校大学にも特別に手当てを (低年収

- の時)。交通費や道具代にとても金額がかかり手取りが少ない。冬期の仕事が無いため生活に不安。(男性、45 歳、札幌市)
- 【048】現在一人暮らしでなんとか生活していますが、年金もきちんと納めていないので、これからが不安です。腰痛があるのできつい仕事をすると休むこともあり、このままで続けていくのだろうか、転職を考えたりましたが、この年で新しい仕事を見つけないのも難しいでしょうから。(女性、54 歳、厚岸町)
- 【055】昨年まで季節雇用されていたのですが、今年は仕事が忙しい時にしか声がかかなくなりました。現在も仕事がありません。田舎なので仕事がかかえていっているのでしょうか。体の弱い兄をかかえていられるのでどうしたらよいのか。今は仕事さえあればと思つています。(男性、57 歳、石狩市)
- 【056】家族収入を含めても住宅ローンなど支払い等で非常に生活が厳しい。私たち労働者が生活をしやすいように。私たち労働者が生活をしやすいように。収入も減らされています。雇用一時金も減らされています。(女性、56 歳、旭川市)
- 【057】4 つの症状以外に別にかわつたことはなし。あえていえば右足の膝から下が時々痛むことがある。(男性、72 歳、美幌町)
- 【058】年金で生活をしています。今年の 1 月まで仕事をしていました。(男性、67 歳、旭川市)
- 【060】1 日の日当が安いために生活がゆるくない。なんとかありません

- か？1日1万円で道具代もかかきり困っています。(男性、63歳、札幌市)
- 【061】50日分に戻して欲しい。冬期技能講習にかわる新しい制度の創設をお願いします。(男性、59歳、札幌市)
- 【062】自分の好きな仕事をやりたい。(男性、59歳、旭川市)
- 【068】我々みたいな季節労働者が年々と悪くなっているけれども、これから先も悪くなれば、生活していけないからもう少し国も季節労働者(対策一調査者)にも力を入れて欲しい。(男性、52歳、美幌町)
- 【070】賃金が安いのと、年中仕事がないので大変不安です。失業保険料をもっと増やして欲しい。また一時金をもっと続け、たくさん出して欲しいです。(男性、58歳、旭川市)
- 【073】一時金の廃止(減額)や冬期技能講習の廃止で現在でも生活することが大変なのに(特に冬期間は灯油代が月に3万円もかかる)、これからのように食べていくのか。夏の間冬の分の生活費をたためれない状況なので、年明けから失業するので非常に心配です。国は北海道の季節労働者に、死ぬ！と言っている。税金だけとっておいで。おかしい人間の集団だ。(男性、48歳、旭川市)
- 【082】賃金が安くて生活ができません。(男性、60歳、札幌市)
- 【083】年金が少ないため老後が不安です。(男性、69歳、札幌市)
- 【085】この先、いつまで仕事が続くが心配。(男性、56歳、美幌町)
- 【089】朝早く健康に仕事が出来なくなるのが心配です。(女性、57歳、旭川市)
- 【090】地方の仕事が多く、会社に送迎用の車両がないため現場直行。交通費はなしで3日に一度の給油(4000円以上)の出費と社会保険費で給料の半分がなくなったり失業保険(50日分)がなくなったら下りなどで100万円とられます。天下りなどから、どうかものはわがが違うのですから。どうかもとの制度に戻れることをお願い致します。(男性、63歳、札幌市)
- 【091】肉体労働なので正直、体はきつい。早朝(am4:00)からの仕事は家事との両立が厳しい。冬、仕事がない分、夏場に頑張って収入を得ないと生活ができない。(女性、48歳、恵庭市)
- 【092】60歳を過ぎてももっと働ける場所があるといいと思います。一人暮らしなので働かなければ収入がないので生活が厳しいです。年金だけじゃ生活していきません。(女性、60歳、旭川市)
- 【101】地元で生活したいが、仕事がない。資格を取得しても、地元では生活できない。(男性、38歳、旭川市)
- 【102】50日の一時金が減った。90日間になるとよい。それが冬の間の仕事があるとうい。(男性、61歳、当別町)
- 【107】一万円あった日給が元方でカットされ、今日給8500円。土工の単価が安い。もつと国のほうであげて欲しい。(男性、52歳、札幌市)
- 【109】高齢者すべての方に年金支給制度を。(男性、64歳、札幌市)
- 【110】平均的な収入が欲しい。通年で仕事がしたい。(男性、45歳、旭川市)
- 【113】冬期の間の生活は厳しい。一般人から税金を取りすぎだ。やっぱり冬期技能講習や一時金削減させないで欲しい。命を落とす人が多い。(男性、42歳、標茶町)
- 【114】平成17年より賃金1万1500円から1万円になり、1日9時間単位が10時間になり残業(代一調査者)も減りました。又、今まで日曜出勤手当が不払いの1日になり(休日出勤手当が不払いになり？一調査者)大変苦しくなっています。この不景気の中、会社に言えないのが現状です。誠に困ったものです。(男性、58歳、標茶町)
- 【116】年金の収入より、税額の率が多いため、生活ができなくなるのではいつも不安です。又、老いてくるに従い、病院へ行くことが多くなり、医療費が増えてきました。いつまで働くことができるか、頑張っていること、うと考え、明るくいこうと思います。(女性、62歳、厚岸町)
- 【119】1人で生活しているが年々生活が苦しく健康的に日々不安を感じ、時に病院へ行きたいが、お金がなくて行けない状態である。(男性、64歳、札幌市)
- 【121】とられる税金が高くなるばかりで賃金は上がらず。下がる一方で。他の人はボーナスカットなどという話もあります。本当に景気は良くなってきているのでしょうか。子供のいない私達は働けど税金ばかりをとられ、好きで子供がいないわけではないのだと思っています。変です。差別だと思つて、仕方なく税金を払ってきています。なんとかならないのでしょうか。ありえないことばかりです。(女性、43歳、標茶町)
- 【124】生活に対して出て行く(ものが多い一調査者)事は厳しい事です。わずかの働きの介護保険料が上がりますが、年金から差し引かれ、本当に大変です。65歳までは安かったが、65歳を過ぎたら何でこんなに高くなるのですか。年をとってから保険料が上がると生かさないもありません。(男性、67歳、札幌市)
- 【132】季節労働者にとっては冬の間の生活が大変です。収入が無いのでから。今年初めて2月からですがありました。いつもの年ならば4月か5月です。失業保険も少なくなるようなことを聞き不安です。先が心配です。(男性、57歳、江別市)
- 【139】生活がだんだん苦しくなってきました。失業保険が下がってきていますので大変です。北海道の冬期講習が必要です。(男性、60歳、旭川市)
- 【142】国は日雇い人を馬鹿にしている。金のない者は死ぬと言っているのと同じだ。(男性、52歳、旭川市)
- 【145】仕事をするのに高い道具をもつて賃金がやすい。ボーナスなどもらったこともない。仕事のないときははず一つもない。生活が苦しい。弁当と道

- 具は自分もちだから。(男性、64歳、千歳市)
- 【151】会社の大小(ランク)にかかわらず、有休は必ず支給して欲しいものです。(女性、60歳、札幌市)
- 【153】年々仕事が減少している。雇用期間が短く冬場の仕事が無く先々がとても不安である。(男性、61歳、旭川市)
- 【157】仕事が減っていて、働きたくてもそれほど忙しくない。(男性、64歳、旭川市)
- 【159】今、大工という仕事が大変おっくうになっております。年のせいなのででしょうか。(男性、不明、不明)
- 【161】冬に仕事が無い。(男性、57歳、旭川市)
- 【163】長時間の労働時間に週1回の休日、汗だくで体の節々が痛いのをこらえて働いても、給与が、同年代の会社員の半分以下の年収にしかならない。冬期失業保険も下げられ、しまいにはなくなると言う。どうやって生活していけばいいのか!!会社の社長も2代目であるけれど、仕事の段取りもできない。全て従業員が他業者との確認をしなければいけない。それとてもストレスになっている。この調査がそれだけに終わらないようにして欲しいです。調査だけで終わるのなら誰でもできます!!これをものにもっと国会をゆるがすだけの問題提示ができればなんにもならないですよ!!(男性、49歳、石狩市)
- 【166】私も建設業の冬期の仕事が
- 性、66歳、美幌町)
- 【176】日本という民族にはおおよそ1600年以上の歴史がある(神武以来)。しかし北海道の歴史は200年もない。沖縄県は2000年もの歴史があるが、昭和史の中でめっちゃめっちゃになった。その両方が日本の中で最も国民の年収が最低となっている。なぜ重要な地域である両県に対し公共投資を止めるのか理解できない。安倍家の晋ちゃんでは話にならない。共産党も民主党も追及があまり。(男性、63歳、札幌市)
- 【178】胸が苦しく頭のめまいで目も悪くとても悩んでいます。(男性、56歳、札幌市)
- 【180】固定残業がある。通年雇用でないのが仕事が安定しない。(男性、48歳、江別市)
- 【183】年でするので、アルバイトでもよいですが、少ない厚生年金が切られてなくなつた(1昨年に)。10年あまりももらえていたのですが、これからが大変です。(男性、78歳、美幌町)
- 【185】農業をしながら働いていたのが大変苦しい。(男性、77歳、美幌町)
- 【198】冬期間の生活がとくに苦しく、国民年金では生活ができません。(男性、66歳、石狩市)
- 【201】60歳を過ぎると仕事が無いのが困る。(男性、62歳、石狩市)
- 【204】公共事業が少なくなつて仕事が減っているのが年収が減っている。(男性、57歳、旭川市)
- 【216】昨年までは土木会社で雇用してもらっていたが、今年は仕事が少な
- いためと、女性の雇用はしないといわれ、少しのアルバイトで何とかして生活をする事になりました。アルバイトも毎月あるわけでもなく、大変、生活、お金の面でも困っている毎日です。私も50近いので仕事がなかなか見つかりません。(女性、48歳、美幌町)
- 【219】毎月20万以上が家庭に入る生活がしてみたいです。(男性、59歳、札幌市)
- 【220】体調が悪く病院に毎日行く状態で、年金も少なく、妻も寝たきりで子供の仕事(土木)も少なくなつてきているので、私達、家族の生活は大変苦しい状態です。いろんな面で毎日楽しく暮らしたいです。私達貧乏人を助けてください。(男性、80歳、美幌町)
- 【225】最近の大きい仕事は何でも機械が必要になり、機械代金の下駄になる。賃金の割りにかかりすぎる年になると機械を買うのもおっくうである。冬期間に仕事が無いので大変である。(男性、57歳、不明)
- 【230】仕事はばつとしない。税金と色々なもの値上げ。とても生活が大変です。(女性、56歳、旭川市)
- 【234】全体的に仕事が少なくなつてきていて、冬場には見通しが無い状況です。1日当りの給料も減つてきて、子供を育てるのが不安です。(男性、44歳、札幌市)
- 【235】平成19年度は1月から12日位の仕事がありました。7月からは仕事が始まりました。会社からお金を借りたは大変でした。会社からお金を借りました。春から仕事をしたいです。(男

- 性、58歳、札幌市)
【237】 持病を持っている労働者に対して会社や周囲がもつと理解をして欲しい。(男性、40歳、石狩市)
【238】 失業（給付金—調査者）90日希望！！冬期技能講習復活希望！！(男性、36歳、石狩市)
【242】 50代に入ってから病院のお世話になることが多くなり、自己負担も多く、3割は家計にひびき、大変だなと思う時が多いと感じます。自己負担の軽減、何とかならないでしょうか。(男性、54歳、札幌市)
【244】 若い頃から頑張ってきたが(去年まで仕事)、何も喜びにながらるものは無かった。人をその気にさせるような甘い話を毎年毎年聞かされただけ。気がついたときにはもう60歳に手が届く。夢も希望も果て、この先、残された人生を自力で生きるしかない。命が続くまで、果てるまで。(男性、58歳、札幌市)
【246】 春、仕事が始まるまでの生活が大変です。(男性、60歳、美幌町)
【251】 国民年金が少ないこと、灯油が高いので、大変に困っています。よろしくお願い致します。(女性、78歳、標茶町)
【252】 冬期講習をもう一度見直して欲しい。(男性、40歳、標茶町)
【253】 会社の仕事場にカメラがあり、いつも見張られているのですごくストレスが溜まる。(男性、67歳、旭川市)
【256】 もう少し不安のない仕事が続けばよいな！市営住宅などの家賃の少ないところへ移りたい。(男性、64歳、札幌市)
【259】 賃金が安すぎます。道具代がかかる。(男性、63歳、札幌市)
【261】 昨年から見ると仕事が少ない、休みの日が多い。又、体の具合が悪く手もお金がないので病院に行って検査もできない。あと1、2年で仕事をやめるが年金もないので困る。5、6年はかけたが年金は掛け捨てか。(男性、65歳、札幌市)
【262】 自分は昨年10月に軽い脳梗塞にかかり、今現在は毎日、リハビリと仕事をやり毎日頑張っております。現在はアルバイト仕事と生活保護のお金で生活をしております。(男性、55歳、石狩市)
【266】 現在子供が3歳と11歳なので、自分の年齢から、かなり不安である。今年の冬が一番つらいと思う。(男性、50歳、札幌市)
【276】 雨が降って仕事が無いときや、その年によって仕事が多い少ないが有ること不安で、なかなか生活が安定しない。妻も仕事をしているが大変である。(男性、57歳、札幌市)
【277】 今年から資格を取得し、2級建築士として働いています。が、季節労働者ときより労働時間も短く(短く一調査者)、賃金も安く大変です。もっと労働者の賃金をあげてください。(男性、27歳、札幌市)
【278】 会社が西区で自分は東区に住んでいます。燃料が高くなって交通が大変です。仕事も月々15~20日位、生活も大変です。会社に6時に行つて
- 作業車に乗り、現場が8時なので、それから昼なしの状態です。5時以降は残業ということになるのですが、朝の時間と昼と、現場で終え自宅まで帰る時間が(無給であることに一調査者)不満です。(男性、51歳、札幌市)
【279】 現在胃がんで入院中です。収入が全然ありません。(男性、60歳、札幌市)
【283】 重いものを持つたり同じ姿勢で長時間労働は足と腰に負担がかかる。(女性、42歳、旭川市)
【292】 今後建設業は苦しくなると思っている、だからと言って、サラリーマンは出来ないと考えます。(男性、47歳、札幌市)
【295】 仕事が減少して社員が少なくされその仕事内容がきつくなった。(男性、61歳、旭川市)
【297】 年々仕事が減少し労働条件が悪化しているのは私の職場も同じであります。しかも冬期の生活が不安であります。冬期講習が廃止、一時金も削減、来年の年明けをどうするのか不安です。多くの金額は望みません。年間雇用もしくは一時金90日をお願いしたい。若い労働者は借金をして、子育てもできない。これで今後「美しい日本」と総理は言っているが、「国民を守る国」にして欲しい。(男性、52歳、美幌町)
【300】 働いていても年金が全額もらえるようにならないでしょうか？少ない年金が減らされる制度がわかりません！(男性、62歳、美幌町)
- 【304】** 1日の賃金をあげて欲しい。社会保険にして欲しい。雇用保険50日から40日分になるようですが、40日にしないで欲しい。(男性、56歳、標茶町)
【311】 季節労働者などで冬期講習分と失業保険減額分で、冬の生活が大変心配です。何か変わりの仕事(アルバイト)でも(短期)探す予定です。年齢です、なかなかありませんが！！(女性、57歳、札幌市)
【312】 健康保険の増額、介護保険の増額、仕事(公共事業)がないのに住民税の増額など大変苦しいので、生活保護のほうにずっと良いのではないのか？年金も100万円以下でやっと思活しております。冬期講習の中止、一時金の国(50日から40日に下げる)など。国の行動に対して腹がたります。みんな選挙で変えよう。(男性、64歳、旭川市)
【313】 仕事上での資格者・免許等がある者にはもつと賃金・見合った給料が欲しい。働くことは大切なこと、それに見合った社会生活ができる世の中であって欲しい。(男性、49歳、札幌市)
【314】 上下の差が大きすぎます。(男性、65歳、江別市)
【319】 夫婦が国民年金であれば将来生活していくのは大変な事です。40年かけても70万少々のこと(1人当り)。将来が不安です。何とかしていただきたい。若者達が安心して暮らせる世の中にして欲しい。(男性、63歳、美幌町)

【322】公共事業の減少にとともない生活費の減少。消費税やその他の公共料金増額にとともない生活が苦しくなっています。又冬期技能講習もなくなり、先行き不安でしょうがありません。皆様方の御力でどうか季節労働者のために働いて下さい。お願い致します。(男性、58歳、旭川市)

【323】特定疾患の病気になり、身体が思い通りにならないので、仕事もままなりません。1日に休み休みなので半分の仕事です。無理もできませんので仕方ありません。(男性、63歳、札幌市)

【324】夫と別居しているのも私一人の生活です。でも手首が痛んで思うように働けない。(女性、56歳、旭川市)

【325】夏場、働いたお金で1月から4月まで食べていかなければならないのでとても大変です。(男性、63歳、札幌市)

【326】冬の技能講習が廃止され、失業保険も減り大変です。冬の間、いつ仕事があるのか前の日にならないとわからないので、仕事がないときも夜のバイトを探すばかりありません(運転手を会社でやっているため)。建設関係は毎年大変だとつくづく実感する。(男性、40歳、札幌市)

【327】賃金が安くて生活が・・・(男性、53歳、江別市)

【328】夏はどうか働いているので、生活できるが冬は厳しい。子供夫婦の職業が建築の大工なので賃金も年々下がりが、残業しても残業代が出ず。子供が大きくなりお金がかかり家のローンもあがり、お金をしよちゅう借りにくるので、それが1番の困ることです。老後も心配です。今年一杯位しか働けないので、大工の親方も作業員の生活を考えて欲しいものです。(女性、67歳、旭川市)

【329】月に7日でも10日でも仕事があれば幸せ。(男性、70歳、札幌市)

【330】病气や怪我にあつたときの病院の対応(3ヶ月問題)。高額な医療費の心配。本人負担3割など。(男性、64歳、札幌市)

【331】今の会社は時間帯は他の会社より厳しいです。6:30~17:00までが実働です。おかしいとは思いませんが、会社の名前は書きませんけれども、とてもキビシイです。でも、体のほうは慣れました。賃金も、時間(当り一調査者)にしたら安すぎます。冬は出稼ぎです。労働者どうしの協力が必要だと私は思います。(男性、54歳、釧路市)

【332】生活上収入がたがりません。失保を50日以下にして欲しくない。65歳以上も冬期講習にして欲しい(65歳以上でも働ける場合)。何とかよろしくお願い致します。(男性、65歳、札幌市)

【333】一年間通じて働きたいです。私達は年ももっているもので、別のところでも働きたいと思っても、45歳までとなっていて、半年しか働くところしかありませんので、ガマンしています。(女性、55歳、樺茶町)

【334】病院代が高いのに困ります。(男性、70歳、旭川市)

【335】最近仕事が無くて退屈して

【336】税金関係が多く、又収入が少なくなつたのに、家賃が変わらず、月々の生活が大変です(ガンソリン税って取り過ぎでは?)。(男性、52歳、江別市)

【337】仕事が出来なくなつた後の生活の心配。大きな病気になつたとき。(男性、64歳、札幌市)

【338】北海道は冬場全くとってよいほど仕事がなく、そうならば本州へ働きに行けというのが議員達の心だつたのでしようか。今から20数年前、50日の一時金に決定する事に誰一人反対者がいなかったのは議員達が労働者には想像できない程の給料を受け取っていたからなのでしょう。これからますます季節労働者は不要の者どもになるのでしょうか、議員、経済界の人たちも現場労働を休み無くやってもらいたいと思います。(男性、62歳、旭川市)

【339】就業の時間、日数が少なすぎ(仕事量が少ない)。(男性、42歳、旭川市)

【340】今、土木の仕事を探していますが、年齢及び通勤などで条件が厳しい。車が無いので通勤で、募集も同じ会社しかでていない。50歳、55歳までの定年が多い。生活保護は建前であり昔、相談に行つたら、ただ、仕事を探さないの一言でした。私は耳が悪く(身体手帳もありますが)なんの相談にものつてくれません。(男性、57歳、千歳市)

【341】生活保護を受けています。心臓機能障害1級。(男性、65歳、千歳市)

【342】年金ももつていますが、給料が月17日間のため大変です。国民健康保険料と市民税が高く、ほとんど年金はないことになりました(年金で支払をしています)。もう少し仕事があればと思つています。今年再婚をする予定になつていますがもう少しゆとりがあればと思つています。(男性、64歳、札幌市)

【343】仕事があつたりなかつたりするので大変です。1ヶ月7日~10日くらいしかないので、生活が大変です。(男性、50歳、札幌市)

【344】冬期技能講習制度が廃止になり冬場の生活を考えると不安があります。冬場の短期雇用も難しく、夫婦で季節労働者なので、冬場の仕事の提供や年間雇用の会社が増えるよう願っています。(女性、49歳、札幌市)

【345】主人と共稼ぎです。今年に入ってから、仕事が少なくて休みが多いため、生活が大変です。税金や介護保険料やその他物価が高くなって苦しいです。(女性、64歳、旭川市)

- 市) 【406】建設業の仕事を増やして欲しい。1年間働きたい。(男性、38歳、大空町)
- 【409】私は国の命令で13歳のときに樺太から引揚げ家族9人で乗った船が砲撃され8人不明、1人になった。家具建具製作に弟子入りし手に職はつきました。家庭をもつても給料日は賃金を払ってもらえない誓らした。今はみな貧乏。国に甘え、求めすぎです。私は生活保護者より少ないお金でくらしているのです。(男性、74歳、札幌市)
- 【414】現場でケガをして8~9年経ちます。現在も病院に通っています。労災の手続きをしています。春3月27日以降の休業補償も出ずに現在に至っており、現在も交渉しています。(男性、65歳、旭川市)
- 【418】冬期の失業に対して国の政策の削減案の撤廃を求めたい。(男性、54歳、旭川市)
- 【419】冬期講習を無くしてはいけません。北海道は冬になると仕事が無くなるし、50日の一時金も無くなると季節労働者達はみんな生活が出来なくなります。冬は特に灯油代もかかるし冬にお金が無いのはつらい。だから絶対復活をして欲しい。(男性、23歳、旭川市)
- 【421】仕事はややハードです。生活上では妻が難病のために家に帰ってからの家事がありますので、毎日のことなので、たまに肉体的に疲れることがあります。私は自分が選んだことなので頑張ります。(女性、57歳、厚岸町)
- 【422】北海道という土地がら、通年雇用が難しい。もつと建設土木業を考えてもらいたい。20数年この業種をしてきてつくづく思います。これまで開発されてきた現代、これからは維持管理に仕事を多くしてもらいたい。第一次産業をこれからは応援します。今は自営業を手伝っています。またしたいと思っています。(男性、51歳、札幌市)
- 【424】収入が非常に低いため生活が大変。家族手当等が少しでもあればいいと思う。(男性、52歳、札幌市)
- 【425】日曜出勤をしても割増がないが誰も文句を言わない。変な会社だけれども、言えば、気に入らなければやめても良いと言われた人がいた。(男性、69歳、札幌市)
- 【431】毎年半年近く仕事がないため保険代が払えず苦しんでいます。生かさず殺さずギリギリの生活でいつも頭が痛い。(男性、51歳、札幌市)
- 【436】仕事を通してない。(男性、58歳、江別市)
- 【440】アルバイトでも、少し仕事があればありがたい。(女性、70歳、札幌市)
- 【446】会社から、自分に対する仕事の内容が、時間は良いけれども、仕事の量がきついのと重労働だ。仕事からみれば賃金が安い。(男性、61歳、旭川市)
- 【448】仕事が昨年からみれば半分は減ってとても生活が不安です。(男性、57歳、旭川市)
- 【451】冬場の仕事が無いので大変です。生活費がかかるもので。だからと言って、健康保険は毎年高くなる。年金代も高くなる。市民税全てが上がるので、大変です。働いていけば何とかなると思い頑張っています。体が体の方が大変です。(男性、54歳、旭川市)
- 【454】安定した賃金と通年雇用。安全な作業環境。(男性、57歳、札幌市)
- 【455】5月から仕事をしたいが、いまだに雇用契約書かわわっていない。会社自体、10月から仕事が切れるので不安。(男性、31歳、美幌町)
- 【462】介護保険料について。小額の年金から引かれるのは大変きついです。本間に介護を受けるときにはもつと負担がかかるのだし。一度も使うことなく終わる人もいるのに年金から引かれるのは納得がいかない。介護保険を使用せず死亡したときには返してもらえないのですか。(男性、70歳、美幌町)
- 【469】冬に仕事が無くなれば一時金の50日でも少ないのに、これ以上、減らせられたらとてもじゃないけれども、生活に支障が出ると思います。国は、季節労働者達は死ねと言っているのと同じだ。(男性、30歳、旭川市)
- 【471】冬の間は仕事があったのですが、4月以降無くなり、今現在も見通しの怪たない状況です。年も高齢のため本州に行くのも？(男性、61歳、札幌市)
- 【479】建設業で大工として仕事をしたいけれども、腰痛とひざの痛みで仕事をやめました。(女性、57歳、厚岸町)
- 【480】仕事が無く、苦戦しています。通年雇用があればよいのですが、なかなかなく、探すのに苦労しています。(男性、37歳、札幌市)
- 【483】会社の従業員の高齢化。シート、フリーターと言われるひとたちが増えるが、若者は肉体労働を敬遠する傾向にかわりはない。これは「低賃金」に由来するとも言える。このままでは後継者が育たない。(男性、55歳、札幌市)
- 【490】ハローワークを通じ就職活動をしていますが、今までに何十件も断られています。資格もあり働きたいのですが、とても難しい状況です。1人の募集に対して30~50倍。(男性、59歳、札幌市)
- 【503】公共事業の減少でこの先の生活等が不安です。(男性、57歳、美幌町)
- 【504】季節の冬期助成金の減額を90日間の復帰を強く望みます。政治家は自分の収入を考えて欲しい。働くことの大変さを一番知るのが政治家ではないのでしようか？(男性、61歳、札幌市)
- 【506】90日支給を実現して欲しい。(女性、50歳、札幌市)
- 【507】建設関係の仕事は全て重労働なのでこれからはとても無理と思いますが、アルバイトでも、1日何時間でも、仕事なら、今は身体も健康なので、働きたいと思っております。年齢もありません。身体のためと思

- つて、毎日毎日長い時間を歩いておられます。家族もいつも一緒ならイヤだと思えますので。(男性、63歳、札幌市)
- 【508】仕事がいっつも切れて生活が苦しい。会社はないってこっち側の事なんか考えていない。借金だけが増えていくばかり。支払もままならない。北海道は冬は仕事にならないから大変だ。(男性、28歳、札幌市)
- 【510】冬の収入が少なくなり、今年はとて不安です。仕事はまああるほうですが、残業が全くなり、給料も下がるばかりで、手取りが・・・悲しい限りです。冬の仕事をお願い致します。(女性、61歳、旭川市)
- 【514】現在の仕事は体力的にきつくなっています。生活しているので、転職したいと思っています。(男性、51歳、旭川市)
- 【515】今年は特に仕事が無く不安な毎日です!! (男性、52歳、旭川市)
- 【516】90日支給復活を願っています。(男性、53歳、札幌市)
- 【523】冬場は特に仕事が無く大変である、一年を通して安定した雇用をしていただけると有難い。(男性、49歳、札幌市)
- 【525】普通の生活ができればいいと思っています。(男性、59歳、札幌市)
- 【529】不安定なので仕事のあるときとないときの差が厳しく、労働条件も厳しく、時間外手当がつかず、年齢も増すごとに賃金も減少。働く気があっても年齢で仕事が出来づらく、公的年金などもなく、保障もないので、ますます国民年金をやっとかかっている位では、生活していけない。生活保護をもらうより拙い年金とは、一生懸命支払っているのに情けない。(男性、63歳、旭川市)
- 【530】給料の支払が遅れたりするのがすごく困る。(男性、46歳、旭川市)
- 【533】なんといいっても賃金が安すぎる。もうちよつとなんとかならないのか。(男性、44歳、札幌市)
- 【545】年金だけでは苦しいので大変です。(男性、68歳、標茶町)
- 【549】税金が高すぎて生活が大変です。(男性、41歳、札幌市)
- 【550】体を使う人のほうが賃金が安い。公務員、会社員の方々と比べると将来的に何の保障もなく、病気でもしたら終わりです。いつの時代になったら、皆公平な待遇を受けることができるといいでしょう。(男性、69歳、札幌市)
- 【553】じん肺の管理区分2は出たが、その後、検査通院1年半を過ぎてても障害及び傷病の医師の診断書が出ないので、心配である。(男性、64歳、札幌市)
- 【558】毎日、新聞の募集欄をみては電話をしているのですが、年齢でことわられて困っています。(男性、59歳、標茶町)
- 【562】年間を通して働きたいです。(男性、38歳、旭川市)
- 【564】生活が苦しく、仕事をしたい。(男性、56歳、美幌町)
- 【568】59歳、仕事もだんだん少なくなってきたので、いつ仕事がなく
- なるか不安です。年金までまだ6年位あるので、その間がとて不安です。(女性、59歳、標茶町)
- 【569】一時金のことが一番不安です。(男性、30歳、札幌市)
- 【570】失業保険の冬期講習の復活を欲したい。一時金も50日にしたい。(男性、59歳、札幌市)
- 【571】2007年になって町道民税が6万円~16万円になり大変不安です。ますます税金があがりとても生活に不安です。国民健康保険税も、仕事がなくとも、月々23000円もかかります。少しでも多く働こうとすると税金でみんなもっていかれます。(男性、60歳、美幌町)
- 【573】年間を通して仕事があれば大変ベスト! (男性、56歳、旭川市)
- 【576】物価の値上げ、税の値上げ、年金が下がり、生活苦である。景気だ景気だと政府は騒いでいるが、我々年金者には実感がわいてこない。(男性、71歳、美幌町)
- 【577】健康になりたい。医師がウソ診断をしている。(男性、60歳、美幌町)
- 【578】今、仕事で足を骨折し、労災をもらっているのですが、足のこと、仕事のことでのいろいろ心配しています。相談にのってくださるのなら相談したいです。(男性、63歳、旭川市)
- 【580】病気のとき、気軽に病院へ行きたくても行けない。健康状態が悪くても働かなくては収入が得られないので、心配です。公共料金の支払が、毎月返済が遅れる。毎日職場に行くのが苦しい(人間関係)。(男性、57歳、札幌市)
- 【586】仕事はもういいです。足腰などを痛くしないようにしたいです。耳鳴りがひどいからつらいです。いつもキーンと言っています。1日2日働いたら4日5日体中が痛いです。(男性、68歳、旭川市)
- 【587】まだリハビリをしている状態ですが、仕事はできると言われているので、早く仕事に就き、安定した生活を送っていきたくと思っています。(女性、42歳、札幌市)
- 【594】仕事が朝8時30分からずつと立ちっぱなしで足や手が。掃除をやると目から涙が出たり頭から汗が出るのでタオルやハンカチで17時30分まで終わるまで頑張って、嫌な仕事でも仕事が無いかから、自分のために頑張る生活しています。(男性、44歳、札幌市)
- 【596】仕事がなくなつた。もう少し希望の持てる世の中にして欲しい。(男性、61歳、標茶町)
- 【601】59歳になると仕事が無い、収入が無いで大変です。電気・ガス・水道の支払が滞ることもあり、時には電気が止められたことでもあります。(男性、59歳、旭川市)
- 【604】一時金の削減の停止、季節労働者の国保の減額、冬期技能講習の復活(早急に)。お願いします。(男性、44歳、札幌市)
- 【606】国民年金をもらう年(65歳)まで雇用してくれるか? (男性、57歳、札幌市)

- 【608】税金は多くなるばかり。賃金は安くなるばかり。今年の冬（1～3月まで）働かせて頂き助かりました。せめて1月～2月（最低）働かせてもらえたらと思います。生活保護者がうらやましく思うこともあります。これも国民の税金、冬期技能講習制度は大変助かっています。廃止となると、体調が悪くても、病院へは行けなくなりますね。食べるのがやつとです。から。（男性、58歳、標茶町）
- 【609】老後の保障等の不安が常にあります。社会保障の拡充を希望します。（男性、53歳、標茶町）
- 【610】今から冬の生活の仕事を考えておかなければならぬけれども、今年の冬は出稼ぎにでなければと思っています。どんな仕事で自分に適しているのか分かりません。造園の仕事、林業の仕事があればよいけど。（男性、58歳、札幌市）
- 【614】北海道の建設業就労者にとつて雇用保険は生活費。絶対に50日支給は守ってもらいたい。それが無理なら、積雪地域の建設業者全社の従業員を通年雇用出来るだけの仕事を国が保証すべき。（女性、59歳、美幌町）
- 【616】働いているがどんな仕事でもしないと食べてはいけないのがあるだけに難い。（男性、54歳、美幌町）
- 【618】賃金が安い、冬場仕事が無く雇用保険だけでは生活していけない、年金や国保を支払うことができない。（男性、24歳、札幌市）
- 【628】1ヶ月先の仕事があるか分からない。年間どれくらい働けるか分からない。春から仕事が始まるか分からない。（男性、42歳、旭川市）
- 【629】道内は官需関連で働く中小個人の労働者が多いにもかかわらず、末端労働者までの各種労働救済項目等が守られていないことが多い。役人は下を見て改善指導を企業に行え！又、北海道の労働者はレベルが低い。政治の仕組みを知ること。東京から帰郷した職人より。（男性、54歳、札幌市）
- 【631】今は仕事に行っています。年金生活も大変です。仕事がなく困っています。（女性、66歳、旭川市）
- 【632】なんと冬場の仕事が欲しい。（男性、57歳、標茶町）
- 【636】暮らしが辛い。（男性、55歳、美幌町）
- 【638】秋冬場に仕事が無くなるので収入が無くとても辛い。（男性、64歳、札幌市）
- 【639】もつと仕事が欲しい。（男性、64歳、札幌市）
- 【641】私が腰痛で働けないので国民年金だけでですで大変です。（男性、77歳、厚岸町）
- 【643】65歳以降の仕事の目処がなく不安です。（男性、62歳、札幌市）
- 【645】年間を通し仕事が少ない非常に苦しい生活です。私達弱者を代表すると先生と言われる議員の皆様の活躍を切望する次第です。（男性、62歳、札幌市）
- 【647】景気がよくないので、単価があがらないのはしょうがないが、建退共すら支払わないゼネコンが多数あるのは呆れます。アンケート調査ご苦労様です。（男性、41歳、札幌市）
- 【648】主人も季節的な仕事をしているので、主人の労働日数が非常に少なくなっています（建築土木関係）。二人合わせての収入も年々少なくなっています。生活設計が出来づらくなっています。今は無理をして冬は国民年金を払っています。将来年金をもらうために私わなぐてはと思っています。（女性、55歳、美幌町）
- 【657】おかげ様で健康。仕事もママ一順調にある会社にとめさせてもらい、有難いと感謝しています。これからは元気で働けることを望んでいます。（男性、60歳、美幌町）
- 【659】年間として仕事があれば給料が少しく安くてもいいですけれども、生活も少しは楽になると思います。（男性、48歳、札幌市）
- 【663】冬場も仕事があればと思う！冬場の収入が無い。（男性、54歳、旭川市）
- 【665】市外現場に自家用車を走らせても燃料代が1円も出ないのが大変です。（男性、61歳、札幌市）
- 【666】仕事の時間が長く、休みの日もわからないので、疲れるしあまり出かけられない。まあ建設業だから仕方がないとあきらめています。（男性、36歳、札幌市）
- 【667】50日の一時金が安くなるのは辛い。なんとか、札幌市や道などが国に考え直して欲しいです。老後が心配です。（男性、58歳、札幌市）
- 【668】年間を通して収入が安定しないため毎月の予定が成り立たない。冬期技能講習と50日の一時金にもう一度見直して欲しい。自分なりに努力しても冬は年齢的に使ってもらえない。（男性、41歳、札幌市）
- 【671】冬期技能講習制度の再実施と50日の一時金の増加をよろしくお願ひします（冬期の生活資金のため）。国民健康保険料を支払うのが難しいため保険料の値下げをお願いします。（男性、59歳、札幌市）
- 【678】仕事が年々減っていくのが大変不安で、色々転職を考えたりしていませんけれども、年齢だけで断られるのは私はまだまだ働けると思っているんですけれどもね。また、建設の仕事しか知らないものから、これから、新しい仕事も考えると本当に不安です。これから冬に向かっ、灯油が高くなるし、いろいろ考えたら寝れないときがあります。（女性、59歳、旭川市）
- 【681】夫の仕事が年間ではないため（夏は道内、冬（1～4月）は内地に出稼ぎ）、切り替えの時期は待機になることが多い、そのため、休むということが長期（1ヶ月以上）になることがあるので、生活面での不安は常にあります。（女性、55歳、美幌町）
- 【685】仕事は斜面法切が多いので、体は大変疲れます。賃金が少し安いとも思っています。でも生活のためと思って頑張っています。職場は大変チームワークがよく楽しく働いています。仕事をやめたら生活は大変だと思っています。（男性、69歳、厚岸町）

- 【688】長時間腰をまげていると痛くなるので困る。(女性、70歳、標茶町)
- 【689】昨年11月、仕事場でのアキシデントで肩を痛め、2件の個人病院を受診するも、“肩の炎症”といわれ、注射とリハビリに通いましたが、全く良くならず、3件目の大学病院でのMRIで“腱板断裂”が判明しましたが、アキシデントから数ヶ月経過していたため、労災認定の見通しも暗く、手術した場合、復帰まで半年以上かかるとのこと、生活のため、痛み止めの注射を受けながら、肩をかばいながらもなんとか現在も仕事を続けていますが、この状態がいつまでもつか、不安な毎日です。(男性、54歳、旭川市)
- 【692】アルバイト・短期により収入が少ないので年間の生活が大変である。又、失業保険もつけてもらえない。冬期間、又、仕事が始まるまで生活が大変である。(男性、46歳、標茶町)
- 【693】建築板金工ですが冬の1、2、3月の期間全く仕事がありません。失業保険のみの収入です。とても年金を払う余裕がありません。少しでも生活が楽になるようよい方法をお願いします。(男性、48歳、旭川市)
- 【697】通年で働くかもしくは90日雇用して(雇用保険を90日分支給に戻して?—調査者)欲しいです。(男性、55歳、旭川市)
- 【705】有休があるのに一番上の立場でいるために使えない。毎年使わずに流している。(男性、58歳、美幌町)
- 【710】将来、転職して安定した生活がしたい。(男性、38歳、札幌市)
- 【716】仕事量の割には収入が少ないと思う。夏、冬のボーナスが欲しい。(男性、70歳、札幌市)
- 【718】一日も早く家族と生活をしたい。妻もパートで働いているが、10年ほど前に手術をしてからあまり調子がよくないし、子どもは高校生になったがやはり父親と一緒に暮らすことを望んでいるから。出稼ぎだと家への仕送りと自分の生活費が必要になるので、ある程度、給料をもらっても、決して楽ではない。(男性、47歳、旭川市)
- 【721】主人も62歳であと何年働かせてもらえるか。年金だけでは絶対生活していけません。今は臨時に働いているけれども、年収は少ないので大変です。(女性、58歳、旭川市)
- 【729】仕事中にケガをさせられた私かなぜこの辛い生活をさせられるのか、この国には失望している。危険な仕事をさせられて怪我をさせておいて、あとは生活保護で食えと遠まわしに言われた。もう三年間、仕事ができない状況。私は排除された。(男性、49歳、旭川市)
- 【730】たくさんあって書けません。(女性、60歳、江別市)
- 【734】賃金が低く、仕事がつく、大変な生活です。他の仕事に就くこともできず、今の仕事で頑張っています。が、何年できるかとても不安があります。仕事も、今年はありません。私の努力ではどうにもなりません。他力本願であります。(男性、57歳、旭川市)
- 【740】石工業なので、セキ、手のしびれは絶えない。会社の都合により12月は〇〇日までと突然言われて切られる。あと3日くらいで満度もらっているひとと、我々のように切られ、日払いになる違いにとでも不満である。始まりも4月1日からとのことであるのに、その年により10日から開始するとか本当に気まぐれである。それによつて日払いになり、生活が大変である。1~3月までの失業期間、全く仕事がないわけではない。仕事があるときは連絡が入り、時間給で使われる。少しでもお金が欲しいので、応じてしまふ。一年を通して、仕事はあるのにひどい使われ方をしている。社長は、冬場はゴルフさんま。他の社員は毎年海外旅行。どうしてこの現状にもっと厳しい監査が入らないのかと思う。通年雇用補助が会社に支給された十年前は3年ほど通年雇用をしてくれた。雇用金をもらうより通年雇用できるようにして欲しいです。(男性、52歳、旭川市)
- 【741】厚生年金に加入したい。社会保険に加入したい。(男性、28歳、旭川市)
- 【743】国に搾取される金額が大きすぎて生活がよくなる。年収は180万円円で健康保険料が年間20万円もひかれる理由がわからない。要望は一時金90日の復活です。最低でも50日は継続していつてもらいたいです。委託講習も復活して欲しいです。(男性、28歳、札幌市)
- 【750】国民年金、道民税が払えない(冬場)。なのに失業保険が減る。労働者は苦渋の生活である。とくに季節労働者。(男性、28歳、札幌市)
- 【751】道内で働く場が少ない。年金生活に入る前に、安心して生活できる状況でないため、先が不安でやむなく2重生活をすしかないが、出稼ぎも経費がかかり、食事も献立も健康面心配。何のための出稼ぎか。道内で安心して働いて家族と生活できる場を最低限確保して欲しい。(男性、59歳、大阪府出稼ぎ)
- 【752】以前は請負制で、請負金があったが、現在は請負金が出なくなつた。妹の福祉からの貸付金の連帯保証になっており、生活が苦しい。(男性、60歳、札幌市)
- 【756】冬の間も仕事がしたいです。(女性、52歳、旭川市)
- 【757】仕事に責任をもたされるが賃金が安いと感じる。年々賃金が減るため生活の見通しがつかず、将来が不安、貯金もできずにこのままの状態が続くのかと思うと、働く気力も失せてしまうので、景気回復を望んでいます。不安が多くあるので、後日に電話することがあると思いますので、そのときはよろしくお願いします。(男性、54歳、旭川市)
- 【760】働ける日数が少ないため、手取りが少ない。(男性、55歳、札幌市)
- 【763】どの政策も改善策と称するものも、年寄りや身体不自由者にとつて、笑顔をとりにぎやされたものは何も期待できない。どうしたら、自民、民主に代わって、すつきりとした労働者第

一党が活動できるのかしつかり考え
てもらいたい。「助けて!!」といつ
も叫んでいます。(男性、66歳、札幌
市)

【767】脳梗塞でいまは仕事をしてい
ません。仕事のことだが、明日からお
前は知らない(と言われ—調査者)、
70でやめた。行くところ(行くところ
行くところで—調査者)お前はいら
ないと言われた。(男性、75歳、美幌
町)

【771】賃金が毎年下がって止まりま
せん。土曜日の仕事も減り、毎日の時
間外がほとんどなくなり、将来の不安
でいっぱいです。(男性、55歳、美幌
町)

【772】65歳を過ぎ、1年と言わず、
大変な時と考える。今の自民のやり方
は日常的に労働者泣かせだ。皆様方の
力の限り、ついていくのでよろしく。
(男性、65歳、旭川市)

【774】今は健康で働けるが時々仕事
が休みで、これからの仕事が続くか不
安であります。農業であるが、出稼ぎ
に出ているが、これから仕事に出られ
るか不安を持っている。特に建築の現
場が少ない年が続いています。(男性、
63歳、当麻町)

【779】働けど働けど暮らし楽になら
ず。(男性、38歳、旭川市)

	全体	男女別		男・年齢別									
		男	女	30歳未満		30歳代		40歳代		50歳代		60歳以上(65歳まで)	
	1766 100.0	1207 100.0	557 100.0	173 100.0	160 100.0	189 100.0	431 100.0	253 100.0	100.0				
同居家族の有無及び収入状況(2つまで回答可)	(ア)同居している家族はいない (イ)同居している家族がいるが、自分以外には収入がない (ウ)通年で働いて給料をもらっている家族がいる (エ)季節雇用の仕事で働いている家族がいる (オ)パートの仕事で働いている家族がいる (カ)農業・自営業などの収入がある (キ)年金をもらっている家族がいる (再掲)同居家族なし+収入なし	259 14.7 316 17.9 460 26.0 252 14.3 372 21.1 118 6.7 321 18.2 32.6	201 16.7 281 23.3 231 19.1 112 9.3 307 25.4 60 5.0 181 15.0 39.9	58 10.4 35 6.3 41.1 24.8 11.7 10.4 25.1 16.7	26 15.0 31 17.9 56 32.4 16 9.2 54 31.2 13 7.5 11 6.4 32.9	160 100.0 37 23.1 31 19.4 13 8.1 36 22.5 6 3.8 18 11.3 46.3	189 100.0 28 14.8 30 15.9 15 7.9 46 24.3 5 2.6 45 23.8 35.4	431 100.0 81 18.8 79 18.3 34 7.9 111 25.8 22 5.1 64 14.8 42.0	253 100.0 29 11.5 35 13.8 34 13.4 60 23.7 14 5.5 43 17.0 40.3				
所定の労働時間	1716 100.0	1194 100.0	520 100.0	173 100.0	162 100.0	188 100.0	423 100.0	246 100.0	100.0				
8時間未満	277 16.1	148 12.4	129 24.8	17 9.8	30 18.5	26 13.8	47 11.1	28 11.4					
8時間台	1321 77.0	945 79.1	374 71.9	143 82.7	119 73.5	150 79.8	332 78.5	199 80.9					
9時間以上	118 6.9	101 8.5	17 3.3	13 7.5	13 8.0	12 6.4	44 10.4	19 7.7					
残業込みの実際の労働時間	1655 100.0	1166 100.0	487 100.0	170 100.0	157 100.0	186 100.0	414 100.0	237 100.0	100.0				
8時間未満	172 10.4	76 6.5	96 19.7	7 4.1	13 8.3	12 6.5	30 7.2	14 5.9					
8時間台	927 56.0	621 53.3	304 62.4	74 43.5	87 55.4	98 52.7	222 53.6	138 58.2					
9時間台	301 18.2	246 21.1	55 11.3	43 25.3	24 15.3	41 22.0	89 21.5	49 20.7					
10時間以上	255 15.4	223 19.1	32 6.6	46 27.1	33 21.0	35 18.8	73 17.6	36 15.2					
休日の取得状況	1801 100.0	1238 100.0	562 100.0	178 100.0	166 100.0	198 100.0	437 100.0	257 100.0	100.0				
(ア)毎週日曜日と土曜日が全部	72 4.0	41 3.3	31 5.5	4 2.2	5 3.0	5 2.5	14 3.2	13 5.1					
(イ)毎週日曜日と土曜日が月2回	230 12.8	150 12.1	80 14.2	12 6.7	7 4.2	25 12.6	61 14.0	45 17.5					
(ウ)毎週日曜日と土曜日が月1回	57 3.2	39 3.2	18 3.2	4 2.2	7 4.2	3 1.5	15 3.4	10 3.9					
(エ)毎週日曜日	1081 60.0	847 68.4	233 41.5	121 68.0	116 69.9	143 72.2	302 69.1	163 63.4					
(オ)日曜日が2回	21 1.2	17 1.4	4 0.7	2 1.1	2 1.2	3 1.5	8 1.8	2 0.8					
(カ)まったく決まっていなかった	277 15.4	125 10.1	152 27.0	31 17.4	25 15.1	14 7.1	33 7.6	22 8.6					
(キ)その他	63 3.5	19 1.5	44 7.8	4 2.2	4 2.4	5 2.5	4 0.9	2 0.8					
有給休暇	1747 100.0	1202 100.0	544 100.0	176 100.0	159 100.0	193 100.0	421 100.0	251 100.0	100.0				
あった	521 29.8	329 27.4	192 35.3	32 18.2	30 18.9	57 29.5	120 28.5	89 35.5					
なかった	1226 70.2	873 72.6	352 64.7	144 81.8	129 81.1	136 70.5	301 71.5	162 64.5					
有休日数	411 100.0	256 100.0	155 100.0	26 100.0	25 100.0	42 100.0	95 100.0	68 100.0	100.0				
1,2日	54 13.1	30 11.7	24 15.5	4 15.4	5 20.0	7 16.7	8 8.4	6 8.8					
3~5日	104 25.3	62 24.2	42 27.1	7 26.9	5 20.0	13 31.0	22 23.2	15 22.1					
6~9日	60 14.6	40 15.6	20 12.9	7 26.9	1 4.0	4 9.5	20 21.1	8 11.8					
10~14日	190 46.2	121 47.3	69 44.5	8 30.8	13 52.0	18 42.9	44 46.3	38 55.9					
15日以上	3 0.7	3 1.2		1 4.0		1 1.1	1 1.5						
有休取得の機会	492 100.0	312 100.0	180 100.0	31 100.0	29 100.0	56 100.0	114 100.0	81 100.0	100.0				
お盆	269 54.7	172 55.1	97 53.9	15 48.4	17 58.6	32 57.1	62 54.4	46 56.8					
地元のお祭りの日	70 14.2	43 13.8	27 15.0	5 16.1	3 10.3	6 10.7	17 14.9	12 14.8					
会社で決めた日(慰安会の日など)	142 28.9	90 28.8	52 28.9	6 19.4	8 27.6	17 30.4	38 33.3	20 24.7					
自分の都合で休んだ日	275 55.9	169 54.2	106 58.9	17 54.8	17 58.6	26 46.4	64 56.1	45 55.6					
仕事が切り上がったあと	100 20.3	66 21.2	34 18.9	7 22.6	7 24.1	12 21.4	25 21.9	15 18.5					
その他	32 6.5	23 7.4	9 5.0	1 3.4	4 7.1	14 12.3	4 4.9						
仕事での被災経験及び補償状況	1589 100.0	1130 100.0	458 100.0	161 100.0	152 100.0	185 100.0	398 100.0	232 100.0	100.0				
(ア)仕事でケガをして、労災保険で治療した	37 2.3	30 2.7	7 1.5	1 0.6	2 1.3	1 0.5	16 4.0	10 4.3					
(イ)仕事でケガをして、健康保険を使わず会社が治療費を全額支払った	22 1.4	19 1.7	3 0.7	4 2.5	1 0.7	5 2.7	7 1.8	2 0.9					
(ウ)仕事でケガをして、健康保険を使ったが、自己負担分を会社が払った	27 1.7	24 2.1	2 0.4	5 3.1	4 2.6	8 4.3	5 1.3	2 0.9					
(エ)仕事でケガをして、自分の健康保険で治療し、自己負担分も自分で	83 5.2	69 6.1	14 3.1	10 6.2	15 9.9	8 4.3	22 5.5	14 6.0					
(オ)仕事でケガをしたが、病院にかからずに済ませた	77 4.8	68 6.0	9 2.0	14 8.7	13 8.6	9 4.9	24 6.0	8 3.4					
(カ)仕事でケガをしたことはない	1329 83.6	913 80.8	416 90.8	127 78.9	116 76.3	153 82.7	321 80.7	195 84.1					
(キ)その他	14 0.9	7 0.6	7 1.5	1 0.7	1 0.5	3 0.8	1 0.4						

表II-2 回答者の就労場所別, 勤め先の規模別にみた調査結果一覧表

		回答者の就労場所別									
		公共事業だけで働いた		公共事業の方が多かった		公共と民間が半々		民間工事の方が多かった		民間工事だけで働いた	
性別	男	125	100.0	276	100.0	298	100.0	424	100.0	283	100.0
	女	96	76.8	209	75.7	231	77.5	377	88.9	228	80.6
		29	23.2	67	24.3	67	22.5	47	11.1	55	19.4
年齢	30歳未満	125	100.0	276	100.0	297	100.0	424	100.0	282	100.0
	30歳代	10	8.0	26	9.4	35	11.8	67	15.8	31	11.0
	40歳代	7	5.6	28	10.1	36	12.1	60	14.2	39	13.8
	50歳代	14	11.2	43	15.6	39	13.1	70	16.5	47	16.7
	60歳以上(65歳まで)	51	40.8	104	37.7	114	38.4	148	34.9	103	36.5
		43	34.4	75	27.2	73	24.6	79	18.6	62	22.0
職種	普通作業員(土木・雑役)	125	100.0	274	100.0	298	100.0	423	100.0	279	100.0
	大工	77	61.6	136	49.6	137	46.0	103	24.3	61	21.9
	型枠工	3	2.4	11	4.0	18	6.0	58	13.7	78	28.0
	左官	1	0.8	9	3.3	13	4.4	26	6.1	11	3.9
	鉄筋工	1	0.8	2	0.7	6	2.0	9	2.1	4	1.4
	鉄骨工	2	1.6	6	2.2	18	6.0	13	3.1		
	トビ			5	1.8	5	1.7	8	1.9	1	0.4
	塗装工	1	0.8	3	1.1	11	3.7	69	16.3	41	14.7
	建具・サッシュ工	1	0.8			2	0.7	17	4.0	1	0.4
	運転(専属)	4	3.2	4	1.5	14	4.7	15	3.5	4	1.4
	重機・オペレーター	4	3.2	13	4.7	8	2.7	8	1.9	5	1.8
	配管工	1	0.8	9	3.3	2	0.7	3	0.7	1	0.4
	造園	9	7.2	18	6.6	22	7.4	21	5.0	13	4.7
	農業労働	2	1.6	1	0.4	2	0.7	4	0.9	14	5.0
	林業	7	5.6	26	9.5	15	5.0	8	1.9	14	5.0
	コンクリート製造	5	4.0	18	6.6	11	3.7	10	2.4	7	2.5
	その他	6	4.8	11	4.0	12	4.0	39	9.2	18	6.5
	複数職種	1	0.8	2	0.7						
勤め先の規模	1~5人	124	100.0	275	100.0	296	100.0	423	100.0	281	100.0
	6~10人	7	5.6	28	10.2	48	16.2	148	35.0	137	48.8
	11~20人	37	29.8	65	23.6	73	24.7	96	22.7	60	21.4
	21~30人	32	25.8	91	33.1	82	27.7	86	20.3	42	14.9
	31人以上	21	16.9	27	9.8	30	10.1	33	7.8	11	3.9
		27	21.8	64	23.3	63	21.3	60	14.2	31	11.0
回答者の就労場所(公共/民間工事別)	公共事業だけで働いた	124	100.0	275	100.0	291	100.0	412	100.0	274	100.0
	公共事業の方が多かった	73	58.9	141	51.3	152	52.2	151	36.7	87	31.8
	公共と民間が半々	35	28.2	102	37.1	90	30.9	180	43.7	129	47.1
	民間工事の方が多かった	16	12.9	32	11.6	49	16.8	81	19.7	58	21.2
	民間工事だけで働いた										
雇入れ通知書の支給	もらった	124	100.0	275	100.0	291	100.0	391	100.0	247	100.0
	もらっていない	73	58.9	141	51.3	152	52.2	151	36.7	87	31.8
	わからない	35	28.2	102	37.1	90	30.9	180	43.7	129	47.1
		16	12.9	32	11.6	49	16.8	81	19.7	58	21.2
賃金(基本日額)	6千円未満	115	100.0	255	100.0	273	100.0	391	100.0	247	100.0
	6000~6999円	3	2.6	4	1.6	11	4.0	10	2.6	17	6.9
	7000~7999円	17	14.8	25	9.8	35	12.8	26	6.7	25	10.1
	8000~8999円	16	13.9	30	11.8	34	12.5	36	9.2	18	7.3
	9000~9999円	20	17.4	60	23.5	75	27.5	60	15.4	29	11.7
	10000~10999円	15	13.0	35	13.7	39	14.3	44	11.3	23	9.3
	11000~11999円	21	18.3	46	18.0	34	12.5	92	23.6	50	20.2
	12000~12999円	11	9.6	26	10.2	16	5.9	42	10.8	12	4.9
	13000円以上	8	7.0	13	5.1	15	5.5	42	10.8	28	11.3
		4	3.5	16	6.3	14	5.1	38	9.7	45	18.2
賃金(基本日額に、時給×時間も含む)	6千円未満	118	100.0	261	100.0	283	100.0	399	100.0	259	100.0
	6000~6999円	3	2.5	5	1.9	14	4.9	13	3.3	20	7.7
	7000~7999円	17	14.4	25	9.6	35	12.4	26	6.5	30	11.6
	8000~8999円	17	14.4	30	11.5	38	13.4	37	9.3	19	7.3
	9000~9999円	21	17.8	61	23.4	76	26.9	64	16.0	29	11.2
	10000~10999円	16	13.6	36	13.8	40	14.1	44	11.0	26	10.0
	11000~11999円	21	17.8	47	18.0	35	12.4	93	23.3	50	19.3
	12000~12999円	11	9.3	26	10.0	16	5.7	42	10.5	12	4.6
	13000円以上	8	6.8	13	5.0	15	5.3	42	10.5	28	10.8
		4	3.4	18	6.9	14	4.9	38	9.5	45	17.4
	平均値(単位:円)		8947	9243	8706	9645	9664				
	標準偏差(単位:円)		1964	2199	2067	2171	2750				

単位：人、%										
勤め先の規模別										
	1～5人		6～10人		11～20人		21～30人		31人以上	
469	100.0	419	100.0	426	100.0	163	100.0	356	100.0	
375	80.0	297	70.9	291	68.3	111	68.1	188	52.8	
94	20.0	122	29.1	135	31.7	52	31.9	168	47.2	
469	100.0	418	100.0	426	100.0	163	100.0	357	100.0	
70	14.9	48	11.5	44	10.3	16	9.8	14	3.9	
76	16.2	51	12.2	39	9.2	11	6.7	22	6.2	
84	17.9	70	16.7	66	15.5	16	9.8	51	14.3	
163	34.8	145	34.7	169	39.7	76	46.6	141	39.5	
76	16.2	104	24.9	108	25.4	44	27.0	129	36.1	
468	100.0	416	100.0	423	100.0	161	100.0	353	100.0	
79	16.9	128	30.8	167	39.5	61	37.9	124	35.1	
92	19.7	43	10.3	18	4.3	11	6.8	11	3.1	
10	2.1	29	7.0	20	4.7	2	1.2	6	1.7	
16	3.4	5	1.2	3	0.7			2	0.6	
1	0.2	9	2.2	5	1.2	11	6.8	25	7.1	
4	0.9	7	1.7	6	1.4			4	1.1	
7	1.5	3	0.7	3	0.7	5	3.1	2	0.6	
89	19.0	28	6.7	16	3.8			1	0.3	
12	2.6	6	1.4			1	0.6	2	0.6	
4	0.9	8	1.9	17	4.0	3	1.9	13	3.7	
5	1.1	11	2.6	12	2.8	6	3.7	9	2.5	
3	0.6	8	1.9	2	0.5	3	1.9			
25	5.3	32	7.7	30	7.1	14	8.7	8	2.3	
65	13.9	46	11.1	37	8.7	14	8.7	42	11.9	
7	1.5	29	7.0	32	7.6	8	5.0	33	9.3	
7	1.5	8	1.9	26	6.1	16	9.9	49	13.9	
41	8.8	16	3.8	28	6.6	5	3.1	22	6.2	
1	0.2			1	0.2	1	0.6			
368	100.0	331	100.0	333	100.0	122	100.0	245	100.0	
7	1.9	37	11.2	32	9.6	21	17.2	27	11.0	
28	7.6	65	19.6	91	27.3	27	22.1	64	26.1	
48	13.0	73	22.1	82	24.6	30	24.6	63	25.7	
148	40.2	96	29.0	96	28.8	33	27.0	60	24.5	
137	37.2	60	18.1	42	12.6	11	9.0	31	12.7	
448	100.0	410	100.0	413	100.0	161	100.0	350	100.0	
133	29.7	149	36.3	184	44.6	95	59.0	223	63.7	
204	45.5	185	45.1	168	40.7	37	23.0	96	27.4	
111	24.8	76	18.5	61	14.8	29	18.0	31	8.9	
425	100.0	360	100.0	363	100.0	140	100.0	296	100.0	
56	13.2	31	8.6	29	8.0	7	5.0	45	15.2	
33	7.8	40	11.1	51	14.0	21	15.0	49	16.6	
21	4.9	38	10.6	39	10.7	23	16.4	44	14.9	
65	15.3	54	15.0	76	20.9	27	19.3	58	19.6	
33	7.8	54	15.0	50	13.8	16	11.4	16	5.4	
81	19.1	63	17.5	45	12.4	29	20.7	45	15.2	
23	5.4	31	8.6	30	8.3	7	5.0	21	7.1	
48	11.3	26	7.2	23	6.3	2	1.4	11	3.7	
65	15.3	23	6.4	20	5.5	8	5.7	7	2.4	
436	100.0	380	100.0	391	100.0	150	100.0	322	100.0	
62	14.2	43	11.3	46	11.8	11	7.3	52	16.1	
36	8.3	44	11.6	55	14.1	24	16.0	50	15.5	
21	4.8	39	10.3	42	10.7	23	15.3	50	15.5	
66	15.1	55	14.5	79	20.2	29	19.3	64	19.9	
34	7.8	55	14.5	50	12.8	16	10.7	20	6.2	
81	18.6	63	16.6	46	11.8	30	20.0	46	14.3	
23	5.3	31	8.2	30	7.7	7	4.7	21	6.5	
48	11.0	26	6.8	23	5.9	2	1.3	11	3.4	
65	14.9	24	6.3	20	5.1	8	5.3	8	2.5	
	9445		8852		8557		8532		8128	
	2773		2332		2246		2182		2223	

単位：人、%

	勤め先の規模別									
	1～5人		6～10人		11～20人		21～30人		31人以上	
460	100.0	404	100.0	419	100.0	161	100.0	351	100.0	
29	6.3	26	6.4	28	6.7	13	8.1	33	9.4	
56	12.2	63	15.6	92	22.0	30	18.6	57	16.2	
109	23.7	124	30.7	139	33.2	55	34.2	97	27.6	
203	44.1	130	32.2	116	27.7	39	24.2	117	33.3	
44	9.6	47	11.6	33	7.9	14	8.7	25	7.1	
12	2.6	7	1.7	8	1.9	7	4.3	11	3.1	
7	1.5	7	1.7	3	0.7	3	1.9	11	3.1	
457	100.0	404	100.0	408	100.0	157	100.0	346	100.0	
32	7.0	46	11.4	41	10.0	16	10.2	37	10.7	
281	61.5	228	56.4	234	57.4	87	55.4	191	55.2	
144	31.5	130	32.2	133	32.6	54	34.4	118	34.1	
455	100.0	413	100.0	419	100.0	156	100.0	349	100.0	
84	18.5	71	17.2	65	15.5	27	17.3	59	16.9	
78	17.1	105	25.4	126	30.1	38	24.4	111	31.8	
97	21.3	95	23.0	101	24.1	50	32.1	77	22.1	
80	17.6	73	17.7	63	15.0	20	12.8	40	11.5	
63	13.8	48	11.6	44	10.5	12	7.7	27	7.7	
33	7.3	11	2.7	12	2.9	4	2.6	26	7.4	
15	3.3	7	1.7	5	1.2	3	1.9	6	1.7	
5	1.1	3	0.7	3	0.7	2	1.3	3	0.9	
56.9		65.6		69.7		73.7		70.8		
457	100.0	404	100.0	410	100.0	156	100.0	351	100.0	
40	8.8	40	9.9	42	10.2	18	11.5	34	9.7	
248	54.3	212	52.5	210	51.2	71	45.5	155	44.2	
169	37.0	152	37.6	158	38.5	67	42.9	162	46.2	
423	100.0	384	100.0	373	100.0	148	100.0	317	100.0	
43	10.2	39	10.2	37	9.9	15	10.1	37	11.7	
252	59.6	211	54.9	209	56.0	82	55.4	165	52.1	
73	17.3	74	19.3	68	18.2	25	16.9	61	19.2	
55	13.0	60	15.6	59	15.8	26	17.6	54	17.0	
457	100.0	411	100.0	413	100.0	158	100.0	347	100.0	
12	2.6	23	5.6	17	4.1	7	4.4	12	3.5	
25	5.5	37	9.0	53	12.8	34	21.5	77	22.2	
6	1.3	11	2.7	15	3.6	6	3.8	19	5.5	
304	66.5	264	64.2	254	61.5	84	53.2	168	48.4	
8	1.8	3	0.7	9	2.2			1	0.3	
83	18.2	62	15.1	54	13.1	25	15.8	51	14.7	
19	4.2	11	2.7	11	2.7	2	1.3	19	5.5	
444	100.0	398	100.0	400	100.0	155	100.0	337	100.0	
94	21.2	114	28.6	111	27.8	52	33.5	143	42.4	
350	78.8	284	71.4	289	72.3	103	66.5	194	57.6	
424	100.0	388	100.0	408	100.0	153	100.0	333	100.0	
107	25.2	141	36.3	181	44.4	74	48.4	160	48.0	
5	1.2	20	5.2	24	5.9	5	3.3	30	9.0	
171	40.3	126	32.5	111	27.2	39	25.5	73	21.9	
20	4.7	18	4.6	16	3.9	3	2.0	14	4.2	
121	28.5	83	21.4	76	18.6	32	20.9	56	16.8	
407	100.0	374	100.0	391	100.0	148	100.0	318	100.0	
34	8.4	27	7.2	43	11.0	7	4.7	17	5.3	
11	2.7	25	6.7	30	7.7	10	6.8	25	7.9	
89	21.9	127	34.0	143	36.6	63	42.6	134	42.1	
194	47.7	151	40.4	135	34.5	46	31.1	102	32.1	
79	19.4	44	11.8	40	10.2	22	14.9	40	12.6	
88	100.0	124	100.0	141	100.0	63	100.0	135	100.0	
3	3.4	6	4.8	21	14.9	2	3.2	12	8.9	
20	22.7	34	27.4	26	18.4	9	14.3	33	24.4	
65	73.9	84	67.7	94	66.7	52	82.5	90	66.7	
87	100.0	94	100.0	130	100.0	45	100.0	100	100.0	
20	29.9	27	28.7	31	23.8	17	37.8	23	23.0	
11	16.4	19	20.2	28	21.5	6	13.3	18	18.0	
4	6.0	8	8.5	7	5.4	1	2.2	9	9.0	
6	9.0	2	2.1	5	3.8	3	6.7	5	5.0	
26	38.8	38	40.4	59	45.4	18	40.0	45	45.0	

単位：人、%

勤め先の規模別									
1～5人		6～10人		11～20人		21～30人		31人以上	
442	100.0	397	100.0	406	100.0	157	100.0	336	100.0
220	49.8	167	42.1	147	36.2	42	26.8	62	18.5
97	21.9	54	13.6	33	8.1	8	5.1	25	7.4
30	6.8	59	14.9	68	16.7	44	28.0	93	27.7
20	4.5	41	10.3	69	17.0	29	18.5	83	24.7
6	1.4	16	4.0	11	2.7	7	4.5	44	13.1
7	1.6	10	2.5	23	5.7	6	3.8	7	2.1
36	8.1	22	5.5	35	8.6	16	10.2	13	3.9
7	1.6	9	2.3	4	1.0	1	0.6	2	0.6
16	3.6	16	4.0	12	3.0	4	2.5	3	0.9
3	0.7	3	0.8	4	1.0			4	1.2
431	100.0	381	100.0	399	100.0	153	100.0	329	100.0
21	4.9	39	10.2	65	16.3	24	15.7	68	20.7
6	1.4	3	0.8	4	1.0	2	1.3	7	2.1
5	1.2	6	1.6	6	1.5	1	0.7	6	1.8
3	0.7					3	2.0	3	0.9
396	91.9	333	87.4	324	81.2	123	80.4	245	74.5
356	100.0	307	100.0	295	100.0	111	100.0	228	100.0
181	50.8	107	34.9	85	28.8	24	21.6	46	20.2
39	11.0	71	23.1	67	22.7	36	32.4	99	43.4
18	5.1	44	14.3	59	20.0	24	21.6	57	25.0
72	20.2	52	16.9	44	14.9	14	12.6	11	4.8
46	12.9	33	10.7	38	12.9	12	10.8	15	6.6
				2	0.7	1	0.9		

表II－3 職種別にみた賃金額 (基本日額)

	普通作業員 (土木・雑役)		大工		型枠工		左官		鉄筋工		鉄骨工		トビ		塗装工	
	526	100.0	168	100.0	62	100.0	22	100.0	43	100.0	21	100.0	20	100.0	121	100.0
6千円未満	28	5.3	2	1.2					1	2.3					3	2.5
6000～6999円	70	13.3	3	1.8	4	6.5	1	4.5	6	14.0			2	10.0	7	5.8
7000～7999円	70	13.3	2	1.2	6	9.7	1	4.5	2	4.7	1	4.8			9	7.4
8000～8999円	124	23.6	9	5.4	10	16.1	1	4.5	12	27.9	6	28.6	9	45.0	10	8.3
9000～9999円	93	17.7	7	4.2	9	14.5	3	13.6	3	7.0	2	9.5	3	15.0	10	8.3
10000～10999円	85	16.2	24	14.3	14	22.6	3	13.6	11	25.6	7	33.3	4	20.0	33	27.3
11000～11999円	32	6.1	18	10.7	9	14.5	4	18.2	6	14.0			1	5.0	10	8.3
12000～12999円	15	2.9	27	16.1	7	11.3	6	27.3	1	2.3	5	23.8			25	20.7
13000円以上	9	1.7	76	45.2	3	4.8	3	13.6	1	2.3			1	5.0	14	11.6
平均値 (単位:円)	8541		12006		9640		10727		8959		9905		8955		10126	
標準偏差(単位:円)	1806		2403		1856		2103		1950		1667		1561		2109	

表II－4 公共工事現場で働いた回答者全体及び職種別にみた賃金額 (基本日額)

	全体		普通作業員 (土木・雑 役)		大工		型枠工		左官		鉄筋工		トビ		塗装工	
	377	100.0	204	100.0	14	100.0	10	100.0	3	100.0	6	100.0	5	100.0	2	100.0
公共事業 6千円未満	8	2.1	4	2.0												
だけで働	41	10.9	25	12.3			1	10.0					1	20.0		
いた+公	47	12.5	23	11.3			2	20.0			1	16.7				
共事業の	82	21.8	56	27.5	1	7.1							2	40.0		
方が多	52	13.8	35	17.2	1	7.1	2	20.0								50.0
かった	68	18.0	31	15.2	1	7.1	2	20.0			3	50.0	1	20.0		
10000～10999円	36	9.5	18	8.8	2	14.3	3	30.0	1	33.3	1	16.7	1	20.0	1	50.0
12000～12999円	21	5.6	8	3.9	2	14.3			2	66.7						
13000円以上	22	5.8	4	2.0	7	50.0					1	16.7				
平均値 (単位:円)	9154		8805		12921		9200		11667		10500		8700		10250	
標準偏差(単位:円)	2128		1765		3048		1703		577		2589		1924		1768	
公共事業 6千円未満	3	2.5	1	1.4												
だけで働	17	14.4	11	14.9			1	10.0								
いた	17	14.4	10	13.5			1	10.0								
8000～8999円	21	17.8	15	20.3	1	33.3										
9000～9999円	16	13.6	12	16.2											1	100.0
10000～10999円	21	17.8	11	14.9							1	100.0				
11000～11999円	11	9.3	9	12.2					1	100.0						
12000～12999円	8	6.8	5	6.8	1	33.3										
13000円以上	4	3.4			1	33.3										
平均値 (単位:円)	8947		8864		11067		7000		11000		10000				9000	
標準偏差(単位:円)	1964		1778		2532											
公共事業 6千円未満	5	1.9	3	2.3												
の方が多	24	9.3	14	10.8			1	11.1					1	20.0		
かった	30	11.6	13	10.0			1	11.1			1	20.0				
8000～8999円	61	23.6	41	31.5									2	40.0		
9000～9999円	36	13.9	23	17.7	1	9.1	2	22.2								
10000～10999円	47	18.1	20	15.4	1	9.1	2	22.2			2	40.0	1	20.0		
11000～11999円	25	9.7	9	6.9	2	18.2	3	33.3			1	20.0	1	20.0	1	100.0
12000～12999円	13	5.0	3	2.3	1	9.1			2	100.0						
13000円以上	18	6.9	4	3.1	6	54.5					1	20.0				
平均値 (単位:円)	9249		8772		13427		9444		12000		10600		8700		11500	
標準偏差(単位:円)	2196		1764		3079		1609				2881		1924			

単位:人, %

建具・サッシュュエ		運転(専属)		重機・オペレーター		配管工		造園		農業労働		林業		コンクリート製造		その他		複数職種	
18	100.0	40	100.0	39	100.0	16	100.0	103	100.0	184	100.0	103	100.0	90	100.0	99	100.0	3	100.0
2	11.1					1	6.3	4	3.9	130	70.7	15	14.6	16	17.8	14	14.1		
		2	5.0			1	6.3	25	24.3	37	20.1	18	17.5	19	21.1	13	13.1		
		4	10.0	5	12.8	2	12.5	21	20.4	8	4.3	14	13.6	19	21.1	13	13.1		
2	11.1	15	37.5	3	7.7			28	27.2	5	2.7	15	14.6	27	30.0	13	13.1		
2	11.1	3	7.5	8	20.5	5	31.3	11	10.7	1	0.5	2	1.9	5	5.6	8	8.1		
8	44.4	12	30.0	9	23.1	3	18.8	7	6.8	3	1.6	17	16.5	3	3.3	21	21.2	2	66.7
2	11.1	1	2.5	6	15.4	1	6.3	5	4.9			7	6.8			9	9.1		
1	5.6	2	5.0	5	12.8	2	12.5					8	7.8	1	1.1	5	5.1		
1	5.6	1	2.5	3	7.7	1	6.3	2	1.9			7	6.8			3	3.0	1	33.3
9574		9004		10117		9531		7899		5850		8510		7219		8515		11167	
1950		1692		2007		2349		1670		881		2441		1350		2274		1607	

単位:人, %

建具・サッシュュエ		運転(専属)		重機・オペレーター		配管工		造園		農業労働		林業		コンクリート製造		その他		複数職種	
1	100.0	7	100.0	15	100.0	10	100.0	27	100.0	2	100.0	32	100.0	21	100.0	15	100.0	3	100.0
						1	10.0			2	100.0			1	4.8				
				1	6.7	1	10.0	7	25.9			5	15.6	1	4.8	1	6.7		
		1	14.3					8	29.6			3	9.4	6	28.6	2	13.3		
				3	20.0	4	40.0	7	25.9			2	6.3	10	47.6	3	20.0		
1	100.0	4	57.1	5	33.3	1	10.0	2	7.4			1	3.1	1	4.8	2	13.3		
		1	14.3	2	13.3	1	10.0	2	7.4			11	34.4	2	9.5	2	13.3	2	66.7
		1	14.3	2	13.3	1	10.0					3	9.4			2	13.3		
				2	13.3	1	10.0	1	3.7			5	15.6						
												2	6.3			3	20.0	1	33.3
10000		10179		10743		9750		7881		5250		9636		7993		9807		11167	
1248		2196		2563		1444		354		2101		1023		2436		1607			
1	100.0	3	100.0	4	100.0	1	100.0	9	100.0	1	100.0	7	100.0	5	100.0	5	100.0	1	100.0
						1	100.0			1	100.0								
				1	25.0			4	44.4			2	28.6						
		1	33.3					2	22.2					1	20.0	2	40.0		
				1	11.1			1	11.1					3	60.0				
				1	25.0			1	11.1							1	20.0		
1	100.0	2	66.7	1	25.0			1	11.1			2	28.6	1	20.0			1	100.0
				1	25.0							1	14.3						
												1	14.3						
				1	25.0							1	14.3			2	40.0		
10000		9333		9500		5500		7533		5000		9914		8580		10500		10500	
1155		2082		1330		2501		841		3333									
4	100.0	11	100.0	9	100.0	18	100.0	1	100.0	25	100.0	16	100.0	10	100.0	2	100.0		
								1	100.0			1	6.3						
						3	16.7			3	12.0	1	6.3	1	10.0				
						1	11.1	6	33.3	3	12.0	5	31.3						
						6	33.3			2	8.0	7	43.8	3	30.0				
				2	18.2	4	44.4	1	5.6	1	4.0	1	6.3	1	10.0				
		2	50.0	4	36.4	1	11.1	1	5.6	9	36.0	1	6.3	2	20.0	1	50.0		
		1	25.0	2	18.2	1	11.1			2	8.0			2	20.0				
		1	25.0	1	9.1	1	11.1			4	16.0								
				2	18.2	1	11.1	1	5.6	1	4.0			1	10.0	1	50.0		
10813		11195		10222		8056		5500		9558		7809		9460		11500			
987		2146		2210		1503		2027		1027		1973		2121					

表II-5 回答者全体及び男女別、稼働状況別、年齢別(男女)、生活保護受給希望別、居住地別にみた調査結

		全体				男女別				稼働状況別				20歳代	
		男性	女性	割合	割合	男性	女性	割合	割合	働いている+ 働きのながら 求職中	全く働いて いない+同、 求職中	割合	割合	割合	割合
性別	男性	603	84.8							521	85.7	82	79.6	15	100.0
	女性	108	15.2							87	14.3	21	20.4		
年齢	20歳代	15	2.1	15	2.5	107	100.0	607	100.0	102	100.0			15	100.0
	30歳代	35	4.9	34	5.6	1	0.9	34	5.6	1	1.0				
	40歳代	92	13.0	79	13.1	13	12.1	90	14.8	2	2.0				
	50歳代	252	35.5	206	34.2	46	43.0	234	38.6	18	17.6				
	60歳代	248	35.0	209	34.7	39	36.4	205	33.8	43	42.2				
	70歳以上	67	9.4	59	9.8	8	7.5	29	4.8	38	37.3				
	平均値(単位:歳)		57.1		56.9		58.1		55.6		65.7				
	標準偏差(単位:歳)		10.6		11.0		7.9		10.3		7.9				
居住地	合計	707	100.0	600	100.0	107	100.0	605	100.0	102	100.0			15	100.0
	札幌圏	337	47.7	303	50.5	34	31.8	292	48.3	45	44.1			6	40.0
	旭川圏	175	24.8	148	24.7	27	25.2	162	26.8	13	12.7			5	33.3
	美幌町等	101	14.3	80	13.3	21	19.6	85	14.0	16	15.7			1	6.7
	標茶町	43	6.1	32	5.3	11	10.3	36	6.0	7	6.9				
	厚岸町	38	5.4	28	4.7	10	9.3	21	3.5	17	16.7			2	13.3
	浜中町	13	1.8	9	1.5	4	3.7	9	1.5	4	3.9			1	6.7
稼働状況	働いている	598	84.1	513	85.1	85	78.7	598	98.4	103	100.0			14	93.3
	全く働いていない	86	12.1	65	10.8	21	19.4			86	83.5				
	全く働いていないが求職中	17	2.4	17	2.8					17	16.5				
	働きのながら求職中	10	1.4	8	1.3	2	1.9	10	1.6					1	6.7
出稼ぎ状況	出稼ぎはなし	581	95.6	495	95.0	86	98.9							15	100.0
	本州への出稼ぎ	8	1.3	8	1.5										
	道内遠隔地への出稼ぎ	4	0.7	4	0.8										
	出稼ぎ(場所は不明)	15	2.5	14	2.7	1	1.1								
雇用形態・就業 形態等(*は掛け 持ちを含む)	正社員*	38	6.6	37	7.5	1	1.3							1	6.7
	1人親方	12	2.1	12	2.4										
	季節雇用*	441	76.8	383	77.5	58	72.5							12	80.0
	契約社員	9	1.6	9	1.8										
	臨時*	18	3.1	13	2.6	5	6.3							2	13.3
	パートタイマー*	12	2.1	6	1.2	6	7.5								
	アルバイト*	28	4.9	20	4.0	8	10.0								
	派遣	2	0.3	2	0.4										
	シルバー人材センターに登録	5	0.9	4	0.8	1	1.3								
	農業(自営)	7	1.2	6	1.2	1	1.3								
	その他	2	0.3	2	0.4										
業種	建設業	484	81.3	442	86.3	42	50.6							14	93.3
	製造業	32	5.4	25	4.9	7	8.4								
	農業	25	4.2	6	1.2	19	22.9								
	林業	22	3.7	13	2.5	9	10.8								
	その他	32	5.4	26	5.1	6	7.2							1	6.7
職種	普通作業員(土木・雑役)	167	28.8	132	25.9	35	49.3							3	20.0
	大工	98	16.9	98	19.3									3	20.0
	型枠工	49	8.4	46	9.0	3	4.2								
	左官	11	1.9	11	2.2										
	鉄筋工	23	4.0	20	3.9	3	4.2							1	6.7
	鉄骨工	9	1.6	9	1.8										
	トビ	9	1.6	9	1.8									1	6.7
	塗装工	22	3.8	22	4.3									1	6.7
	建具・サッシュ工	2	0.3	2	0.4										
	運転(専属)	18	3.1	18	3.5										
	重機・オペレーター	18	3.1	18	3.5										
	配管工	3	0.5	3	0.6										
	造園	34	5.9	27	5.3	7	9.9								
	その他	90	15.5	67	13.2	23	32.4							4	26.7
	複数職種	27	4.7	27	5.3									2	13.3

	全体		男女別				稼働状況別		20歳代	
			男性		女性		働いている+ 働きながら 求職中	全く働いて いない+同、 求職中		
	589	100.0	509	100.0	80	100.0			14	100.0
勤め先の人数規模	1~5人	177	30.1	165	32.4	12	15.0		7	50.0
	6~10人	129	21.9	108	21.2	21	26.3		3	21.4
	11~20人	129	21.9	108	21.2	21	26.3		1	7.1
	21~30人	59	10.0	48	9.4	11	13.8		3	21.4
	31人以上	95	16.1	80	15.7	15	18.8			
		579	100.0	499	100.0	80	100.0		14	100.0
2007年1月から7月までの就労日数	1~19日	11	1.9	8	1.6	3	3.8			
	20~39日	24	4.1	19	3.8	5	6.3		1	7.1
	40~59日	50	8.6	43	8.6	7	8.8			
	60~79日	104	18.0	78	15.6	26	32.5		2	14.3
	80~99日	144	24.9	124	24.8	20	25.0		2	14.3
	100~119日	86	14.9	79	15.8	7	8.8		2	14.3
	120~139日	90	15.5	81	16.2	9	11.3		4	28.6
	140~159日	40	6.9	38	7.6	2	2.5		1	7.1
	160日以上	30	5.2	29	5.8	1	1.3		2	14.3
	平均値 (単位:日)		96		98		82			109
	標準偏差(単位:日)		36		36		33			40
		571	100.0	489	100.0	82	100.0		15	100.0
雇用保険の加入状況	加入している	481	84.2	414	84.7	67	81.7		13	86.7
	加入していない	80	14.0	65	13.3	15	18.3		2	13.3
	わからない	10	1.8	10	2.0					
		480	100.0	397	100.0	63	100.0		13	100.0
雇用保険の加入開始時期	4月より前	26	5.7	22	5.5	4	6.3		1	7.7
	4月	154	33.5	134	33.8	20	31.7		6	46.2
	5月	133	28.9	109	27.5	24	38.1		2	15.4
	6月	98	21.3	87	21.9	11	17.5		2	15.4
	7月	15	3.3	14	3.5	1	1.6			
	通年で加入	34	7.4	31	7.8	3	4.8		2	15.4
		557	100.0	479	100.0	78	100.0		14	100.0
昨年の一時的受給状況	もらえた	478	85.8	413	86.2	65	83.3		12	85.7
	日数が足りずもらえなかった	16	2.9	14	2.9	2	2.6			
	通年で働いていた	24	4.3	20	4.2	4	5.1		1	7.1
	その他	39	7.0	32	6.7	7	9.0		1	7.1
		552	100.0	475	100.0	77	100.0		14	100.0
今年の一時的受給予測	もらえそう	322	58.3	268	56.4	54	70.1		10	71.4
	もらえなさそう	51	9.2	47	9.9	4	5.2		1	7.1
	わからない	135	24.5	122	25.7	13	16.9		2	14.3
	通年で働いている	24	4.3	21	4.4	3	3.9		1	7.1
	その他	20	3.6	17	3.6	3	3.9			
		549	100.0	474	100.0	75	100.0		15	100.0
賞金の支払形態	月の固定給	35	6.4	34	7.2	1	1.3		1	6.7
	日給月給	438	79.8	384	81.0	54	72.0		13	86.7
	日払い	23	4.2	23	4.9				1	6.7
	時給	53	9.7	33	7.0	20	26.7			
		519	100.0	446	100.0	73	100.0		13	100.0
基本日額	~6000円未満	27	5.2	8	1.8	19	26.0			
	6千円台	40	7.7	16	3.6	24	32.9		2	15.4
	7千円台	45	8.7	31	7.0	14	19.2		1	7.7
	8千円台	79	15.2	65	14.6	14	19.2		5	38.5
	9千円台	65	12.5	65	14.6					
	1万円台	102	19.7	101	22.6	1	1.4		5	38.5
	1万1千円台	53	10.2	53	11.9					
	1万2千円台	38	7.3	38	8.5					
	1万3千円台	37	7.1	36	8.1	1	1.4			
	1万4千円以上	33	6.4	33	7.4					
	平均値 (単位:円)		9710		10199		6722			8508
	標準偏差(単位:円)		2727		2577		1389			1377

	全体		男女別		稼働状況別		20歳代					
	人数	割合	男性	女性	働いている+ 働किながら 求職中	全く働いて いない+同、 求職中						
年間の賃金収入	555	100.0	478	100.0	77	100.0	15	100.0				
100万円未満	66	11.9	39	8.2	27	35.1	1	6.7				
100~149万円	117	21.1	77	16.1	40	51.9	4	26.7				
150~199万円	117	21.1	111	23.2	6	7.8	4	26.7				
200~249万円	119	21.4	115	24.1	4	5.2	4	26.7				
250~299万円	65	11.7	65	13.6			1	6.7				
300~349万円	44	7.9	44	9.2			1	6.7				
350~399万円	16	2.9	16	3.3								
400万円以上	11	2.0	11	2.3								
(再掲)200万円未満	54.1		47.5		94.8			60.0				
残業を含む一日 の労働時間	567	100.0	486	100.0	81	100.0	14	100.0				
7時間未満	15	2.6	11	2.3	4	4.9						
7時間台	34	6.0	18	3.7	16	19.8	1	7.1				
8時間台	326	57.5	276	56.8	50	61.7	9	64.3				
9時間台	127	22.4	119	24.5	8	9.9	3	21.4				
10時間台	50	8.8	48	9.9	2	2.5						
11時間以上	15	2.6	14	2.9	1	1.2	1	7.1				
平均値 (単位:時間)	8.4		8.5		8.0			8.5				
標準偏差(単位:時間)	1.0		1.1		0.8			1.4				
仕事上での問題 状況(複数回答 可)	581	100.0	499	100.0	82	100.0	15	100.0				
(ア)仕事の量(就労日数)が減っている	312	53.7	279	55.9	33	40.2	8	53.3				
(イ)仕事の見通しが立たない	148	25.5	135	27.1	13	15.9	6	40.0				
(ウ)雇用期間が短い	157	27.0	135	27.1	22	26.8	1	6.7				
(エ)賃金が安い	280	48.2	245	49.1	35	42.7	9	60.0				
(オ)労働時間が長い	56	9.6	49	9.8	7	8.5	1	6.7				
(カ)体力的にきつい	141	24.3	112	22.4	29	35.4	1	6.7				
(キ)職場の人間関係がよくない	58	10.0	54	10.8	4	4.9	1	6.7				
(ク)その他	19	3.3	15	3.0	4	4.9						
住まいの種類	684	100.0	579	100.0	105	100.0	588	100.0	96	100.0	15	100.0
持ち家・分譲マンション	419	61.3	348	60.1	71	67.6	347	59.0	72	75.0	4	26.7
賃貸住宅・マンション	179	26.2	159	27.5	20	19.0	164	27.9	15	15.6	6	40.0
公営住宅	58	8.5	46	7.9	12	11.4	53	9.0	5	5.2	3	20.0
その他	28	4.1	26	4.5	2	1.9	24	4.1	4	4.2	2	13.3
住宅ローンの支 払い状況	346	100.0	289	100.0	57	100.0	291	100.0	55	100.0	2	100.0
支払済えた	193	55.8	156	54.0	37	64.9	154	52.9	39	70.9		
現在も支払っている	153	44.2	133	46.0	20	35.1	137	47.1	16	29.1	2	100.0
本人を含む世帯 の人数	683	100.0	578	100.0	105	100.0	587	100.0	96	100.0	15	100.0
1人暮らし	76	11.1	56	9.7	20	19.0	65	11.1	11	11.5	1	6.7
2人	265	38.8	227	39.3	38	36.2	219	37.3	46	47.9	2	13.3
3人	189	27.7	162	28.0	27	25.7	165	28.1	24	25.0	3	20.0
4人	106	15.5	90	15.6	16	15.2	94	16.0	12	12.5	6	40.0
5人	25	3.7	23	4.0	2	1.9	25	4.3				
6人以上	22	3.2	20	3.5	2	1.9	19	3.2	3	3.1	3	20.0
本人以外での就 労者(世帯員)の 有無	607	100.0	523	100.0	84	100.0	522	100.0	85	100.0	14	100.0
就労者なし	159	26.2	145	27.7	14	16.7	126	24.1	33	38.8	2	14.3
就労者あり	448	73.8	378	72.3	70	83.3	396	75.9	52	61.2	12	85.7
就労世帯員(複 数回答可)	448	100.0	378	100.0	70	100.0	396	100.0	52	100.0	12	100.0
配偶者	312	69.6	256	67.7	56	80.0	282	71.2	30	57.7	2	16.7
子ども	168	37.5	140	37.0	28	40.0	141	35.6	27	51.9	2	16.7
親	45	10.0	43	11.4	2	2.9	43	10.9	2	3.8	10	83.3
その他	16	3.6	14	3.7	2	2.9	15	3.8	1	1.9	2	16.7
本人や世帯員の 就労収入と本人 の年金収入を除 く、世帯の収入源 (複数回答加)	684	100.0	579	100.0	105	100.0	588	100.0	96	100.0	15	100.0
家族の年金収入	148	21.6	122	21.1	26	24.8	106	18.0	42	43.8	1	6.7
家賃など不動産収入	14	2.0	13	2.2	1	1.0	10	1.7	4	4.2		
農業収入	21	3.1	18	3.1	3	2.9	20	3.4	1	1.0	1	6.7
家計を別にする家族・親戚からの援助・仕送り	13	1.9	10	1.7	3	2.9	9	1.5	4	4.2	1	6.7
その他	12	1.8	10	1.7	2	1.9	8	1.4	4	4.2	1	6.7
本人の公的年金 の受給状況	645	100.0	548	100.0	97	100.0	553	100.0	92	100.0	14	100.0
受給している	218	33.8	187	34.1	31	32.0	153	27.7	65	70.7		
権利がつかず受給していない	118	18.3	104	19.0	14	14.4	109	19.7	9	9.8	3	21.4
まだ年金をかけている	309	47.9	257	46.9	52	53.6	291	52.6	18	19.6	11	78.6

	全体		男女別				稼働状況別				20歳代		
			男性		女性		働いている+ 働きながら 求職中	全く働いて いない+同、 求職中					
	195	100.0	169	100.0	26	100.0	132	100.0	63	100.0			
年間の年金受給額	50万円未満	28	14.4	18	10.7	10	38.5	20	15.2	8	12.7		
	～100万円未満	69	35.4	60	35.5	9	34.6	50	37.9	19	30.2		
	～150万円未満	54	27.7	50	29.6	4	15.4	41	31.1	13	20.6		
	～200万円未満	24	12.3	22	13.0	2	7.7	15	11.4	9	14.3		
	200万円以上	20	10.3	19	11.2	1	3.8	6	4.5	14	22.2		
	平均値 (単位:万円)		106		111		73		96		126		
	標準偏差(単位:万円)		59		58		52		50		70		
		382	100.0	328	100.0	54	100.0	361	100.0	21	100.0	12	100.0
公的年金の種類	年間を通じて国民年金の掛け金を支払っている	160	41.9	138	42.1	22	40.7	149	41.3	11	52.4	7	58.3
	夏場は厚生年金、冬場は国民年金	79	20.7	63	19.2	16	29.6	77	21.3	2	9.5	1	8.3
	夏場は厚生年金、冬場は支払わず	47	12.3	40	12.2	7	13.0	45	12.5	2	9.5		
	公的年金は一切入っていない	81	21.2	74	22.6	7	13.0	76	21.1	5	23.8	2	16.7
	わからない	14	3.7	12	3.7	2	3.7	13	3.6	1	4.8	2	16.7
	その他(通年で厚生年金)	1	0.3	1	0.3			1	0.3				
		613	100.0	518	100.0	95	100.0	535	100.0	78	100.0	15	100.0
民間年金の加入状況	加入している	113	18.4	88	17.0	25	26.3	100	18.7	13	16.7	4	26.7
	加入していない	500	81.6	430	83.0	70	73.7	435	81.3	65	83.3	11	73.3
		668	100.0	566	100.0	102	100.0	575	100.0	93	100.0	14	100.0
健康保険の加入状況	年間を通じて市町村の国民健康保険	344	51.5	298	52.7	46	45.1	275	47.8	69	74.2	9	64.3
	年間を通じて建設国保などの組合国保	116	17.4	110	19.4	6	5.9	112	19.5	4	4.3	1	7.1
	夏場は社会保険で冬は任意継続	69	10.3	59	10.4	10	9.8	69	12.0			1	7.1
	夏場は社会保険で冬は国民健康保険	56	8.4	43	7.6	13	12.7	55	9.6	1	1.1	1	7.1
	夏場は社会保険で冬は家族の保険の扶養	8	1.2	1	0.2	7	6.9	8	1.4				
	夏場は社会保険で冬は無保険	8	1.2	8	1.4			8	1.4				
	年間を通じて家族の保険の扶養	28	4.2	12	2.1	16	15.7	19	3.3	9	9.7		
	年間を通じて無保険	14	2.1	14	2.5			10	1.7	4	4.3	1	7.1
	わからない	3	0.4	3	0.5			3	0.5			1	7.1
	その他	22	3.3	18	3.2	4	3.9	16	2.8	6	6.5		
		318	100.0	279	100.0	39	100.0	256	100.0	62	100.0	9	100.0
国保保険料の滞納状況	滞納している	98	30.8	90	32.3	8	20.5	93	36.3	5	8.1	5	55.6
	滞納していない	220	69.2	189	67.7	31	79.5	163	63.7	57	91.9	4	44.4
		244	100.0	219	100.0	25	100.0	204	100.0	40	100.0	7	100.0
年間の保険料額	10万円未満	23	9.4	20	9.1	3	12.0	8	3.9	15	37.5		
	～20万円未満	59	24.2	54	24.7	5	20.0	53	26.0	6	15.0	1	14.3
	～30万円未満	64	26.2	57	26.0	7	28.0	52	25.5	12	30.0	2	28.6
	～40万円未満	46	18.9	42	19.2	4	16.0	41	20.1	5	12.5	1	14.3
	～50万円未満	30	12.3	27	12.3	3	12.0	28	13.7	2	5.0	1	14.3
	50万円以上	22	9.0	19	8.7	3	12.0	22	10.8			2	28.6
	平均値 (単位:万円)		26.7		26.7		26.7		28.6		16.9		33.6
	標準偏差(単位:万円)		14.8		14.8		15.2		14.6		11.9		14.9
		278	100.0	245	100.0	33	100.0	226	100.0	52	100.0	9	100.0
保険証の種類	正規保険証	220	79.1	193	78.8	27	81.8	171	75.7	49	94.2	7	77.8
	短期保険証	48	17.3	44	18.0	4	12.1	46	20.4	2	3.8	1	11.1
	資格証明書	8	2.9	7	2.9	1	3.0	7	3.1	1	1.9	1	11.1
	届いていない	2	0.7	1	0.4	1	3.0	2	0.9				
		278	100.0	245	100.0	33	100.0	226	100.0	52	100.0	9	100.0
保険料負担	非常に厳しい	213	76.6	190	77.6	23	69.7	183	81.0	30	57.7	7	77.8
	まあ厳しい	54	19.4	46	18.8	8	24.2	38	16.8	16	30.8	2	22.2
	あまり厳しくない	11	4.0	9	3.7	2	6.1	5	2.2	6	11.5		
		664	100.0	564	100.0	100	100.0	570	100.0	94	100.0	15	100.0
生活不安の有無	ある	621	93.5	529	93.8	92	92.0	535	93.9	86	91.5	11	73.3
	ない	43	6.5	35	6.2	8	8.0	35	6.1	8	8.5	4	26.7

	全体		男女別				稼働状況別				20歳代	
			男性		女性		働いている+ 働किながら 求職中		全く働いて いない+同、 求職中			
生活不安の中身	662	100.0	562	100.0	100	100.0	569	100.0	93	100.0	15	100.0
(ア)生活費	419	63.3	371	66.0	48	48.0	361	63.4	58	62.4	9	60.0
(イ)失業・廃業、倒産等	219	33.1	193	34.3	26	26.0	210	36.9	9	9.7	5	33.3
(ウ)職場の人間関係	50	7.6	45	8.0	5	5.0	47	8.3	3	3.2		
(エ)家族との人間関係	31	4.7	29	5.2	2	2.0	26	4.6	5	5.4		
(オ)子育て、教育費	49	7.4	43	7.7	6	6.0	47	8.3	2	2.2	3	20.0
(カ)結婚	27	4.1	26	4.6	1	1.0	24	4.2	3	3.2	8	53.3
(キ)住宅問題	103	15.6	94	16.7	9	9.0	93	16.3	10	10.8	2	13.3
(ク)自分や家族の健康	227	34.3	190	33.8	37	37.0	198	34.8	29	31.2	2	13.3
(ケ)医療費	224	33.8	195	34.7	29	29.0	180	31.6	44	47.3	6	40.0
(コ)老後の生活設計	442	66.8	382	68.0	60	60.0	389	68.4	53	57.0	7	46.7
(サ)介護問題	167	25.2	145	25.8	22	22.0	132	23.2	35	37.6	2	13.3
(シ)その他	4	0.6	4	0.7			4	0.7				
生活保護の受給 経験	663	100.0	562	100.0	101	100.0	569	100.0	94	100.0	15	100.0
現在受けている	9	1.4	7	1.2	2	2.0	5	0.9	4	4.3		
現在は受けていないが過去に受けた経験がある	19	2.9	16	2.8	3	3.0	17	3.0	2	2.1		
受けた経験はない	635	95.8	539	95.9	96	95.0	547	96.1	88	93.6	15	100.0
現在の生活保護 の受給希望	618	100.0	523	100.0	95	100.0	531	100.0	87	100.0	14	100.0
希望している	84	13.6	71	13.6	13	13.7	65	12.2	19	21.8		
希望しない	534	86.4	452	86.4	82	86.3	466	87.8	68	78.2	14	100.0
暮らしの状況	678	100.0	574	100.0	104	100.0	583	100.0	95	100.0	15	100.0
大変苦しい	268	39.5	236	41.1	32	30.8	228	39.1	40	42.1	7	46.7
やや苦しい	276	40.7	231	40.2	45	43.3	245	42.0	31	32.6	5	33.3
普通	123	18.1	102	17.8	21	20.2	101	17.3	22	23.2	3	20.0
ややゆとりがある	8	1.2	3	0.5	5	4.8	7	1.2	1	1.1		
大変ゆとりがある	3	0.4	2	0.3	1	1.0	2	0.3	1	1.1		
現在の健康状態	701	100.0	594	100.0	107	100.0	600	100.0	101	100.0	15	100.0
非常に健康である	38	5.4	33	5.6	5	4.7	34	5.7	4	4.0	2	13.3
まあ健康である	368	52.5	304	51.2	64	59.8	327	54.5	41	40.6	8	53.3
やや不調である	188	26.8	162	27.3	26	24.3	159	26.5	29	28.7	3	20.0
非常に不調である	41	5.8	39	6.6	2	1.9	21	3.5	20	19.8	1	6.7
健康であるとも不調であるともいえない	66	9.4	56	9.4	10	9.3	59	9.8	7	6.9	1	6.7
仕事による身体 の疲れの程度 (就労者のみ)	589	100.0	510	100.0	79	100.0					14	100.0
とても疲れる	144	24.4	121	23.7	23	29.1					3	21.4
やや疲れる	373	63.3	329	64.5	44	55.7					8	57.1
あまり疲れない	45	7.6	38	7.5	7	8.9					2	14.3
まったく疲れない	4	0.7	3	0.6	1	1.3						
どちらともいえない	23	3.9	19	3.7	4	5.1					1	7.1
医師から診断さ れた持病の有無	685	100.0	581	100.0	104	100.0	592	100.0	93	100.0	15	100.0
ある	411	60.0	356	61.3	55	52.9	332	56.1	79	84.9	4	26.7
ない	274	40.0	225	38.7	49	47.1	260	43.9	14	15.1	11	73.3
持病の種類(複 数回答可)	681	100.0	577	100.0	104	100.0	588	100.0	93	100.0	15	100.0
胃腸病	52	7.6	47	8.1	5	4.8	40	6.8	12	12.9	1	6.7
高血圧	150	22.0	130	22.5	20	19.2	117	19.9	33	35.5		
高脂血症	51	7.5	38	6.6	13	12.5	43	7.3	8	8.6		
肝臓病	27	4.0	24	4.2	3	2.9	21	3.6	6	6.5		
心臓病	47	6.9	39	6.8	8	7.7	34	5.8	13	14.0		
糖尿病	62	9.1	58	10.1	4	3.8	49	8.3	13	14.0	1	6.7
腰痛	163	23.9	144	25.0	19	18.3	136	23.1	27	29.0	1	6.7
その他	78	11.5	65	11.3	13	12.5	58	9.9	20	21.5	2	13.3

		男女別						稼働状況別				20歳代	
		全体		男性		女性		働いている+ 働きのながら 求職中		全く働いて いない+同、 求職中			
		664	100.0	564	100.0	100	100.0	570	100.0	94	100.0	13	100.0
セキやタンが一ヶ月以上続いている	いつもある 時々ある ない	51 97 516	7.7 14.6 77.7	50 86 428	8.9 15.2 75.9	1 11 88	1.0 11.0 88.0	40 78 452	7.0 13.7 79.3	11 19 64	11.7 20.2 68.1	1	7.7
息切れする	いつもある 時々ある ない	29 202 433	4.4 30.4 65.2	27 170 367	4.8 30.1 65.1	2 32 66	2.0 32.0 66.0	24 179 367	4.2 31.4 64.4	5 23 66	5.3 24.5 70.2	1	7.7
耳が聞こえにくい	いつもある 時々ある ない	140 166 358	21.1 25.0 53.9	128 146 290	22.7 25.9 51.4	12 20 68	12.0 20.0 68.0	112 148 310	19.6 26.0 54.4	28 18 48	29.8 19.1 51.1	3	23.1
耳なりがする	いつもある 時々ある ない	74 177 413	11.1 26.7 62.2	72 152 340	12.8 27.0 60.3	2 25 73	2.0 25.0 73.0	58 154 358	10.2 27.0 62.8	16 23 55	17.0 24.5 58.5	9	69.2
ユビ(ウラも表も)が白くなる	いつもある 時々ある ない	13 43 608	2.0 6.5 91.6	11 40 513	2.0 7.1 91.0	2 3 95	2.0 3.0 95.0	10 40 520	1.8 7.0 91.2	3 3 88	3.2 3.2 93.6	11	84.6
夏でもユビや手が冷たい	いつもある 時々ある ない	22 71 571	3.3 10.7 86.0	18 57 489	3.2 10.1 86.7	4 14 82	4.0 14.0 82.0	18 63 489	3.2 11.1 85.8	4 8 82	4.3 8.5 87.2	13	100.0
ユビの感覚がにぶい	いつもある 時々ある ない	30 111 523	4.5 16.7 78.8	23 92 449	4.1 16.3 79.6	7 19 74	7.0 19.0 74.0	23 99 448	4.0 17.4 78.6	7 12 75	7.4 12.8 79.8	12	92.3
手や腕がしびれる	いつもある 時々ある ない	55 193 416	8.3 29.1 62.7	51 153 360	9.0 27.1 63.8	4 40 56	4.0 40.0 56.0	47 169 354	8.2 29.6 62.1	8 24 62	8.5 25.5 66.0	11	84.6
手や腕が痛い	いつもある 時々ある ない	74 216 374	11.1 32.5 56.3	67 176 321	11.9 31.2 56.9	7 40 53	7.0 40.0 53.0	61 188 321	10.7 33.0 56.3	13 28 53	13.8 29.8 56.4	10	76.9
ヒジが痛い	いつもある 時々ある ない	61 165 438	9.2 24.8 66.0	60 142 362	10.6 25.2 64.2	1 23 76	1.0 23.0 76.0	55 145 370	9.6 25.4 64.9	6 20 68	6.4 21.3 72.3	13	100.0
ヒジが十分曲がらない	いつもある 時々ある ない	33 55 576	5.0 8.3 86.7	31 52 481	5.5 9.2 85.3	2 3 95	2.0 3.0 95.0	27 50 493	4.7 8.8 86.5	6 5 83	6.4 5.3 88.3	13	100.0
各症状の「いつもある」の個数(0~11個)	0個 1個 2個 3個 4個 5個以上	387 128 72 37 22 18	58.3 19.3 10.8 5.6 3.3 2.7	312 112 68 35 20 17	55.3 19.9 12.1 6.2 3.5 3.0	75 16 4 2 2 1	75.0 16.0 4.0 2.0 2.0 1.0	333 117 61 27 19 13	58.4 20.5 10.7 4.7 3.3 2.3	54 11 11 10 3 5	57.4 11.7 11.7 10.6 3.2 5.3	8 5	61.5 38.5

表II-6 男女別・職種別にみた賃金額(基本日額)

	普通作業員 (土木・雑役)		大工		型枠工		左官		鉄筋工		鉄骨工		トビ	
	148	100.0	91	100.0	46	100.0	11	100.0	21	100.0	7	100.0	8	100.0
~6000円未満	8	5.4							3	14.3				
6千円台	13	8.8			3	6.5								
7千円台	18	12.2	2	2.2	1	2.2					1	14.3		
8千円台	33	22.3	5	5.5	5	10.9			2	9.5	2	28.6	2	25.0
9千円台	34	23.0			8	17.4			2	9.5	1	14.3	1	12.5
1万円台	25	16.9	17	18.7	11	23.9	2	18.2	11	52.4	2	28.6	3	37.5
1万1千円台	10	6.8	9	9.9	11	23.9	2	18.2	2	9.5			1	12.5
1万2千円台	4	2.7	18	19.8	1	2.2	3	27.3	1	4.8				
1万3千円台	3	2.0	20	22.0	4	8.7	2	18.2					1	12.5
1万4千円以上			20	22.0	2	4.3	2	18.2			1	14.3		
平均値(単位:円)		8712		12122		10134		12318		9457		9786		10063
標準偏差(単位:円)		1752		2065		1837		1807		1745		2596		1740
	118	100.0	91	100.0	43	100.0	11	100.0	18	100.0	7	100.0	8	100.0
~6000円未満	4	3.4												
6千円台	3	2.5			1	2.3								
7千円台	8	6.8	2	2.2	1	2.3					1	14.3		
8千円台	27	22.9	5	5.5	4	9.3			2	11.1	2	28.6	2	25.0
9千円台	34	28.8			8	18.6			2	11.1	1	14.3	1	12.5
1万円台	25	21.2	17	18.7	11	25.6	2	18.2	11	61.1	2	28.6	3	37.5
1万1千円台	10	8.5	9	9.9	11	25.6	2	18.2	2	11.1			1	12.5
1万2千円台	4	3.4	18	19.8	1	2.3	3	27.3	1	5.6				
1万3千円台	3	2.5	20	22.0	4	9.3	2	18.2					1	12.5
1万4千円以上			20	22.0	2	4.7	2	18.2			1	14.3		
平均値(単位:円)		9173		12122		10353		12318		10072		9786		10063
標準偏差(単位:円)		1598		2065		1682		1807		881		2596		1740
	30	100.0			3	100.0			3	100.0				
~6000円未満	4	13.3							3	100.0				
6千円台	10	33.3			2	66.7								
7千円台	10	33.3												
8千円台	6	20.0			1	33.3								
平均値(単位:円)		6901				7000				5767				
標準偏差(単位:円)		997				866				115				

														単位:人, %	
塗装工	建具・サツ シュ工	運転(専属)	重機・オペ レーター	配管工	造園	その他	複数職種								
22	100.0	2	100.0	10	100.0	15	100.0	3	100.0	30	100.0	70	100.0	23	100.0
										2	6.7	11	15.7		
1	4.5			1	10.0					4	13.3	12	17.1		
		1	50.0	2	20.0	1	6.7			7	23.3	10	14.3	1	4.3
				1	10.0	2	13.3	1	33.3	10	33.3	9	12.9	7	30.4
2	9.1	1	50.0	2	20.0	2	13.3			3	10.0	5	7.1	4	17.4
7	31.8			2	20.0	4	26.7	1	33.3	1	3.3	9	12.9	6	26.1
1	4.5			1	10.0	2	13.3			2	6.7	8	11.4	4	17.4
7	31.8					1	6.7					2	2.9	1	4.3
4	18.2											2	2.9		
				1	10.0	3	20.0	1	33.3	1	3.3	2	2.9		
	11059		8100		10300		12010		11167		8053		8264		9465
	1669		1556		5391		6000		3403		1820		2568		1217
22	100.0	2	100.0	10	100.0	15	100.0	3	100.0	23	100.0	49	100.0	23	100.0
										1	4.3	3	6.1		
1	4.5			1	10.0					2	8.7	6	12.2		
		1	50.0	2	20.0	1	6.7			5	21.7	8	16.3	1	4.3
				1	10.0	2	13.3	1	33.3	8	34.8	4	8.2	7	30.4
2	9.1	1	50.0	2	20.0	2	13.3			3	13.0	5	10.2	4	17.4
7	31.8			2	20.0	4	26.7	1	33.3	1	4.3	9	18.4	6	26.1
1	4.5			1	10.0	2	13.3			2	8.7	8	16.3	4	17.4
7	31.8					1	6.7					2	4.1	1	4.3
4	18.2											2	4.1		
				1	10.0	3	20.0	1	33.3	1	4.3	2	4.1		
	11059		8100		10300		12010		11167		8422		9069		9465
	1669		1556		5391		6000		3403		1861		2550		1217
										7	100.0	21	100.0		
										1	14.3	8	38.1		
										2	28.6	6	28.6		
										2	28.6	2	9.5		
										2	28.6	5	23.8		
											6843		6387		
											1039		1361		

資料Ⅲ-1 「2006年度調査」調査票

2007年労働条件アンケート

2007年/全日本建設交通一般労働組合
北海道本部建設部会

毎日の受講、大変ご苦労さまです。このアンケートは、建交労がみなさんの夏場の賃金・労働条件の実態と要求を整理し、2007年春闘やその後の行政や業界との話し合いの資料にするものです。右の欄に番号か数字を記入してください。

市町村名	会場名
------	-----

A. 年齢 ①19歳以下 ②20～24歳 ③25～29歳 ④30～34歳 ⑤35～39歳 A
 ⑥40～44歳 ⑦45～49歳 ⑧50～54歳 ⑨55～59歳 ⑩60～64歳
 ⑪65歳

B. 性別 ①男 ②女 B

C. 職種 ①普通作業員(土木・雑役) ②大工 ③型枠工 ④左官 ⑤鉄筋工
 ⑥鉄骨工 ⑦トビ ⑧塗装工 ⑨建具・サッシュ工 ⑩運転(専属)
 ⑪重機・オペレーター ⑫配管工 ⑬造園 ⑭農業労働 ⑮林業
 ⑯コンクリート製造 ⑰その他() C

C-2 あなたの季節労働の経験年数は何年ですか 年 C2

C-3 あなたが昨年働いた会社で何年働きましたか 年 C3

C-4 あなたが昨年働いた会社の労働者の数は何人でしたか
 ①1～5人 ②6～10人 ③11～20人 ④21～30人 ⑤31人以上 C4

D. あなたは昨年働き始めたときに「雇い通知書」をもらいましたか
 ①もらった ②もらっていない ③わからない D

E あなたの昨年の賃金(8時間あたりの基本日額)は 円
 いくらでしたか
 (時間給の方は時間単価と時間数で答えてください) E 円
時間 × 円 = 円 E3

E-4 昨年あなたの賃金は上がりましたか
 ①上がった ②同じ ③下がった E4

E-5 上がった人は、1日あたりでいくくら上がりましたか E5 円

E-6 下がった人は、1日あたりでいくくら下がりましたか E6 円

F あなたは昨年、何月から何月まで働きましたか
 F1 月 から 月 まで F2
 F3

F-3 昨年の稼働日数は、前の年に比べてどうでしたか
 ①前の年より増えた ②だいたい同じだった ③前の年より減った F3

F-4 あなたの昨年の年間収入(賃金の分)はだいたいどれくらいでしたか
 ①100万円未満 F4
 ②100万円～150万円未満
 ③150万円～200万円未満
 ④200万円～250万円未満
 ⑤250万円～300万円未満
 ⑥300万円～350万円未満
 ⑦350万円～400万円未満
 ⑧400万円～450万円未満
 ⑨450万円～500万円未満
 ⑩500万円以上

F-5 昨年の年間収入(賃金の分)は前の年に比べてどうでしたか
 ①年間収入は増えた ②だいたい同じだった ③年間収入は減った F5

F-6 あなたと同居している家族で、あなた以外に収入のある人はいますか
 ①同居している家族はいない F6
 ②同居している家族がいるが、自分以外には収入がない
 ③通年で働いて給料をもらっている家族がいる
 ④季節雇用の仕事で働いている家族がいる
 ⑤パートの仕事で働いている家族がいる
 ⑥農業・自営業などの収入がある ⑦年金をもらっている家族がいる

G あなたの1日目の所定労働時間は何時間でしたか(休憩時間や残業時間は
 入れないで、毎日の決められている実働時間) G 時間
 G-2 残業をふくむ実際の労働時間は平均すると
時間 分
時間 分

H あなたは昨年、毎月の決まっている休日は何日ありましたか
 ①毎週日曜日と土曜日が全部 ②毎週日曜日と土曜日が月2回 H
 ③毎週日曜日と土曜日が月1回 ④毎週日曜日
 ⑤日曜日が2回 ⑥まったく決まっていなかった
 ⑦その他()

H-2 昨年、あなたは有給休暇がありましたか(自分で「有給休暇」
 を申し出てとったか、会社が「有給休暇」扱いにした日があった)
 ①あった H2
 ②なかった

H-3 有給休暇があった人は、何日ありましたか
 (会社が「有給休暇」扱いにした日をふくめて) H3 日

H-4 有給休暇があった人は、どんなときでしたか
 あてはまる番号をすべて右の欄に書いてください H4
 ①お盆 ②地元のお祭りの日
 ③会社が決めた日(慰安会の日など) ④自分の都合で休んだ日
 ⑤仕事が切り上がったあと ⑥その他()

I あなたは昨年、仕事でケガをしたことがありますか
 ①仕事でケガをして、労災保険で治療した
 ②仕事でケガをして、健康保険を使わず会社が治療費を全額払った
 ③仕事でケガをして、健康保険を使ったが、自己負担を会社が払った
 ④仕事でケガをしたが、自分の健康保険で治療し、自己負担も自分で払った
 ⑤仕事でケガをしたが、病院にかからずに済ませた
 ⑥仕事でケガをしたことばはない ⑦その他() (ケラ面もあります)

O あなたが冬期技能講習を受講するのは何回目ですか
①今年が初めて ②2～5回目 ③6～10回目
④11～15回目 ⑤16～20回目 ⑥21～28回目 ⑦29回目 (毎年)

J 建設業退職金共済制度・林業退職金共済制度について
J-1 あなたの会社は制度に加入していますか
①建設共に加入している ②林退共に加入している
③どちらにも加入していないが退職金は出ない
④どちらにも加入していないが独自の退職金が出る ⑤わからない

O-2 あなたは昨年の冬はどうしてましたか
①同じ企業組合の講習を受けていた
②他の企業組合などの講習を受けていた
③50日の一時金をもらい、1～3月も働いていた
④50日の一時金をもらい、講習も仕事もしないで休んでいた
⑤50日の一時金をもらわないで、1～3月も働いていた
⑥一般の失業給付を受けながら求職活動をしていた
⑦失業給付が切れてしまっ求職活動をしていた
⑧その他 ()

J-2 あなたは建退共(林退共)の手帳を持っていますか
①自分で持っているが、会社では証紙を貼ってもらっていない
②夏場は会社に預けて、離職のときに返してもらっている
③会社に預けたままにしてある ④手帳を持っていない ⑤わからない

P 今年の仕事の異通しはどうですか
①昨年と同じ会社で間違いないく働ける
②昨年と同じ会社で働けないと思うが不安だ
③昨年の会社では働けないが別の会社で働ける
④昨年の会社で働けないし、別の会社もこれからさがす
⑤どここの会社でも働けそうにないので季節の仕事をやる
⑥まったく見通しがつかない

J-3 手帳を会社に預けたままの人は、自分の手帳がいま何冊か、証紙を何枚貼ってもらったか確認していますか
①毎年確認している ②何回か確認したことがある ③確認したことがない

P-4 手帳を返してもらっている人・会社に預けていても確認できる人は働いた日数分の証紙が貼られていますか
①公共の仕事の分も民間の仕事の分もすべて貼られている
②公共の仕事の分だけ貼られている
③公共の仕事のうちの一部分だけ貼られている
④まったく貼られていない ⑤わからない

J-4 手帳を返してもらっている人・会社に預けていても確認できる人は働いた日数分の証紙が貼られていますか
①公共の仕事の分も民間の仕事の分もすべて貼られている
②公共の仕事の分だけ貼られている
③公共の仕事のうちの一部分だけ貼られている
④まったく貼られていない ⑤わからない

Q あなたは労働組合が必要だと思いますか
①必要だ ②必要ない ③わからない

K あなたは、今年の春の賞金をどれくらい上げてほしいですか (1日あたりの賞金で、100円単位で答えてください)
K 円

R あなたの生活実感は次のうちのどれでしょう。一番近いものを選んでください
①かなり苦しい ②やや苦しい ③まあまあだ
④ややゆとりがある ⑤かなりゆとりがある

L 昨年の仕事で、公共と民間の割合はどうでしたか
①公共事業だけで働いた ②公共事業の方が多かった
③公共と民間が半々 ④民間工事の方が多かった ⑤民間工事だけで働いた

S 政府に対する要求で、あなたがもっとも実現したいものを3つ選んでください
①安定した雇用創出、失業者の生活保障
②労働法制改悪阻止、労基法徹底と安全衛生強化
③最低賃金の引き上げと全国一律最低賃金制の確立
④消費税増税阻止、低所得者への課税強化反対
⑤年金改善と最低保障年金制度の確立
⑥医療・介護・保育・生活保護等の改悪阻止と制度改善
⑦性・年齢・雇用形態による差別的根絶、均等待遇実現
⑧教育基本法改悪阻止、教育の充実
⑨公共事業の戻直しと地域経済振興・生活関連事業の充実
⑩公務・公共サービス切り捨て・営利化反対、「規制緩和」反対
⑪地球温暖化・大気汚染などの環境対策
⑫憲法改悪・国民投票法阻止、米軍基地の再編強化反対、核廃絶
⑬SSE対策・食の安全、食料自給率の向上

M あなたは、どの健康保険に加入していますか
①年間を通じて市町村の国民健康保険 ②年間を通じて建設国民健康保険
③夏場は社会保険で冬は任意継続 ④夏場は社会保険で冬は国民健康保険
⑤夏場は社会保険で冬は家族の扶養 ⑥夏場は社会保険で冬は無保険
⑦年間を通じて家族の扶養 ⑧年間を通じて無保険
⑨わからない ⑩その他 ()

N あなたは公的年金もっていますか
①老齢厚生年金を受給している ②老齢国民年金を減額受給している
③遺族年金を受給している ④障害年金を受給している
⑤まだ公的年金は受給していない

N-1 あなたが、いま加入している公的年金はどれですか
①年間を通じて国民年金の掛け金を払っている
②夏場は厚生年金を引かれていて、冬は国民年金の掛け金を払っている
③夏場は厚生年金を引かれていて、冬は年金をかけていない
④年間を通じて公的年金をまったくかけていない ⑤わからない

N-2 あなたが、いま加入している公的年金はどれですか
①年間を通じて国民年金の掛け金を払っている
②夏場は厚生年金を引かれていて、冬は国民年金の掛け金を払っている
③夏場は厚生年金を引かれていて、冬は年金をかけていない
④年間を通じて公的年金をまったくかけていない ⑤わからない

N-3 すでに年金を受給している方は、1ヶ月あたりの年金額はどれくらいですか
①5万円未満 ②5万円～10万円未満 N3
③10万円～15万円未満 ④15万円～20万円未満 ⑤20万円以上

【労働組合(建交労や全労連)に何を一番やってほしいですか。自由にお書きください】

ご協力ありがとうございました

資料III-2 「2007年度調査」調査票

建設政策研究所は、建設労働者の労働条件の改善や社会的地位の向上などを活動の目的としたNPO法人です。今回の調査は、「90日会」と建交労からの委託で、皆さんの仕事や生活の実態を明らかにして、政策につなげていくことを目的にしています。お忙しいところ大変恐縮ですが、ご理解とご協力を賜りますようお願いいたします。

川村雅則(北海学園大学教員、建設研道センター理事長)

「季節労働者の仕事・生活・健康に関する調査」

回答方法：選択回答については、当てはまる番号(丸数字)1つだけに○をつけて下さい。但し、複数回答の設問については、当てはまる全てに○をつけて下さい。[]内には数字等を記入して下さい。

I. はじめに、あなたのことについて教えてください。

- 1. あなたの性別は ①男性 ②女性
2. あなたの年齢は [] 歳
3. あなたの住んでいる地域は [] 市区町村名をお書き下さい

II. あなた自身の現在のお仕事の状況について教えてください。

- 1. 現在、お仕事はされていますか(アルバイトや日雇いも含みます)。
①働いている ②全く働いていない ③全く働いていないが求職中 ④働きながら求職中
以下、現在のお仕事についてお聞きします。「全く働いていない方」は次頁のⅢへ進んでください。

2. 現在の雇用形態・就業形態は(仕事をかけもちされている方は、当てはまる全てに○を)

- ①正社員 ②1人親方 ③季節雇用 ④本州への出張 ⑤道内遠隔地への出張
⑥契約社員 ⑦嘱託 ⑧臨時 ⑨パートタイマー ⑩アルバイト ⑪派遣
⑫シルバー人材センターに登録 ⑬農業(自営) ⑭その他 []

3. 現在、働いている業界・業種は次のどれですか。

- ①建設業 ②製造業 ③農業 ④林業 ⑤その他 []

4. 現在の職種は次のどれですか。

- ①普通作業員(土木・雑役) ②大工 ③型枠工 ④左官 ⑤鉄筋工 ⑥鉄骨工
⑦トビ ⑧塗装工 ⑨建具・サッシュ工 ⑩運転(専属) ⑪重機・オペレーター
⑫配管工 ⑬造園 ⑭その他 []

5. 現在の勤め先の規模は ①1~5人 ②6~10人 ③11~20人 ④21~30人 ⑤31人以上

6. 今年の1月から7月までの位働きましたか。それぞれの月について、働いた日数を書いて下さい。また、出稼ぎで働いている方は、そのうち出稼ぎで働いた日数を下の段に書いて下さい。

Table with 7 columns (1月-7月) and 2 rows (就業日数, うち出稼ぎ日数)

下段は出稼者のみ

7. 雇用保険についてお聞きします。

- a. あなたは、現在、勤め先で、雇用保険に加入していますか。
①加入している ②加入していない ③わからない
b. 加入している方は、いつから(何月から)雇用保険に加入していますか。
① [] 月から加入 ②通年で加入

8. 50日の一時金についてお聞きします。

- a. 昨年(2006年度)は一時金をもらえましたが。
①もらえた ②日数が足りずもらえなかった ③通年で働いていた ④その他
b. 今年は一時金をもらえる見通しはありますか。
①もらえそう ②もらえなさそう ③わからない ④通年で働いている ⑤その他

9. 賃金についてお聞きします。

- a. 支払い形態は ①月の固定給 ②日給月給 ③日払い ④時給
b. 基本日額は [] 円
c. 昨年(2006年)の ①100万円未満 ②100~149万円 ③150~199万円 ④200~249万円
年間の賃金収入は ⑤250~299万円 ⑥300~349万円 ⑦350~399万円 ⑧400万円以上

10. ふだんの1日の労働時間(残業などを含む)は [] 時間位

11. 仕事上での問題状況について、当てはまる全てに○をつけて下さい。

- ア. 仕事の量(就労日数)が減っている イ. 仕事の見通しが立たない ウ. 雇用期間が短い
エ. 賃金が安い オ. 労働時間が長い カ. 体力的につづき キ. 職場の人間関係がよくない
ク. その他 []

Ⅲ. 世帯の収入状況、年金などについて教えてください。

- 1. 現在のお住まいについてお聞きします。
a. お住まいの種類は ①持ち家・分譲マンション ②賃貸住宅・マンション ③公営住宅
④その他 []
b. 毎月の住宅ローンは ①支払い終了 ②現在も支払っている ⇒ 毎月 [] 万円
2. 現在、あなたを含めて何人暮らしですか。
①1人暮らし ②2人 ③3人 ④4人 ⑤5人 ⑥6人以上
3. 一緒に暮らしている家族の中で、働いているひとはいますか(当てはまる全てに○を)。
ア. 配偶者(夫あるいは妻) イ. 子ども ウ. 親 エ. その他 []

4. あなたの就労収入や年金収入以外で、世帯の収入源は(当てはまる全てに○を)。

- ア. 家族の就労収入 イ. 家族の年金収入 ウ. 家賃など不動産収入 エ. 農業収入
オ. 家計を別にする家族・親戚からの援助・仕送り カ. その他 []

IV. あなたの健康について教えてください。

- あなたの現在の健康状態はどうですか。
①非常に健康である ②まあ健康である ③やや不調である
④非常に不調である ⑤健康であるとも不調であるともいえない
- 働いている方にお聞きします。あなたは普段の仕事でどの程度身体が疲れますか。
①とても疲れる ②やや疲れる ③あまり疲れない ④まったく疲れない ⑤どちらともいえない
- あなたは現在、持病（医師から診断されたもの）がありますか。
①ある ②ない
「ある」場合は、当てはまる全てに○を。
ア. 胃腸病 イ. 高血圧 ウ. 高脂血症 エ. 肝臓病 オ. 心臓病
カ. 糖尿病 キ. 腰痛 ク. その他 ()
- 次のような自覚症状はありますか。それぞれの症状について、①いつもある、②時々ある、③ない、④いずれかに○をつけて下さい。

	①いつも ある	②時々 ある	③ない
セキヤタンが一ヶ月以上続いている	①	②	③
息切れする	①	②	③
耳が聞こえにくい	①	②	③
耳なりがする	①	②	③
ユビ（ウラも裏も）が白くなる	①	②	③
夏でもユビや手が冷たい	①	②	③
ユビの感覚がにぶい	①	②	③
手や腕がしびれる	①	②	③
手や腕が痛い	①	②	③
ヒジが痛い	①	②	③
ヒジが十分曲がらない	①	②	③

V. 最後に、仕事や生活上のご苦労、要望などをご自由にお書き下さい。

.....

.....

.....

有難うございました。今後、聞き取りにご協力をいただける方や、仕事・生活・健康に関して不安のある方・相談を希望される方などは、お名前とご連絡先（電話番号）を記入して下さい。

お名前 _____

ご連絡先 _____

5. 公的年金についてお聞きします。

- あなたは現在、公的年金を受給していますか。
①受給している ②権利がつかず受給していない ③まだ年金をかけている
b. 受給している方 ⇒ 年間の合計額は _____ 万円
- あなたの加入している公的年金は次のどれですか。
①年間を通じて国民年金の掛け金を支払っている ②夏場は厚生年金、冬場は国民年金
③夏場は厚生年金、冬場は支払わず ④公的年金は一切入っていない ⑤わからぬ
- あなたは民間の年金保険に加入していますか ①加入している ②加入していない
- 健康保険についてお聞きします。
a. あなたの加入している健康保険は次のどれですか。
①年間を通じて市町村の国民健康保険 ②年間を通じて建設国保などの組合国保
③夏場は社会保険で冬は任意継続 ④夏場は社会保険で冬は国民健康保険
⑤夏場は社会保険で冬は家族の保険の扶養 ⑥夏場は社会保険で冬は無保険
⑦年間を通じて家族の保険の扶養 ⑧年間を通じて無保険
⑨わからない

b. 国保加入者の方だけに、保険料の支払い・滞納状況についてお聞きします。

- 現在、国保料の滞納はありますか ①滞納している ②していない
- 保険証の種類は
①正規保険証 ②短期保険証 ③資格証明書 ④届いていない
- 世帯全体の保険料は 年間で _____ 万円位
d. 保険料の負担は ①非常に厳しい ②まあ厳しい ③あまり厳しくない

8. 現在、生活上の不安はありますか ①ある ②ない

- 「ある」場合は、当てはまる全てに○を
ア. 生活費 イ. 失業・廃業、倒産等 ウ. 職場の人間関係
エ. 家族との人間関係 オ. 子育て、教育費 カ. 結婚
キ. 住宅問題 ク. 自分や家族の健康 ケ. 医療費
コ. 老後の生活設計 サ. 介護問題 シ. その他 ()

9. 生活保護についてお聞きします。

- 現在を含め、これまで生活保護を受けたことがありますか。
①現在受けている ②現在は受けていないが過去に受けた経験がある ③受けた経験はない
- 現在、生活保護の受給を希望していますか。
①希望している ②希望しない

10. 現在の暮らしの状態を総合的にみてどう感じていますか。

- ①大変苦しい ②やや苦しい ③普通 ④ややゆとりがある ⑤大変ゆとりがある